

平成 1 8 年
福島県感染症発生動向調査事業報告書
(平成 1 8 年 1 月 ~ 1 2 月)

平成 1 9 年 3 月

福島県感染症情報センター
(福島県衛生研究所)
福島県感染症情報解析委員会

は　じ　め　に

感染症発生動向調査は、平成１１年４月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されています。

福島県においても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成１３年７月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってきました。

情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、県民の皆様に広く情報提供を行っております。

昨年４月、感染症の報告及び情報還元の迅速化・効率化などを目的に、新しい感染症サーベイランスシステムが導入されました。システムの変更等の作業が必要でしたが、関係機関のご協力により円滑に対応することができました。

平成１８年には、福島県のつつが虫病の届出件数が、昨年に引き続き全国最多となりました。また、全国では狂犬病の３６年ぶりの国内発症があり、さらにノロウイルスによる集団感染事例が多数報告されるなど、感染症対策の重要性が再認識された年となりました。

このたび、平成１８年の事業報告書を発行することになりました。発行に際し、定点医療機関をはじめ関係機関のご協力に深く感謝申し上げます。また、本報告書を広くご活用いただき、県民の感染症予防に役立ていただければ幸いです。

平成１９年３月

福島県衛生研究所長　西田茂樹

目 次

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

(1) 福島県感染症発生動向調査事業実施概要	3
(2) 福島県感染症情報センターの概念図	4

福島県感染症発生動向調査事業一～五類感染症全数把握及び五類感染症定点把握対象報告

(1) 一～五類感染症【全数把握】対象結果報告	7
(2) 一～五類感染症【全数把握】報告調査結果（福島県・全国）	12
(3) 五類感染症【定点把握】対象結果報告	13

検査情報

(1) 2006 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）	45
(2) 2006 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）	53
(3) 2005/2006 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について	61

福島県感染症発生動向調査事業実施概要

福島県結核・感染症発生動向調査事業の実施概要

1 実施体制

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌 資料に掲げるとおりである。

(2) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点；小児科：48 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1（59）から（71）までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する。〕、インフルエンザ：80 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1（72）については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。〕、眼科：12 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1（73）及び（74）については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする。〕、STD：16 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1（75）から（78）については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする。〕、基幹：7 定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表 1（79）から（86）については、患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各 2 次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする。〕、及び病原体定点：21 医療機関〔各選定された患者定点の概ね 10%を病原体定点とする。〕を選定する。

(3) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

(4) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

2 実施状況

(1) 情報収集

ア 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は対象月の翌月の初日までに、FAX 等で保健所に送信する。

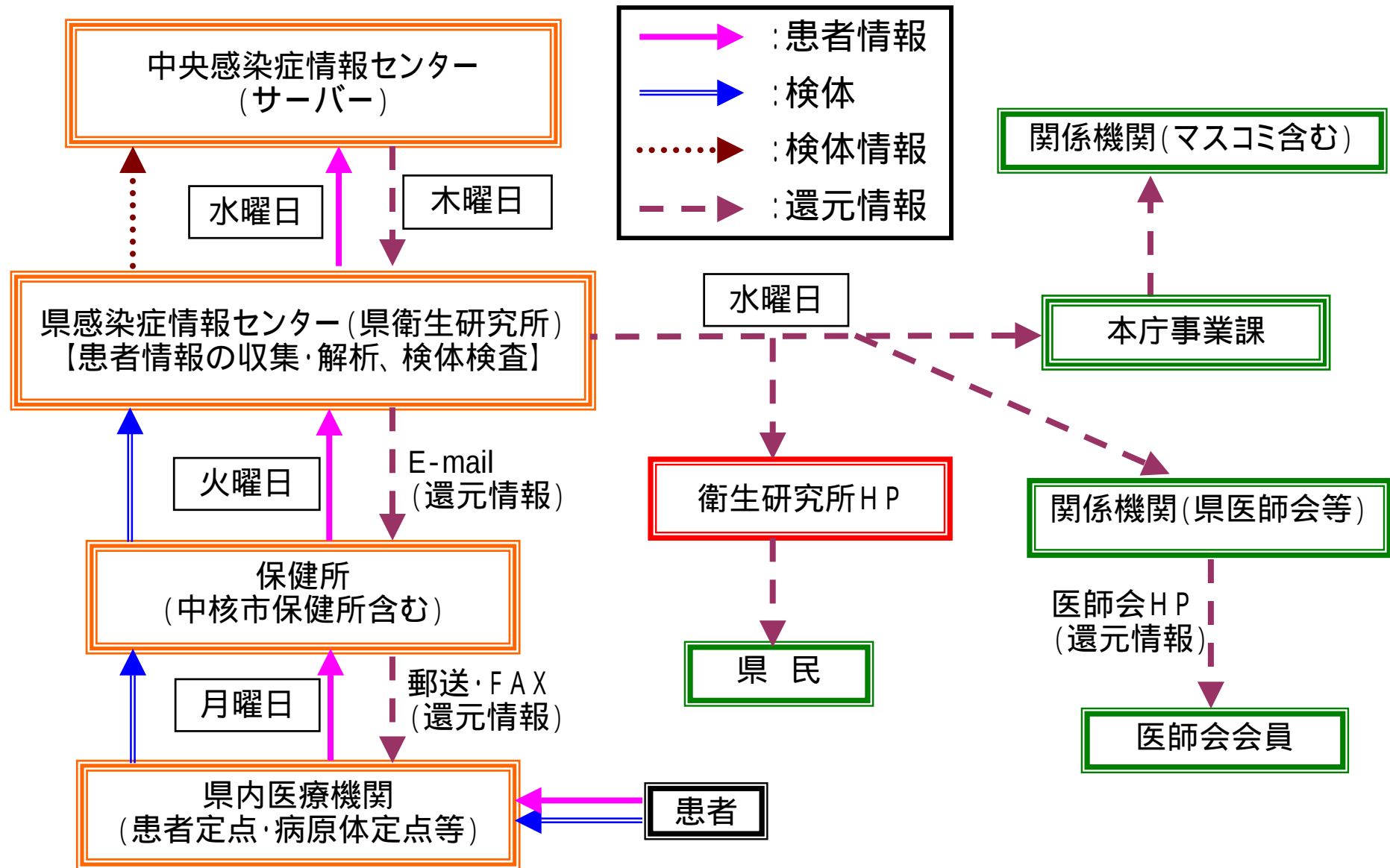
保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護グループに報告する。

(2) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

感染症情報センターの概念図



**感染症発生動向調査事業一～五類感染症
全数把握及び五類感染症定点把握対象報告**

(1) 一 ～ 五類感染症全数把握対象結果報告

● 一類感染症〔全数把握〕

(1)エボラ出血熱 , (2)クリミア・コンゴ出血熱 , (3)重症急性呼吸器症候群(病原体が SARS コロナウイルスであるものに限る .) , (4)痘そう , (5)ペスト , (6)マールブルグ病 , (7)ラッサ熱の一類感染症は , とともに報告はなかった .

● 二類感染症〔全数把握〕

(9)細菌性赤痢の報告(疑似症での届出) は 1 例あり , 11 週に郡山市 (40 歳代 : インド , 台湾等への渡航歴有り) から報告があった .

・ 細菌性赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18 年	1 例	不明
17 年	3 例	不明〔 1 例(<i>Shigella sonnei</i>) , 1 例(型不明) 〕 , 経口感染〔 1 例(<i>Shigella sonnei</i>) : アメリカ・メキシコへの渡航歴有り , 飲食物 (不明) 〕
16 年	3 例	不明 (3 例)

(8)コレラ , (10)急性灰白髄炎 , (11)ジフテリア , (12)腸チフス , (13)パラチフスの報告は , とともになかった .

● 三類感染症〔全数把握〕

(14)腸管出血性大腸菌感染症の報告は 58 例あった . いわき市で保育園での集団発生が 1 件あった .

・ 腸管出血性大腸菌感染症年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県 北	郡山市	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき市	計
18 年	4	6	6	5	2	0	3	32	58
17 年	3	12	5	0	0	0	3	1	24
16 年	9	54	14	0	2	0	3	2	84

〔月別報告数〕

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
18 年	0	0	1	0	1	2	7	12	5	30	0	0	58
17 年	0	2	0	0	1	2	1	9	7	1	1	0	24
16 年	1	0	1	2	8	0	10	12	16	3	27	4	84

〔型別報告数〕

型	18 年	17 年	16 年
O 26	5	7	28
O 103	3	0	0
O 111	1	1	31
O 157	49	16	24
不明	0	0	1
計	58	24	84

● 四類感染症〔全数把握〕

- (15) E 型肝炎, (16) ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む), (17) A 型肝炎, (18) エキノコックス症, (19) 黄熱の報告は, ともになかった.
- (20) オウム病の報告は 1 例あり, 4 週に県北 (30 歳代: 推定感染源, 感染経路は不明) から報告があった.
- (21) 回帰熱, (22) Q 熱, (23) 狂犬病, (24) 高病原性鳥インフルエンザ, (25) コクシジオイデス症, (26) サル痘, (27) 腎症候性出血熱, (28) 炭疽の報告は, ともになかった.
- (29) つつが虫病の報告は 45 例あり, 前期 (1 ~ 6 月) に 19 例〔県北 (7 例), 郡山市 (3 例), 県中 (4 例), 県南 (2 例), 会津 (1 例), 南会津 (2 例)], 後期 (7 ~ 12 月) に 26 例〔県北 (2 例), 郡山市 (3 例), 県中 (7 例), 県南 (14 例)] の報告があった.

・ つつが虫病年別報告状況

〔保健所別報告数〕

	県 北	郡山市	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき市	計
18 年	9	6	11	16	1	2	0	0	45
17 年	7	11	11	8	0	0	1	0	38
16 年	4	5	8	10	0	0	0	0	27

〔月別報告数〕

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
18 年	0	0	2	2	8	7	1	0	1	2	17	5	45
17 年	0	0	0	0	10	2	0	0	0	2	14	10	38
16 年	0	0	1	3	2	2	0	0	0	5	11	3	27

- (30) デング熱, (31) ニパウイルス感染症, (32) 日本紅斑熱, (33) 日本脳炎, (34) ハンタウイルス肺症候群, (35) B ウイルス病, (36) ブルセラ症, (37) 発しんチフス, (38) ボツリヌス症, (39) マラリア, (40) 野兔病, (41) ライム病, (42) リッサウイルス感染症, (44) レプトスピラ症の報告は, ともになかった.

(43) レジオネラ症の報告は4例あり、県北から2例〔31週(50歳代)、39週(50歳代)〕、郡山市から1例〔21週(70歳代)〕、県中から1例〔25週(60歳代)〕の報告があった。

・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	4例	塵埃感染(2例)、不明(2例)
17年	8例	不明(8例)
16年	6例	不明(6例)

・五類感染症〔全数把握〕

(45) アメーバ赤痢の報告は7例あり、県北から4例〔8週(40歳代)、9週(40歳代)、12週(40歳代)、43週(40歳代)〕、郡山市から1例〔50週(60歳代)〕、いわき市から2例〔15週(70歳代)、22週(60歳代)〕の報告があった。

・アメーバ赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	7例	性行為感染(1例)、不明(6例)
17年	2例	性行為感染(1例)、不明(1例)
16年	5例	経口感染(3例：内1例はヨルダンへの渡航歴有り)、不明(2例)

(46) ウイルス性肝炎〔A・E型を除く〕の報告は3例あり、14週にいわき市(C型、30歳代)、21週に郡山市(B型、40歳代)、39週に郡山市(C型、10歳代)から報告があった。

・ウイルス性肝炎〔A・E型を除く〕年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	3例	針等の鋭利なものの刺入による感染(2例)、不明(1例)
17年	2例	不明(2例)

(47) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎を除く)の報告は2例あり、県北から3週(幼児)と6週(幼児)に報告があった。

・急性脳炎年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	2例	インフルエンザ(2例)
17年	2例	水痘(1例)、インフルエンザ(1例)
16年	3例	経口感染(2例)、不明(1例)

(48) クリプトスポリジウム症の報告はなかった。

(49) クロイツフェルト・ヤコブ病の報告は3例あり、3週に郡山市(80歳代)、21週にいわき市(80歳代)、52週に県北(70歳代)から報告があった。

・クロイツフェルト・ヤコブ病年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	3例	ヒト乾燥硬膜(1例)、不明(2例)
17年	2例	ヒト乾燥硬膜(1例)、不明(1例)
16年	2例	不明(2例)

(50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告は2例あり、9週に県中(80歳代)、27週に郡山市(40歳代)から報告があった。

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	2例	不明(2例)
17年	3例	不明(3例)
16年	4例	不明(4例)

(51) 後天性免疫不全症候群の報告は9例あり、3週にいわき市(30歳代：女性、無症候期)、11週に県北2名(40歳代：男性、AIDS)、(50歳代：男性、AIDS)、いわき市(30歳代：男性、無症候期)、13週に郡山市(30歳代：男性、AIDS)、15週に県北(30歳代：男性、無症候期)、16週に郡山市(50歳代：男性、AIDS)、28週に郡山市(20歳代：男性、無症候期)、48週に郡山市(60歳代：男性、AIDS)から報告があった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18年	9例	性的接触(異性間性的接触3例、同性間性的接触2例、異性間・同性間性的接触2例)、輸血(1例)、不明(1例)
17年	3例	性的接触(異性間性的接触1例、異性間・同性間性的接触1例)、不明(1例)
16年	4例	性的接触[異性間性的接触1例、同性間性的接触2例、異性間・同性間性的接触1例(タイ国籍)]

(52) ジアルジア症、(53) 髄膜炎菌性髄膜炎、(54) 先天性風しん症候群の報告は、ともになかった。

(55) 梅毒の報告は3例あり、5週に会津(60歳代、無症候梅毒)、36週にいわき市(80歳代、無症候梅毒)、51週に郡山市(10歳代、早期顕性梅毒)から報告があった。

・梅毒年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
18 年	3 例	性的接触（2 例）, 不明（1 例）
17 年	6 例	性的接触（5 例）, 輸血（1 例）
16 年	5 例	性的接触（4 例）, 不明（1 例）

（56）破傷風の報告は 1 例あり，30 週に郡山市（50 歳代，推定感染経路はハチによる刺創）から報告があった．

（57）バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症，（58）バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告は，ともになかった．

(2) 全数把握報告調査結果

対 象 疾 患		全 国			福 島 県		
		平成18年(*)	平成17年(*)	平成16年	平成18年	平成17年	平成16年
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	重症急性呼吸器症候群 (S A R S)						
	痘そう						
	ペスト						
	マールブルグ病						
	ラッサ熱						
二類	急性灰白髄炎						
	コレラ	47	54	86		1	
	細菌性赤痢	483	556	594	1	3	3
	ジフテリア						
	腸チフス	72	50	67			
	パラチフス	24	18	88			
三類	腸管出血性大腸菌感染症	3,910	3,567	3,715	58	24	84
四類	E型肝炎	70	40	37			
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎含む)		1				
	A型肝炎	316	168	139			7
	エキノコックス症	20	18	26			
	黄 熱						
	オウム病	22	34	40	1	1	
	回帰熱						
	Q熱	2	8	7			
	狂犬病	2					
	高病原性鳥インフルエンザ						
	コクシジオイデス症	2	5	5			
	サル痘						
	腎症候性出血熱						
	炭疽						
	つつが虫病	397	325	313	45	38	27
	デング熱	57	73	49			
	ニパウイルス感染症						
	日本紅斑熱	45	62	66			
	日本脳炎	7	7	5			
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
	ブルセラ症	5	2				
	発しんチフス						
	ボツリヌス症	2	3				
	マラリア	61	66	75		1	
	野兔病						
	ライム病	13	8	5			1
	リッサウイルス感染症						
	レジオネラ症	508	276	161	4	8	6
	レプトスピラ症	24	15	18			
五類	アメーバ赤痢	738	680	610	7	2	5
	ウイルス性肝炎 (A型及びE型を除く)	275	277	293	3	2	
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎・日本脳炎を除く)	160	180	166	2	2	3
	クリプトスポリジウム症	14	9	92			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	177	147	176	3	2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	107	60	52	2	3	4
	後天性免疫不全症候群	1,301	1,161	1,162	9	3	4
	ジアルジア症	87	81	94			1
	髄膜炎菌性髄膜炎	14	10	21			
	先天性風しん症候群		2	10			
	梅毒	625	555	533	3	6	5
	破傷風	115	114	101	1		3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	79	65	58			

(*) 全国の平成17年、平成18年のデータは未確定です

(3) 平成 18 年五類感染症定点把握対象結果報告

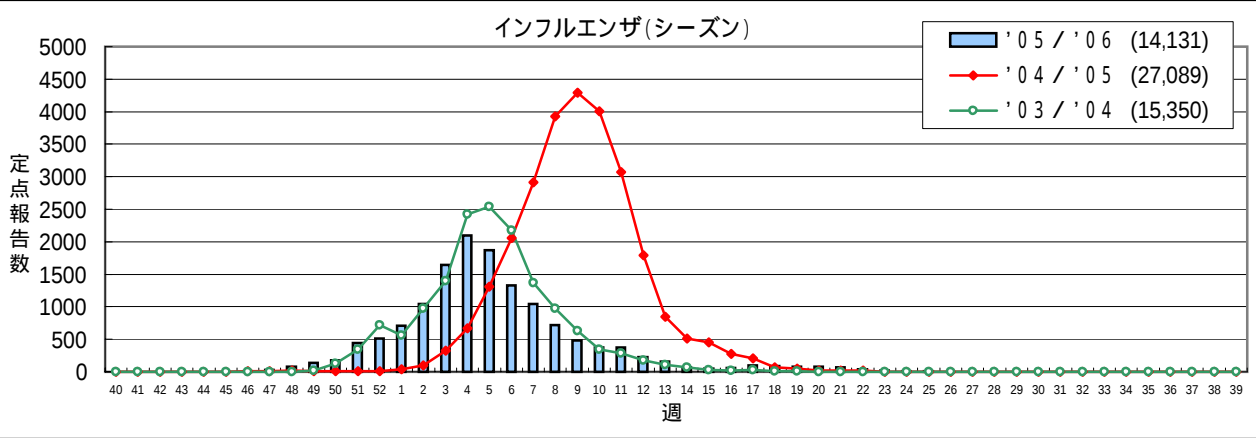
● 五類感染症対象疾患（定点把握）

(72)	インフルエンザ〔高病原性鳥インフルエンザを除く〕 (80 インフルエンザ定点：32 内科定点，48 小児科定点)	週報対象疾患
(59)	RS ウイルス感染症 (48 小児科定点)	
(60)	咽頭結膜熱 (48 小児科定点)	
(61)	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48 小児科定点)	
(62)	感染性胃腸炎 (48 小児科定点)	
(63)	水痘 (48 小児科定点)	
(64)	手足口病 (48 小児科定点)	
(65)	伝染性紅斑 (48 小児科定点)	
(66)	突発性発しん (48 小児科定点)	
(67)	百日咳 (48 小児科定点)	
(68)	風しん (48 小児科定点)	
(69)	ヘルパンギーナ (48 小児科定点)	
(70)	麻疹 (48 小児科定点)	
(71)	流行性耳下腺炎 (48 小児科定点)	
(73)	急性出血性結膜炎 (12 眼科定点)	
(74)	流行性角結膜炎 (12 眼科定点)	
(79)	クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕 (7 基幹定点)	
(80)	細菌性髄膜炎 (7 基幹定点)	
(82)	マイコプラズマ肺炎 (7 基幹定点)	
(83)	成人麻疹 (7 基幹定点)	
(84)	無菌性髄膜炎 (7 基幹定点)	
(75)	性器クラミジア感染症 (16 STD 定点)	月報対象疾患
(76)	性器ヘルペスウイルス感染症 (16 STD 定点)	
(77)	尖圭コンジローマ (16 STD 定点)	
(78)	淋菌感染症 (16 STD 定点)	
(81)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (7 基幹定点)	
(85)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7 基幹定点)	
(86)	薬剤耐性緑膿菌感染症 (7 基幹定点)	

● 五類感染症（定点把握）患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD 定点
県 北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県 中	6	4	1	0	2
県 南	4	3	1	1	1
会 津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相 双	5	3	1	1	2
いわき市	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16

(72)インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)



インフルエンザ (80インフルエンザ定点)

05/06シーズンの定点報告数は、14,131例あり、昨シーズンの約半分の報告数であった。'06年12月から県北、いわき市を中心に流行が始まり、第48週に流行開始宣言をした。その後、県内各地域に流行が拡大し、第4週のピーク以降、第15週まで減少したが、第16週以降、再び報告数の増加が認められ、第22週に終息となった。
年齢構成では、10歳未満が5割以上(54.6%)を占めた。



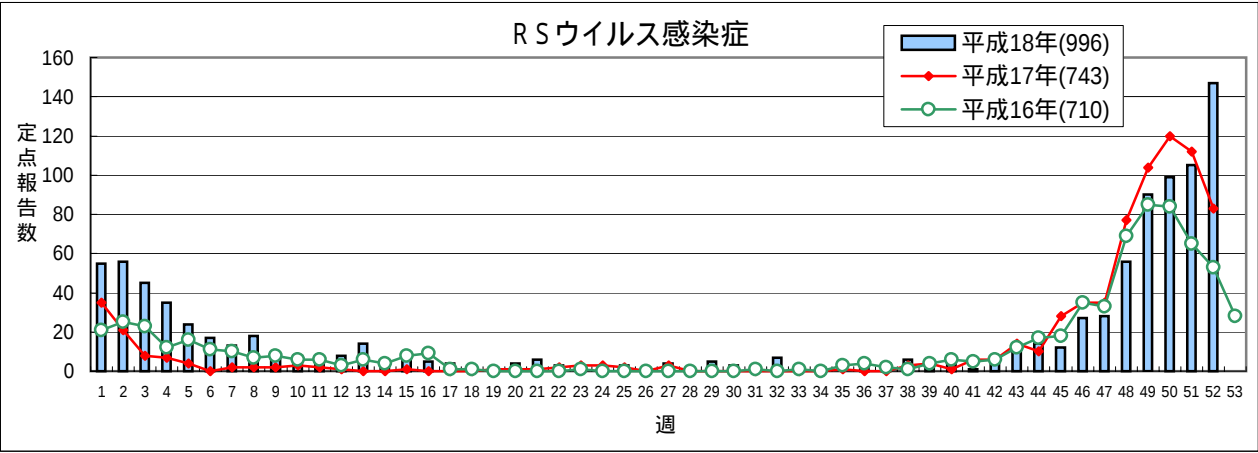
05 / 06シーズン 報告数

週	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w
県北	0	0	0	0	0	3	10	18	43	68	54	83	118	127	143	241	384	479	394	237	170	146	143	192	122	83	32
郡山市	0	0	0	0	0	1	0	3	6	11	20	76	75	99	208	388	490	425	280	270	179	135	96	73	21	14	8
県中	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	21	17	43	77	157	273	157	89	84	76	55	15	6	5	10	6
県南	0	0	0	0	1	0	1	0	4	15	25	46	46	101	188	279	308	225	152	104	91	38	24	27	19	15	8
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	16	34	52	80	164	255	184	191	118	59	70	50	42	29	14
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	7	20	40	29	50	28	23	19	10	12	13	6	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	15	75	75	169	157	193	161	122	67	20	14	9	2	2	2	0	0
いわき市	0	0	0	0	1	0	0	6	27	40	63	136	159	133	209	285	272	178	111	109	43	17	13	11	1	2	0
05 / 06	0	0	0	0	2	4	11	30	81	141	181	442	508	708	1041	1643	2092	1870	1327	1043	714	478	373	373	225	159	68
04 / 05	0	0	3	0	1	0	5	10	21	11	11	11	6	35	102	325	667	1307	2060	2918	3926	4293	4006	3066	1788	849	512
03 / 04	0	0	0	0	0	0	1	1	4	16	126	342	716	562	979	1402	2424	2544	2180	1369	971	634	348	282	176	105	68
週	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	合計	
県北	28	30	41	25	15	14	5	4	2	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,427
郡山市	10	19	46	38	35	27	24	14	14	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,101
県中	3	2	2	2	13	15	15	9	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,155
県南	0	3	5	26	12	7	13	8	0	4	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,791
会津	5	3	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,365
南会津	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	263
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,091
いわき市	0	3	2	0	4	12	13	4	5	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1,870
05 / 06	46	60	97	92	79	81	70	39	24	13	6	2	0	3	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	14,131
04 / 05	454	276	208	70	47	23	22	23	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27,089
03 / 04	27	21	30	11	6	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	15,350

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～	合計
05 / 06	121	248	787	764	815	1010	1021	891	786	656	611	1911	730	939	1043	667	448	257	251	175	14,131
04 / 05	167	457	1451	1561	1771	2222	2338	2172	1640	1493	1409	3090	519	1457	1905	1202	905	524	468	338	27,089

(59)RSウイルス感染症



RSウイルス感染症（48小児科定点）

定点からの年間報告数は996例あり、昨年末からの流行に引き続き、1月に県北、郡山市、県南、相双を中心に流行が見られた。また、11月頃から県北、郡山市を中心に流行が始まり、その後、県南、相双でも流行が見られた。

年齢構成では、1歳までの報告が約8割（78.0%）を占めた。

少ない  多い

平成18年 報告数

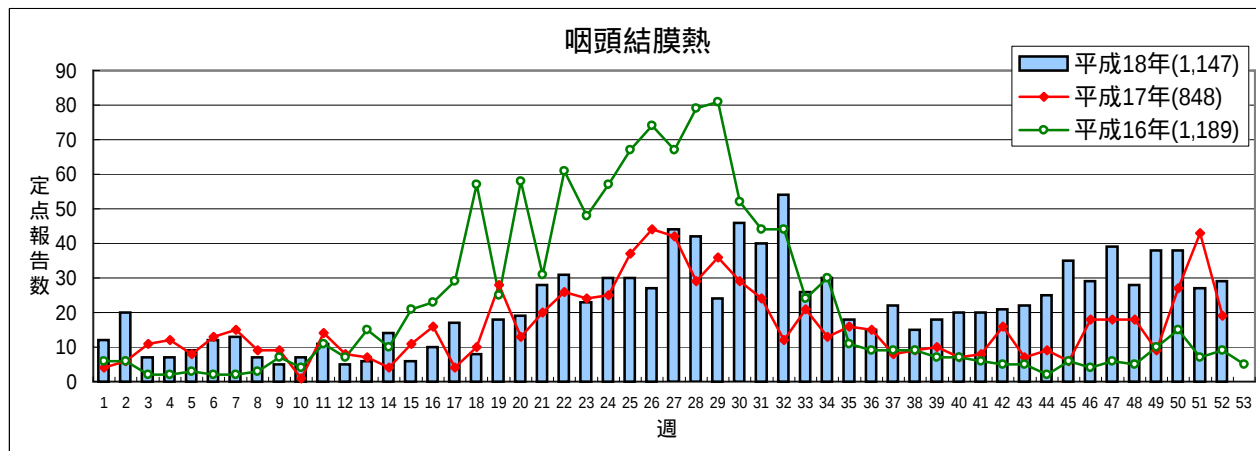
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北 郡山市 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき市	13	15	18	15	7	5	5	4	1	0	4	1	0	2	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	10	11	14	5	4	1	4	4	1	4	1	1	11	0	1	1	1	1	1	2	4	2	1	1	1	1	1
	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10	8	3	9	5	3	1	6	2	2	2	2	1	2	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	14	10	7	5	3	5	3	4	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	3
	6	11	2	0	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	55	56	45	35	24	17	13	18	7	8	7	8	14	4	8	5	4	2	2	4	6	3	1	2	3	1	4
H17	35	21	8	7	4	0	2	2	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	2	3	3	2	0	3
H16	21	25	23	12	16	11	10	7	8	6	6	3	6	4	8	9	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北 郡山市 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	2	5	4	7	14	11	19	20	30	30	65	308	
	0	4	2	1	3	0	2	0	2	1	2	3	2	1	2	5	7	5	8	5	9	16	33	32	34	268	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	15	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	8	12	26	27	27	38	203	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	11	
	1	1	0	0	4	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	2	1	0	3	4	15	25	6	13	8	153	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	2	0	33	
H18	1	5	3	1	7	0	2	0	4	4	6	3	4	1	7	14	14	12	27	28	56	90	99	105	147	996	
H17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4	1	6	6	14	10	28	35	35	77	104	120	112	83	743	
H16	0	0	0	1	0	1	0	3	4	2	1	4	6	5	6	12	17	18	35	33	69	85	84	65	53	710	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	211	260	306	106	65	26	14	4	3	0	1	0	0	0	996
H17	188	202	196	96	33	15	11	2	0	0	0	0	0	0	743

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「28」

(60)咽頭結膜熱



咽頭結膜熱（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,147例あり、5月中旬頃から郡山市、相双を中心に流行が見られ、その後、県北、いわき市にも流行が拡大した。県北、郡山市、いわき市の流行は、52週まで断続的に続いた。

年齢構成では、1～4歳の報告が約7割(72.6%)を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

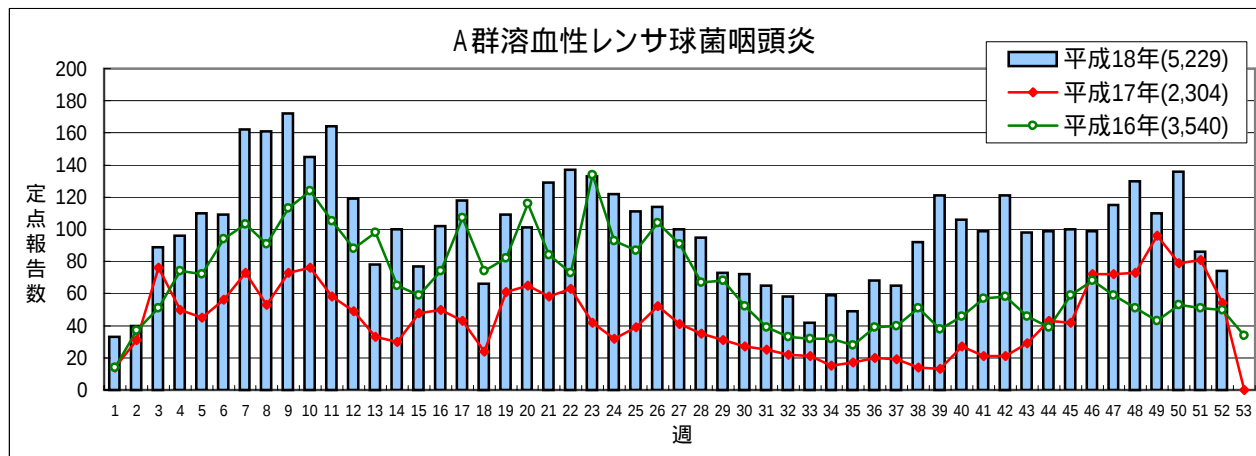
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	5	5	3	3	5	6	4	0	0	1	1	1	2	0	1	1	0	1	0	1	0	2	3	3	1	8	4
郡山市	2	10	0	0	2	0	2	2	1	3	7	2	3	8	2	3	10	2	4	11	12	12	7	9	11	6	8
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	9	0	1	0	0	1	2	3	5
県南	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	2	2	1
会津	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	0	3	2	3	2	1	1	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	1	3	1	3	2	3	2	2	3	3	1	0	1	0	1	0	3	1	2	3	8	6	3	10	6	4	17
いわき市	2	0	3	0	0	3	5	1	1	0	1	1	0	4	1	3	4	3	2	4	2	8	4	2	7	3	9
H18	12	20	7	7	9	12	13	7	5	7	11	5	6	14	6	10	17	8	18	19	28	31	23	30	30	27	44
H17	4	6	11	12	8	13	15	9	9	1	14	8	7	4	11	16	4	10	28	13	20	26	24	25	37	44	42
H16	6	6	2	2	3	2	2	3	7	4	11	7	15	10	21	23	29	57	25	58	31	61	48	57	67	74	67
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	8	6	12	9	10	7	9	0	0	4	2	4	2	6	5	6	9	8	4	10	8	22	13	10	6	241	
郡山市	9	6	3	6	7	6	4	4	5	5	2	2	5	4	6	4	8	5	6	8	7	4	3	3	12	273	
県中	2	0	1	2	2	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	2	1	1	2	0	1	0	6	1	0	52	
県南	3	1	1	4	5	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	3	1	0	44	
会津	3	1	5	2	1	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	2	3	2	54	
南会津	0	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	1	0	0	16	
相双	8	5	12	3	7	2	5	2	5	1	3	4	0	1	1	1	1	2	3	4	2	5	4	5	4	179	
いわき市	9	4	12	14	22	6	6	9	5	12	8	6	13	7	8	9	6	17	10	13	1	3	6	4	5	288	
H18	42	24	46	40	54	26	30	18	15	22	15	18	20	20	21	22	25	35	29	39	28	38	38	27	29	1,147	
H17	29	36	29	24	12	21	13	16	15	8	9	10	7	8	16	7	9	6	18	18	18	9	27	43	19	848	
H16	79	81	52	44	44	24	30	11	9	9	9	7	7	6	5	5	2	6	4	6	5	10	15	7	9	1,189	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	6	46	187	157	153	186	150	76	51	39	25	49	5	17	1,147
H17	13	72	132	137	127	104	81	58	35	26	17	27	3	16	848

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「5」

(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は5,229例あり、昨年(平成17年)の2倍以上の報告数であった。県内全域で継続または断続した流行が見られ、年間をとって流行が続いた。

年齢構成では、4～7歳の報告が多く、5割以上(54.3%)を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

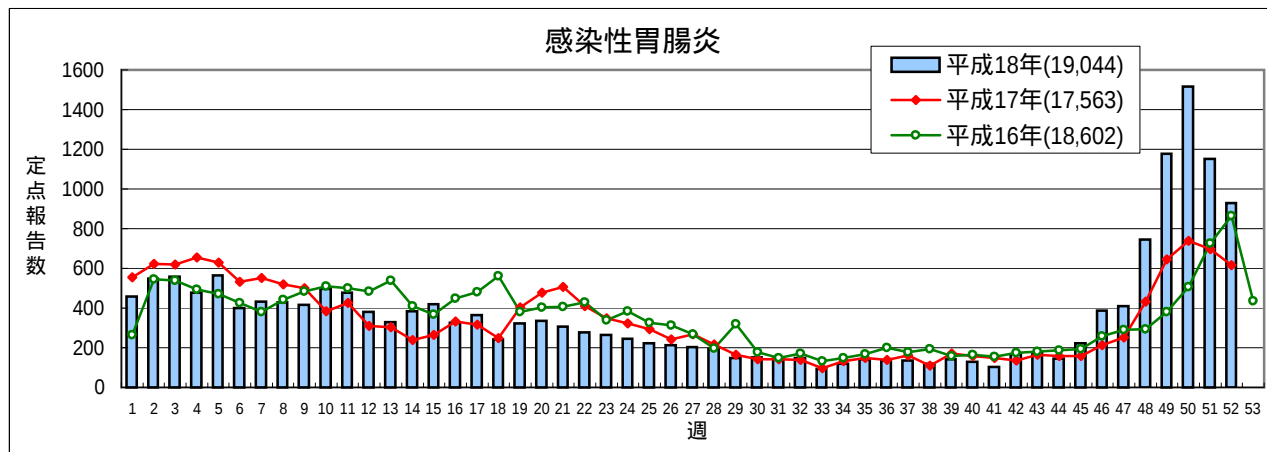
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	7	10	19	15	9	30	36	25	41	37	39	30	13	23	19	29	36	25	35	33	42	55	46	43	45	49	34
郡山市	9	10	22	27	34	31	37	34	49	28	39	29	18	29	12	15	14	13	27	19	24	10	12	9	11	5	2
県中	2	1	5	1	1	4	8	2	11	6	9	8	4	13	10	12	15	3	5	11	10	10	6	6	3	3	6
県南	5	3	9	20	27	21	31	35	25	26	22	13	6	3	4	11	7	2	7	4	14	8	16	13	12	19	21
会津	0	0	4	5	5	3	8	15	7	13	8	6	1	6	7	14	8	6	7	9	8	21	18	13	14	4	11
南会津	2	0	2	4	1	1	0	2	2	2	1	0	1	0	0	0	3	0	3	0	0	0	1	0	1	4	1
相双	5	3	6	6	5	8	20	8	10	18	17	10	12	12	7	6	14	6	8	8	10	13	6	14	11	12	15
いわき市	3	13	22	18	28	11	22	40	27	15	29	23	23	14	18	15	21	11	17	17	21	20	28	24	14	18	10
H18	33	40	89	96	110	109	162	161	172	145	164	119	78	100	77	102	118	66	109	101	129	137	133	122	111	114	100
H17	14	31	76	50	45	56	73	53	73	76	58	49	33	30	48	50	43	24	61	65	58	63	42	32	39	52	41
H16	14	37	51	74	72	94	103	91	113	124	105	88	98	65	59	74	107	74	82	116	84	73	134	93	87	104	91
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	44	32	31	30	32	20	25	26	24	41	57	74	74	74	76	53	73	69	42	54	66	43	49	30	28	1,992	
郡山市	4	5	4	3	3	2	2	0	1	4	1	14	8	8	6	5	4	4	4	5	10	1	3	2	4	676	
県中	2	3	3	5	4	3	5	1	6	1	4	3	0	3	2	5	3	1	2	1	7	9	8	4	7	267	
県南	13	4	6	4	1	2	3	2	4	3	11	5	0	3	7	8	6	5	5	10	12	4	14	11	7	534	
会津	12	6	5	7	5	0	7	9	7	2	0	2	7	3	11	6	2	6	13	15	20	18	18	16	10	428	
南会津	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	41	
相双	10	12	18	4	7	12	7	8	21	8	11	8	7	2	8	11	5	6	18	14	8	14	10	7	5	511	
いわき市	10	10	5	11	6	3	9	3	5	5	7	15	10	6	10	10	6	9	15	14	6	21	34	15	13	780	
H18	95	73	72	65	58	42	59	49	68	65	92	121	106	99	121	98	99	100	99	115	130	110	136	86	74	5,229	
H17	35	31	27	25	22	21	15	17	20	19	14	13	27	21	21	29	43	42	72	72	73	96	79	81	54	2,304	
H16	67	68	52	39	33	32	32	28	39	40	51	38	46	57	58	46	39	59	68	59	51	43	53	51	50	3,540	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	4	44	215	322	452	768	824	693	552	407	299	517	35	97	5,229
H17	2	7	74	118	213	384	467	372	214	144	99	177	7	26	2,304

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「34」

(62) 感染性胃腸炎



感染性胃腸炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は19,044例あり、10月までの報告数は例年どおりの推移であったが、11月頃から報告数が急増し、12月以降県内全域で流行が続いた。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで2歳、3歳、4歳、5歳の報告が多かった。

少ない 多い

平成18年 報告数

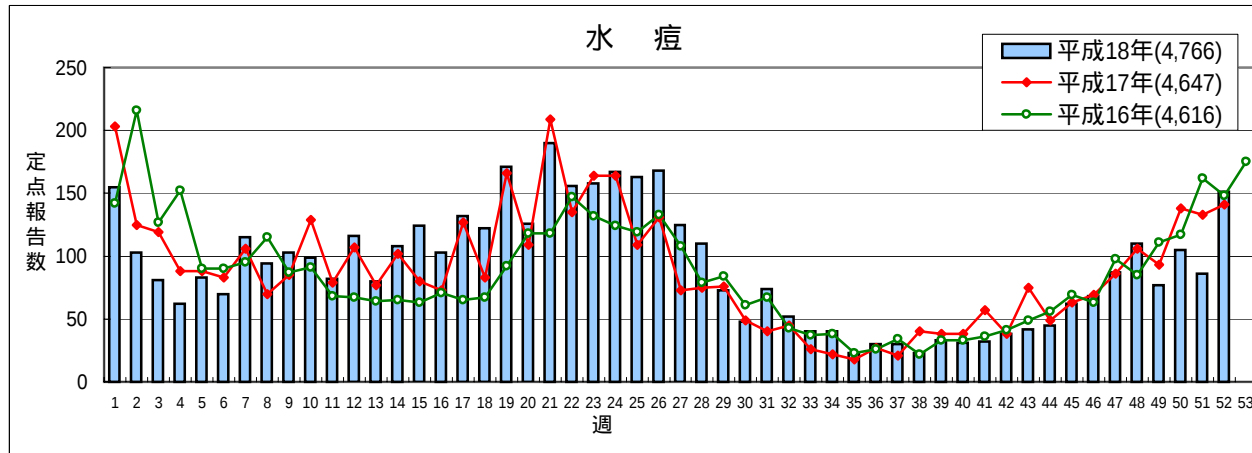
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	46	55	75	69	81	43	55	36	37	81	77	65	69	76	68	46	54	29	57	35	36	29	38	31	33	32	27
郡山市	46	78	91	50	66	26	43	53	54	49	57	38	44	37	47	44	51	20	37	30	38	36	18	46	21	17	19
県中	69	92	68	56	89	56	51	50	42	51	55	50	23	60	69	45	62	29	58	77	47	55	51	48	34	32	22
県南	46	44	44	58	78	48	44	33	30	30	37	24	21	20	20	29	26	25	24	22	15	12	9	9	11	7	13
会津	41	49	85	87	86	64	76	65	69	61	57	43	32	51	73	53	79	75	68	76	60	46	48	42	40	41	35
南会津	8	4	5	6	12	5	3	19	4	3	6	0	0	2	3	4	8	13	6	11	5	2	5	1	2	0	0
相双	121	138	115	91	90	94	91	83	83	108	81	74	47	65	70	55	67	38	51	70	67	75	64	52	59	61	59
いわき市	82	88	76	61	63	65	70	91	98	114	109	86	94	74	70	50	18	14	23	15	40	24	30	17	22	23	27
H18	459	548	559	478	565	401	433	430	417	497	479	380	330	385	420	326	365	243	324	336	308	279	263	246	222	213	202
H17	555	622	620	654	629	532	553	519	499	384	427	311	304	239	263	332	316	250	402	477	505	411	349	323	295	243	268
H16	266	546	538	492	472	425	382	443	484	511	500	485	538	410	367	449	481	561	380	404	407	429	338	383	326	313	269
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	38	23	23	19	20	19	22	16	29	22	26	28	17	19	25	27	21	41	56	52	113	151	262	256	212	2,917	
郡山市	13	18	18	18	14	6	10	10	9	20	3	20	14	13	29	29	24	25	71	91	112	131	201	131	121	2,307	
県中	32	7	5	14	26	15	17	28	20	27	16	15	29	13	12	28	17	33	92	53	96	112	170	140	105	2,563	
県南	8	3	6	5	2	1	3	5	3	3	2	7	5	6	9	9	15	21	18	20	37	121	105	89	73	1,355	
会津	25	30	43	24	26	12	26	29	35	27	33	24	15	21	30	25	25	27	56	66	121	152	184	149	102	2,909	
南会津	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	2	16	35	49	61	57	369	
相双	49	38	39	46	46	19	25	42	36	31	32	36	41	27	54	52	35	50	65	65	97	175	216	190	127	3,702	
いわき市	26	26	18	19	16	23	15	11	5	6	6	12	7	5	8	9	7	22	25	60	152	302	330	135	133	2,922	
H18	194	147	153	145	150	95	118	141	137	136	118	143	128	104	167	179	144	221	386	409	744	1179	1517	1151	930	19,044	
H17	217	166	141	143	139	97	131	147	139	161	109	172	158	149	134	164	157	159	213	253	433	645	740	697	617	17,563	
H16	198	318	179	148	172	131	148	167	200	176	193	158	164	155	174	182	188	195	259	291	292	381	507	726	866	18,602	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	203	1124	2618	1974	1763	1757	1684	1265	929	764	656	1938	390	1979	19,044
H17	275	1247	2584	1866	1744	1548	1368	1109	822	662	676	1701	299	1662	17,563

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「435」

(63)水痘



水痘（48小児科定点）

定点からの年間報告数は4,766例あり、5月から7月にかけて郡山市、会津を中心に流行が見られた。流行の季節推移は例年どおりの形となった。

年齢構成では、1～5歳の報告が多く、約8割（78.8%）を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

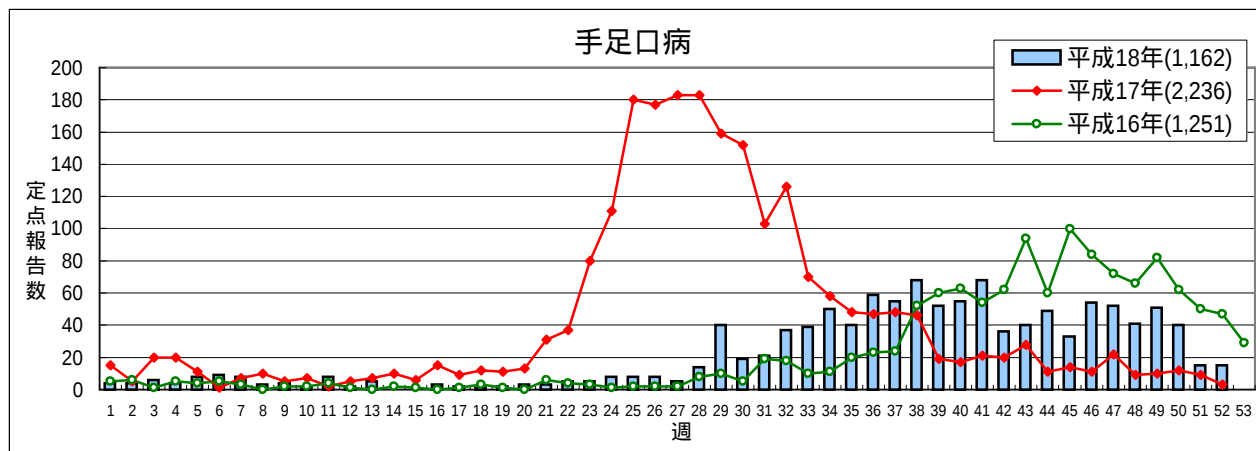
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県 北	38	20	11	17	11	6	18	13	16	11	9	17	13	22	19	14	16	15	29	25	25	19	17	14	31	27	21
郡山市	46	33	27	13	13	10	28	18	25	12	12	14	7	8	8	7	19	2	20	16	31	36	30	55	26	23	15
県 中	21	10	11	4	4	5	12	4	6	7	4	8	5	5	7	5	6	3	15	6	15	7	11	10	7	15	3
県 南	5	15	5	5	9	7	8	11	10	9	12	15	14	12	13	11	16	16	14	7	11	16	18	18	16	23	7
会 津	6	11	4	4	10	13	11	15	9	13	14	17	12	13	28	20	36	24	41	21	46	42	29	35	38	42	26
南会津	4	0	1	0	0	0	2	0	5	0	3	1	3	0	4	2	5	6	3	1	1	1	1	3	1	3	1
相 双	6	6	2	3	7	8	15	13	17	20	5	17	12	18	13	9	12	17	11	14	28	16	18	10	17	15	19
いわき市	29	8	20	16	29	21	21	20	15	27	23	27	14	30	32	35	22	39	38	36	33	19	34	22	27	20	33
H18	155	103	81	62	83	70	115	94	103	99	82	116	80	108	124	103	132	122	171	126	190	156	158	167	163	168	125
H17	203	125	119	88	88	83	106	70	85	129	79	107	77	102	80	73	127	83	166	109	209	135	164	164	109	131	73
H16	142	216	127	152	90	90	95	115	87	91	68	67	64	65	63	71	65	67	92	118	118	147	132	124	119	133	108
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県 北	19	8	10	10	10	5	2	5	1	5	1	8	5	12	5	11	10	10	15	19	26	14	15	14	17	751	
郡山市	13	20	5	19	4	1	7	3	6	1	5	4	8	6	8	4	4	11	3	10	4	5	9	9	18	741	
県 中	5	3	4	2	5	3	3	3	2	0	1	1	1	4	3	3	4	4	12	6	13	10	11	15	18	352	
県 南	19	8	3	11	5	5	3	4	6	4	0	5	1	3	2	1	1	8	7	12	19	6	19	9	16	500	
会 津	30	14	10	18	10	12	14	3	6	8	8	7	7	3	10	9	11	9	12	13	21	14	22	14	25	890	
南会津	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	57	
相 双	16	12	10	10	10	5	6	5	8	12	7	5	7	0	7	3	10	5	7	1	6	3	5	3	7	518	
いわき市	5	8	5	4	8	9	4	0	1	0	1	3	2	4	3	11	5	15	12	26	21	25	24	22	49	957	
H18	110	73	48	74	52	40	40	23	30	30	23	33	31	32	38	42	45	62	68	87	110	77	105	86	151	4,766	
H17	75	76	49	40	45	26	22	18	27	21	40	38	38	57	38	75	49	63	69	86	106	93	138	133	141	4,647	
H16	79	84	61	67	43	37	38	23	26	34	22	33	33	36	41	49	56	69	63	98	85	111	117	162	148	4,616	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	96	291	794	824	796	770	573	273	118	75	36	94	9	17	4,766
H17	129	252	854	781	762	733	513	277	121	71	45	75	6	28	4,647

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「175」

(64)手足口病



手足口病（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,162例あり、昨年の約半分の報告数であった。7月中旬に南会津で断続的な流行が見られ、その後9月から11月にかけて相双、いわき市で流行が見られた。

年齢構成では、1～3歳の報告が多く、約6割（62.0%）を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

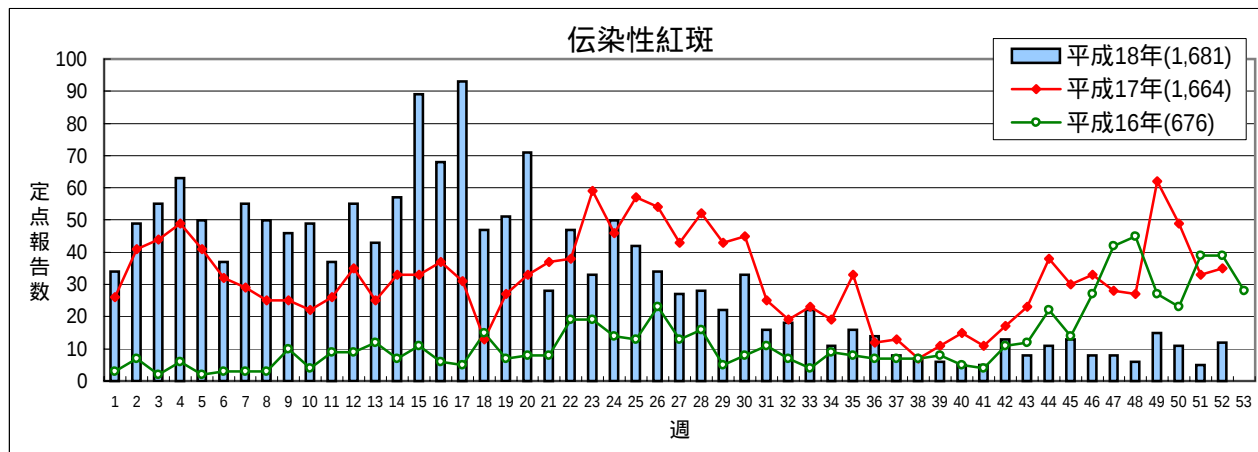
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	4	2	0	5	7	3	1	2	0	5	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0
郡山市	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0
県中	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	2
会津	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2
南会津	0	0	2	4	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2	1	1	1	4	4	4	1
H18	4	4	6	4	8	9	8	3	4	1	8	2	5	0	0	3	2	1	2	3	3	5	5	8	8	8	5
H17	15	5	20	20	11	1	7	10	5	7	2	5	7	10	6	15	9	12	11	13	31	37	80	111	180	177	183
H16	5	6	1	5	4	5	3	0	2	2	4	1	0	2	1	0	1	3	1	0	6	4	3	1	2	2	2
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	7	14	3	4	9	9	7	7	4	8	5	3	3	8	5	2	4	6	2	3	0	3	1	1	1	155	
郡山市	1	2	1	0	4	5	8	13	12	9	6	5	3	4	5	7	4	1	5	6	0	5	2	2	4	125	
県中	1	0	0	2	2	5	8	7	5	2	5	2	1	0	3	2	4	5	11	9	2	6	3	1	0	91	
県南	0	4	2	1	0	2	4	1	3	1	3	3	1	5	4	1	2	1	6	7	2	3	13	3	1	84	
会津	1	3	2	3	3	4	9	6	6	3	11	12	7	8	3	2	4	6	7	3	7	9	6	5	5	152	
南会津	3	7	4	0	7	6	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	
相双	0	0	0	2	2	1	1	0	14	18	18	6	17	12	5	13	19	4	8	5	0	4	1	2	0	154	
いわき市	1	10	7	9	10	7	10	5	15	14	20	21	23	31	11	13	12	10	15	19	30	21	14	1	4	357	
H18	14	40	19	21	37	39	50	40	59	55	68	52	55	68	36	40	49	33	54	52	41	51	40	15	15	1,162	
H17	183	159	152	103	126	70	58	48	47	48	46	19	17	21	20	28	11	14	11	22	9	10	12	9	3	2,236	
H16	8	10	5	19	18	10	11	20	23	24	52	60	63	54	62	94	60	100	84	72	66	82	62	50	47	1,251	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	4	48	281	257	182	138	103	64	28	14	10	24	1	8	1,162
H17	13	102	508	416	355	274	210	125	73	51	33	52	0	24	2,236

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「29」

(65) 伝染性紅斑



伝染性紅斑 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,681例あり、昨年11月頃から引き続き、1月から会津、いわき市で流行が見られ、その後、県北、県南、相双でも一時的に流行し、7月まで続いた。

年齢構成では、3歳～7歳の報告が多く、約6割(64.5%)を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

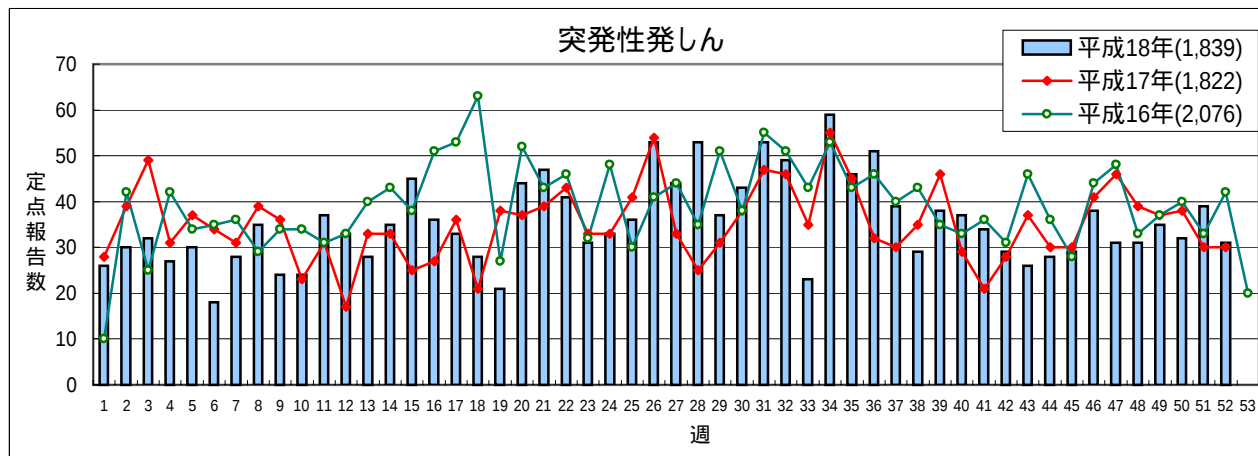
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	2	1	2	0	3	2	3	6	2	1	2	5	11	6	13	14	17	9	6	10	2	1	5	5	8	3	3
郡山市	0	1	2	0	0	1	4	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2
県中	1	1	3	2	0	0	2	3	4	2	1	2	1	1	4	4	3	1	2	2	4	1	1	2	4	3	1
県南	1	2	2	4	4	2	5	2	3	5	3	5	6	9	10	6	12	1	3	10	1	7	4	8	11	4	4
会津	13	10	16	27	20	10	11	14	12	13	4	18	3	12	20	10	11	9	5	10	5	6	9	6	4	1	2
南会津	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	1	2
相双	1	1	0	0	1	2	1	0	2	0	1	1	4	4	3	8	11	3	5	10	2	9	3	5	2	2	3
いわき市	16	33	30	29	22	19	29	22	23	27	24	24	17	24	39	24	37	23	29	29	13	21	10	22	13	20	10
H18	34	49	55	63	50	37	55	50	46	49	37	55	43	57	89	68	93	47	51	71	28	47	33	50	42	34	27
H17	26	41	44	49	41	32	29	25	25	22	26	35	25	33	33	37	31	13	27	33	37	38	59	46	57	54	43
H16	3	7	2	6	2	3	3	3	10	4	9	9	12	7	11	6	5	15	7	8	8	19	19	14	13	23	13
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	3	2	1	3	3	5	2	1	4	1	1	1	4	0	2	0	1	0	1	0	1	2	2	1	1	184	
郡山市	0	1	1	1	2	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	1	4	4	2	3	46	
県中	0	1	1	1	0	2	1	5	1	0	0	0	0	1	3	2	2	1	0	1	0	0	2	1	0	80	
県南	11	10	5	1	10	4	1	4	4	1	0	2	0	0	0	0	2	1	0	2	1	1	1	0	2	197	
会津	4	2	5	2	1	2	0	0	4	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	0	2	1	1	4	315	
南会津	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	21	
相双	2	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1	1	1	0	1	6	5	7	6	2	2	3	1	0	1	127	
いわき市	7	4	19	8	2	8	7	5	1	2	4	2	0	2	5	0	1	2	0	0	1	2	0	0	0	711	
H18	28	22	33	16	18	22	11	16	14	8	7	6	5	5	13	8	11	13	8	8	6	15	11	5	12	1,681	
H17	52	43	45	25	19	23	19	33	12	13	7	11	15	11	17	23	38	30	33	28	27	62	49	33	35	1,664	
H16	16	5	8	11	7	4	9	8	7	7	7	8	5	4	11	12	22	14	27	42	45	27	23	39	39	676	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	4	34	82	120	188	262	241	206	187	128	99	103	4	23	1,681
H17	4	38	80	85	172	226	262	245	175	135	86	117	7	32	1,664

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「28」

(66) 突発性発しん



突発性発しん（48小児科定点）

定点からの年間報告数は1,839例あり、例年どおりの報告数となった。

年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(97.3%)であった。

少ない 多い

平成18年 報告数

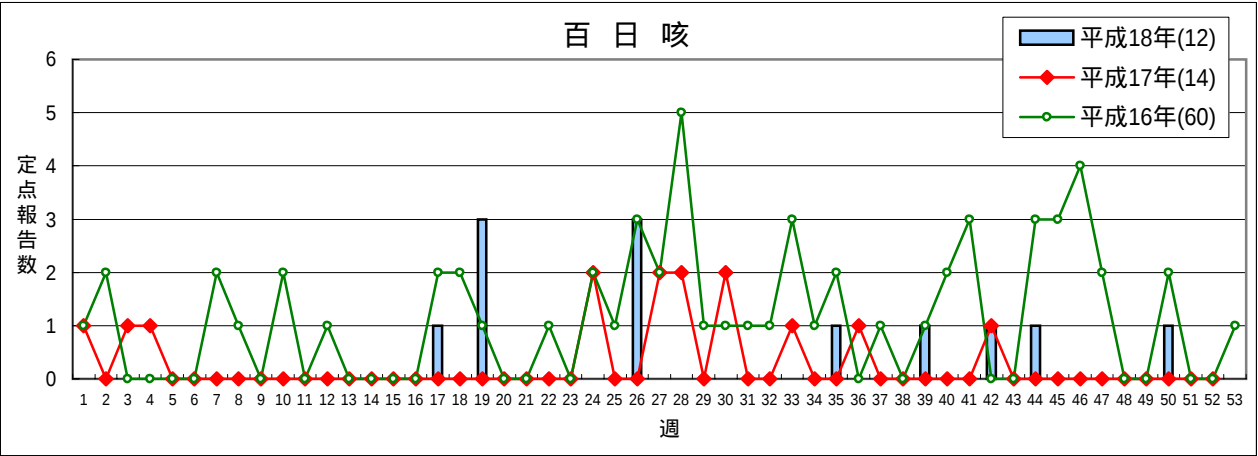
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	6	5	7	4	11	7	10	9	6	5	13	9	7	7	10	5	11	12	7	12	16	18	11	10	10	13	14
郡山市	9	7	8	7	4	2	4	5	6	3	7	5	10	10	6	8	8	4	6	13	8	5	5	4	3	7	4
県中	4	3	2	1	3	2	2	5	2	3	1	2	2	3	4	3	1	2	0	2	3	1	1	1	2	5	5
県南	0	1	2	1	2	1	0	2	0	0	3	1	1	1	1	5	4	1	0	1	0	0	0	1	2	1	4
会津	0	4	3	6	2	3	3	2	1	1	2	3	0	1	3	5	1	1	3	4	1	6	0	4	4	5	4
南会津	0	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
相双	3	3	4	2	1	3	5	6	3	5	5	6	3	6	8	6	5	6	2	5	7	4	4	3	6	3	5
いわき市	4	6	5	5	7	0	3	6	5	6	5	6	4	6	13	3	3	2	3	7	12	7	9	10	9	19	8
H18	26	30	32	27	30	18	28	35	24	24	37	33	28	35	45	36	33	28	21	44	47	41	31	33	36	53	44
H17	28	39	49	31	37	34	31	39	36	23	31	17	33	33	25	27	36	21	38	37	39	43	33	33	41	54	33
H16	10	42	25	42	34	35	36	29	34	34	31	33	40	43	38	51	53	63	27	52	43	46	32	48	30	41	44
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	8	10	10	16	20	7	21	17	14	13	8	10	12	7	10	7	7	8	17	7	13	11	12	14	6	540	
郡山市	8	10	14	14	7	4	10	7	11	5	9	7	9	7	8	8	9	8	8	5	6	6	8	6	5	367	
県中	4	0	4	5	3	5	5	2	10	4	2	4	1	4	1	5	1	1	2	2	4	3	2	3	3	145	
県南	5	3	0	5	2	0	3	2	4	3	1	3	2	4	1	1	3	3	1	3	2	1	1	2	4	94	
会津	9	6	4	3	5	1	5	3	1	3	2	1	0	3	1	0	2	2	1	1	1	4	2	4	3	139	
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	15	
相双	7	4	5	2	3	2	5	5	5	7	4	2	5	3	4	3	2	3	4	7	2	4	4	5	4	220	
いわき市	12	4	5	8	9	4	10	10	6	4	3	11	7	6	4	2	4	4	5	6	3	6	3	4	6	319	
H18	53	37	43	53	49	23	59	46	51	39	29	38	37	34	29	26	28	29	38	31	31	35	32	39	31	1,839	
H17	25	31	38	47	46	35	55	45	32	30	35	46	29	21	28	37	30	30	41	46	39	37	38	30	30	1,822	
H16	35	51	38	55	51	43	53	43	46	40	43	35	33	36	31	46	36	28	44	48	33	37	40	33	42	2,076	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	96	1115	579	41	5	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1,839
H17	104	1094	585	35	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,822

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「20」

(67)百日咳



百日咳 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は12例あった。
年齢構成では、2歳までの報告がほとんど(9例)であつた。

少ない  多い

平成18年 報告数

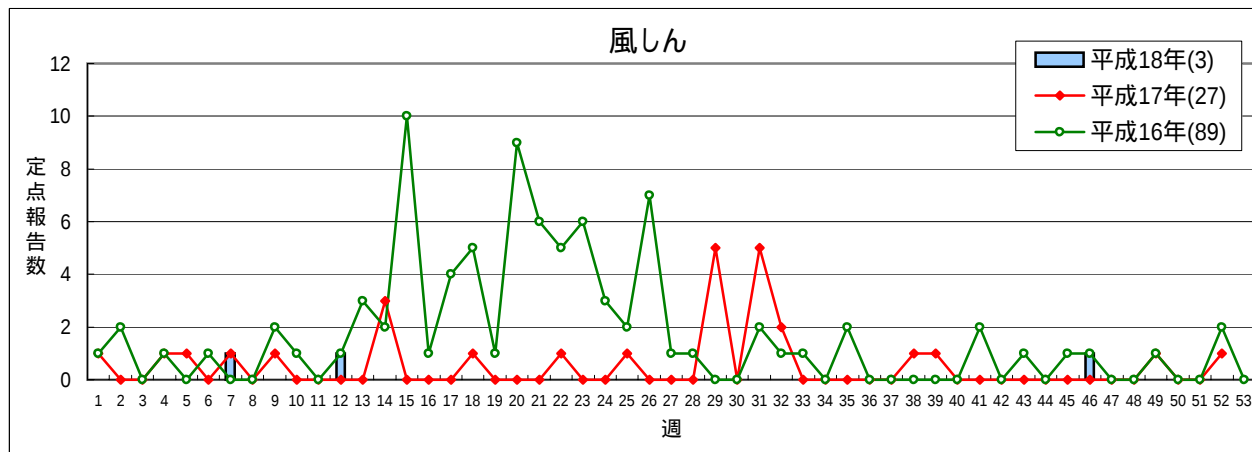
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0
H17	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
H16	1	2	0	0	0	0	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	2	1	3	2
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	
H18	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	12	
H17	2	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
H16	5	1	1	1	1	3	1	2	0	1	0	1	2	3	0	0	3	3	4	2	0	0	2	0	0	60	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	1	4	0	4	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	12
H17	6	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「1」

(68)風しん



風しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は3例あった。
1歳、～14歳の2例は予防接種歴無しで、～19歳の1例は予防接種歴有りであった。

少ない 多い

平成18年 報告数

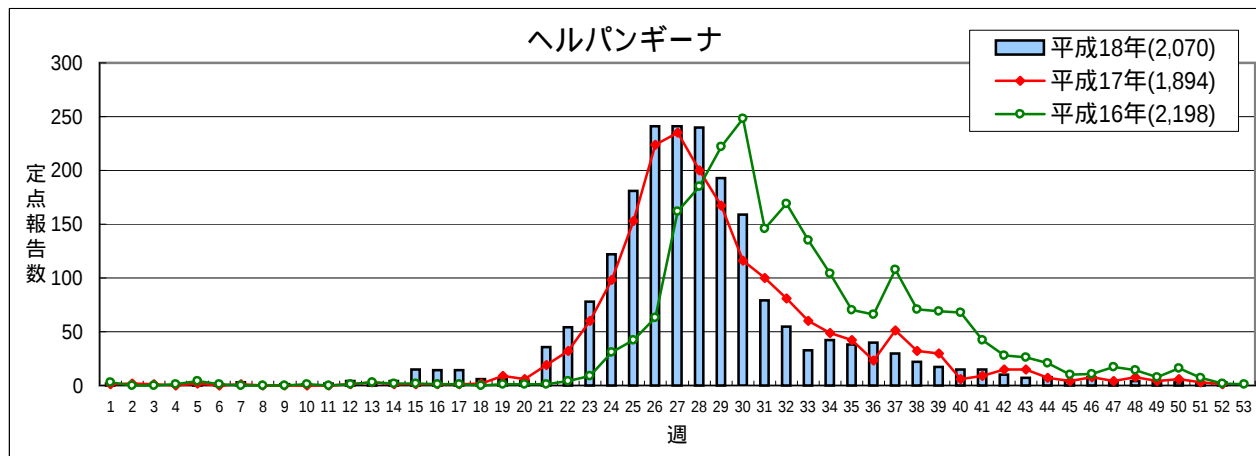
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
H16	1	2	0	1	0	1	0	0	2	1	0	1	3	2	10	1	4	5	1	9	6	5	6	3	2	7	1
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
H17	0	5	0	5	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	27	
H16	1	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2	89	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
H17	2	3	2	2	5	2	1	1	0	2	3	1	0	3	27

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

(69)ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナ（48小児科定点）

定点からの年間報告数は2,070例あり、5月下旬から県南、会津を中心に流行が始まり、その後県内全域に流行が拡大し、9月中旬まで続いた。流行の季節推移は例年どおりの形となった。

年齢構成では、1歳～2歳の報告が多く、約半数（47.7%）を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

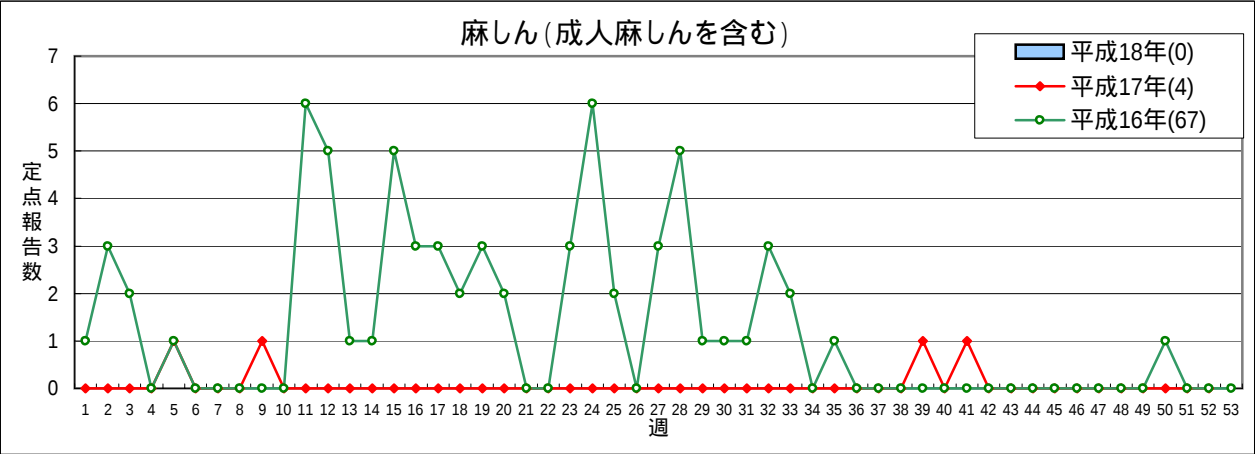
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	5	12	7	20	34	27
郡山市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	15	16	25	29
県中	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	4	4	22	23
県南	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	10	11	24	40	34	19
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	0	3	12	12	8	4	1	3	15	18	22	18	23	14	10
南会津	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	1
相双	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	8	12	23	25	30	35	
いわき市	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	3	1	2	0	11	13	18	29	52	82	97
H18	2	0	0	0	3	1	3	0	1	1	2	4	1	4	15	14	14	6	6	4	36	54	78	122	181	241	241
H17	1	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0	1	3	1	1	1	1	2	9	6	19	32	60	98	153	224	235
H16	3	0	0	1	4	1	0	0	0	1	0	1	3	2	2	1	1	0	1	1	1	4	9	31	42	63	162
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	31	35	34	13	8	11	16	7	16	1	2	1	4	1	1	0	0	1	0	2	0	1	1	1	0	297	
郡山市	25	31	24	15	4	1	2	3	0	4	2	5	2	0	1	1	3	3	3	1	1	0	1	0	2	224	
県中	16	21	11	7	3	2	4	3	2	1	3	0	1	2	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	138	
県南	9	11	8	6	3	1	3	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	192	
会津	22	12	6	3	4	1	1	3	7	5	1	0	0	5	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	244	
南会津	12	4	4	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	
相双	16	14	20	3	6	3	4	2	6	4	1	2	1	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	225	
いわき市	109	65	52	32	27	11	11	19	8	14	13	8	7	4	6	5	5	1	3	1	0	1	0	0	1	719	
H18	240	193	159	79	55	33	42	38	40	30	22	17	15	15	10	7	8	5	8	5	4	3	3	2	3	2,070	
H17	200	167	116	100	81	60	49	42	23	51	32	30	6	9	15	15	7	4	8	4	8	4	6	3	1	1,894	
H16	185	222	248	146	169	135	104	70	66	108	71	69	68	42	28	26	21	10	11	17	14	8	16	7	2	2,198	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	16	160	533	454	325	251	176	64	36	22	15	15	1	2	2,070
H17	26	144	469	396	324	242	155	50	34	16	12	18	4	4	1,894

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「1」

(70)麻しん(成人麻しん含む)



麻しん(成人麻しん含む) (48小児科定点)

定点からの報告はなかった。

少ない  多い

平成18年 報告数

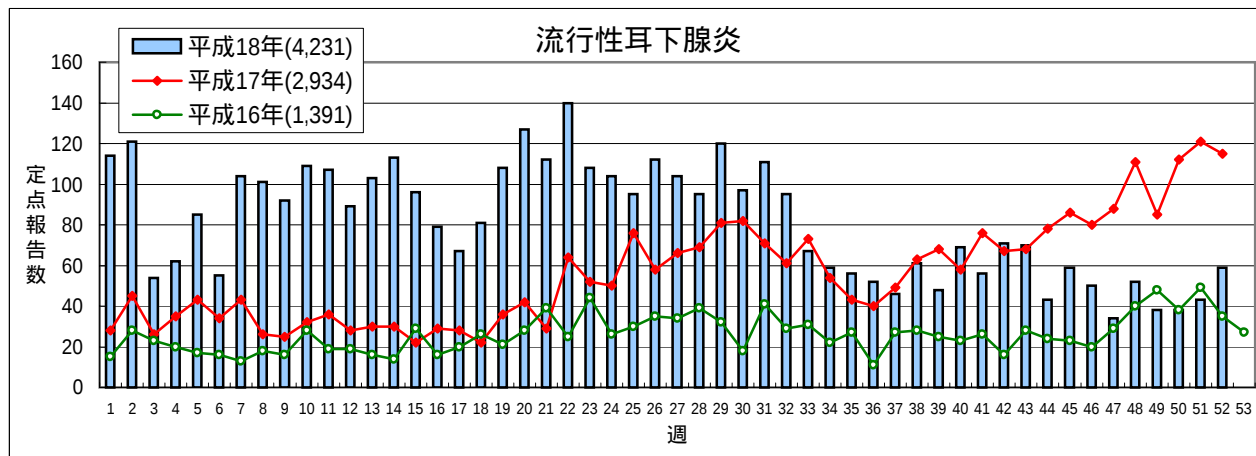
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	6	5	1	1	5	3	3	2	3	2	0	0	3	6	2	0	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
H16	5	1	1	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	67	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

(71)流行性耳下腺炎



流行性耳下腺炎（48小児科定点）

定点からの年間報告数は4,231例あり、昨年の約1.5倍の報告数であった。県内全域で継続または断続した流行が見られ、年間をとって流行が続いた。

年齢構成では、4歳、5歳をピークに2～7歳の報告が多く、約8割(76.4%)を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

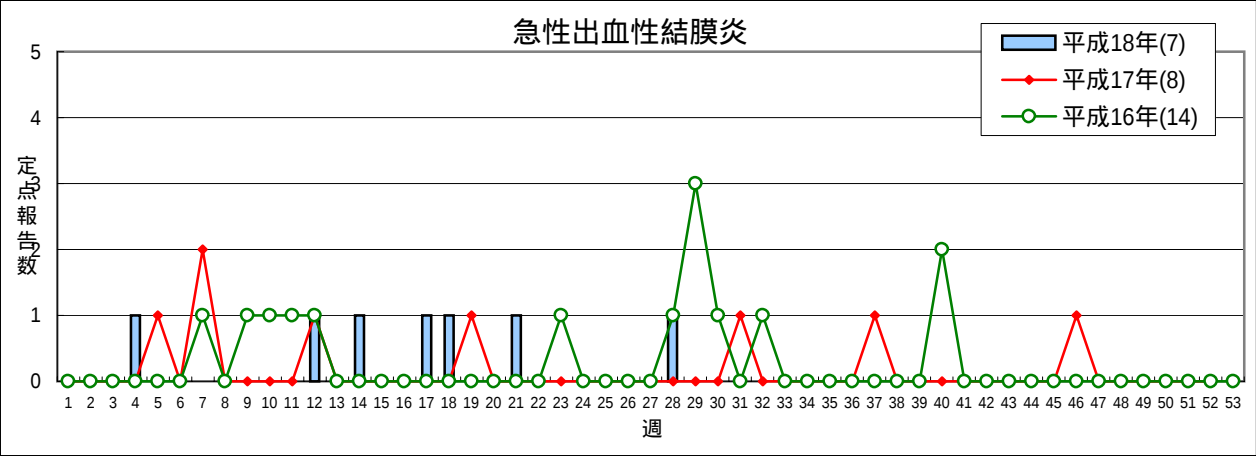
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	13	8	14	2	24	6	21	16	11	27	30	14	19	26	25	17	15	16	35	36	31	32	37	29	25	41	40
郡山市	20	33	12	10	11	16	30	22	37	19	26	24	24	15	15	10	9	12	23	18	18	29	22	17	20	21	21
県中	10	16	4	8	9	12	14	12	14	16	9	11	18	14	14	13	10	5	13	9	16	10	4	11	7	6	8
県南	16	6	4	6	5	1	7	8	5	9	10	7	14	17	12	14	6	22	11	22	11	26	19	18	20	18	11
会津	34	44	15	26	26	9	21	27	14	25	11	21	14	18	15	15	13	14	12	23	22	23	11	12	11	5	5
南会津	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	3	1	0	3	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1
相双	1	1	0	2	3	2	3	7	2	1	6	0	2	12	9	6	4	3	2	10	6	11	4	8	2	8	11
いわき市	19	13	5	8	7	9	7	8	9	10	14	12	12	8	5	4	7	9	11	8	8	9	10	9	10	13	7
H18	114	121	54	62	85	55	104	101	92	109	107	89	103	113	96	79	67	81	108	127	112	140	108	104	95	112	104
H17	28	45	26	35	43	34	43	26	25	32	36	28	30	30	22	29	28	22	36	42	29	64	52	50	76	58	66
H16	15	28	23	20	17	16	13	18	16	28	19	19	16	14	29	16	20	26	21	28	39	25	44	26	30	35	34
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	22	37	33	32	44	26	19	23	18	11	18	11	19	15	13	15	12	9	7	7	17	11	8	5	11	1,053	
郡山市	20	34	16	34	15	13	13	13	8	10	11	4	4	3	8	7	4	5	4	7	2	8	6	1	5	789	
県中	5	6	12	7	6	7	5	5	2	2	7	1	8	4	4	9	4	8	8	4	10	4	5	4	9	439	
県南	15	17	18	17	12	6	4	4	5	5	3	3	10	4	10	3	2	5	4	2	2	3	1	4	1	485	
会津	11	6	5	9	2	0	3	2	5	4	4	1	6	0	2	4	1	5	2	0	1	0	1	4	3	567	
南会津	0	1	1	1	0	3	0	1	1	3	2	7	6	10	14	14	7	1	8	5	5	6	4	6	11	134	
相双	12	8	4	7	5	8	7	3	11	8	13	15	11	16	15	9	10	9	7	4	5	3	7	14	6	343	
いわき市	10	11	8	4	11	4	8	5	2	3	3	6	5	4	5	9	3	17	10	5	10	3	6	5	13	421	
H18	95	120	97	111	95	67	59	56	52	46	61	48	69	56	71	70	43	59	50	34	52	38	38	43	59	4,231	
H17	69	81	82	71	61	73	54	43	40	49	63	68	58	76	67	68	78	86	80	88	111	85	112	121	115	2,934	
H16	39	32	18	41	29	31	22	27	11	27	28	25	23	26	16	28	24	23	20	29	40	48	38	49	35	1,391	

年齢構成

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～	合計
H18															0
H17	3	11	133	215	417	502	521	412	223	155	89	208	5	40	2,934

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「27」

(73)急性出血性結膜炎



急性出血性結膜炎（12眼科定点）

定点からの年間報告数は7例あり、年間をとおして散発事例のみであった。

少ない  多い

平成18年 報告数

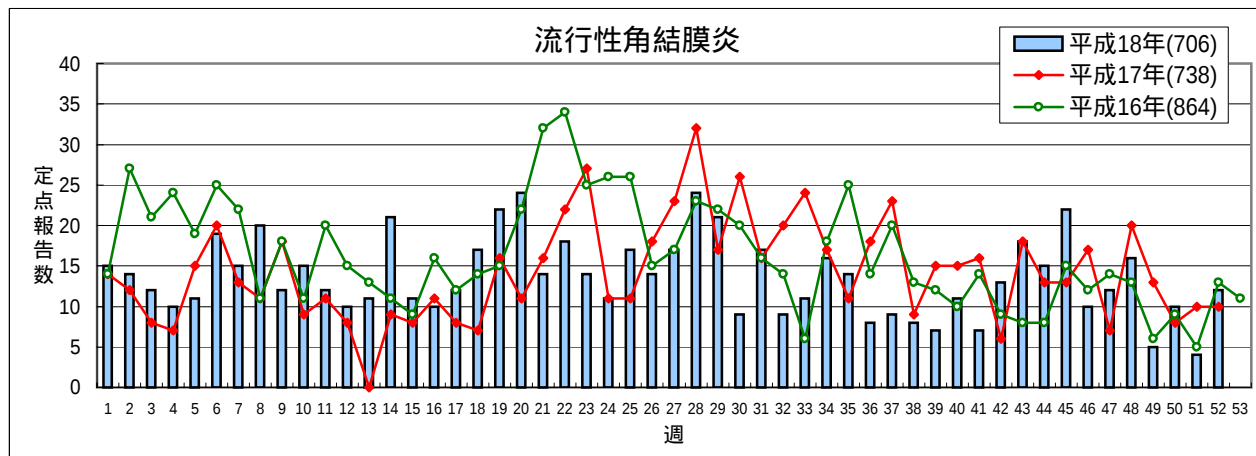
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県南	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
H18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	
H17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8	
H16	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	

年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H18	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	1	0	7
H17	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	2	0	0	0	8

(74)流行性角結膜炎



流行性角結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は706例あり、年間をととして流行は見られなかった。

年齢構成では、20歳以上の報告が、約7割(73.8%)を占めた。

少ない 多い

平成18年 報告数

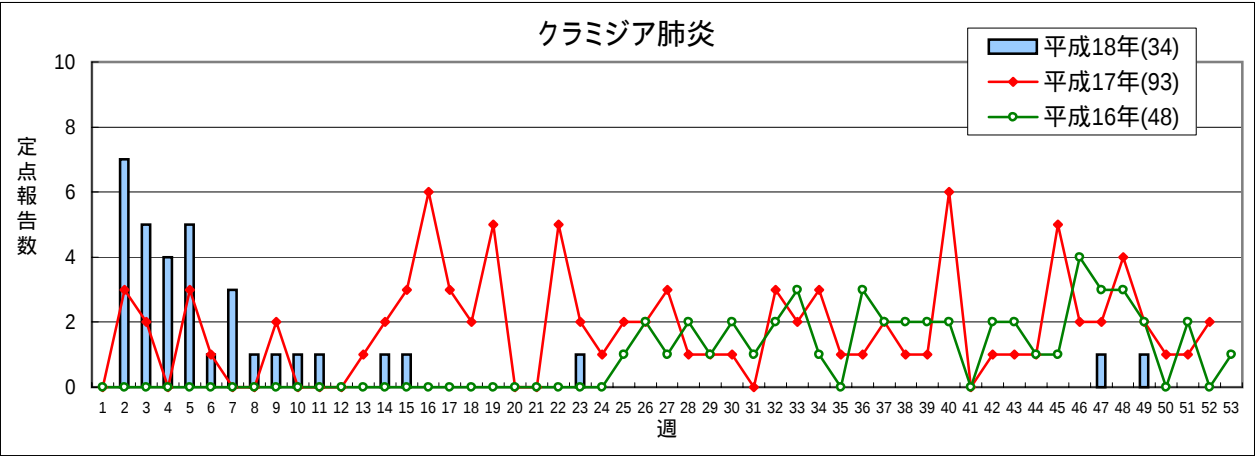
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	6	3	3	0	3	1	3	1	1	0	0	1	1	3	0	0	0	1	1	3	1	2	0	0	1	1	9
郡山市	2	1	4	0	2	7	1	5	2	5	2	4	3	5	3	0	3	2	0	2	2	4	3	2	6	2	2
県中	2	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	1	1	1	2	2	2	1	8	3	2	2	1	0	0	0	2
県南	0	1	0	0	5	4	1	2	1	1	0	1	0	2	2	1	2	3	3	9	5	4	3	1	0	1	0
会津	2	3	0	2	0	1	1	3	3	2	6	1	3	4	2	5	2	0	1	3	1	3	2	1	4	3	1
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
相双	1	3	0	2	0	1	1	3	1	1	1	1	2	1	1	2	0	2	0	2	0	2	1	1	2	0	0
いわき市	2	3	5	6	1	4	8	6	2	5	2	1	1	5	1	0	3	8	9	2	3	1	4	6	4	7	3
H18	15	14	12	10	11	19	15	20	12	15	12	10	11	21	11	10	12	17	22	24	14	18	14	11	17	14	17
H17	14	12	8	7	15	20	13	11	18	9	11	8	0	9	8	11	8	7	16	11	16	22	27	11	11	18	23
H16	14	27	21	24	19	25	22	11	18	11	20	15	13	11	9	16	12	14	15	22	32	34	25	26	26	15	17
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	12	8	1	4	2	2	6	1	2	4	4	2	1	3	3	7	1	4	1	3	3	0	0	1	2	122	
郡山市	6	1	2	5	3	3	5	4	0	0	3	2	0	0	4	3	6	5	4	4	4	2	2	1	3	146	
県中	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	46	
県南	3	2	2	0	0	1	0	3	1	1	0	0	2	1	1	1	3	4	4	1	2	0	0	0	4	88	
会津	0	1	0	3	0	1	2	5	1	2	1	1	0	2	3	2	1	2	0	1	2	1	1	1	0	92	
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	0	3	0	0	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4	4	2	0	0	0	1	2	0	3	57	
いわき市	2	6	4	5	0	2	3	1	3	1	0	1	6	0	2	0	0	3	1	3	3	1	5	1	0	155	
H18	24	21	9	17	9	11	16	14	8	9	8	7	11	7	13	18	15	22	10	12	16	5	10	4	12	706	
H17	32	17	26	16	20	24	17	11	18	23	9	15	15	16	6	18	13	13	17	7	20	13	8	10	10	738	
H16	23	22	20	16	14	6	18	25	14	20	13	12	10	14	9	8	8	15	12	14	13	6	9	5	13	864	

年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「11」

	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～	合計
H18	1	6	18	14	22	15	13	20	7	7	7	28	27	111	162	99	87	37	25	706
H17	3	4	14	10	13	12	11	12	4	9	4	31	41	156	163	95	75	51	30	738

(79)クラミジア肺炎(オウム病を除く)



クラミジア肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は93例あり、すべて郡山からの報告であった。
年齢構成では、70歳以上が4割(40.9%)を占めた。

少ない  多い

平成18年 報告数

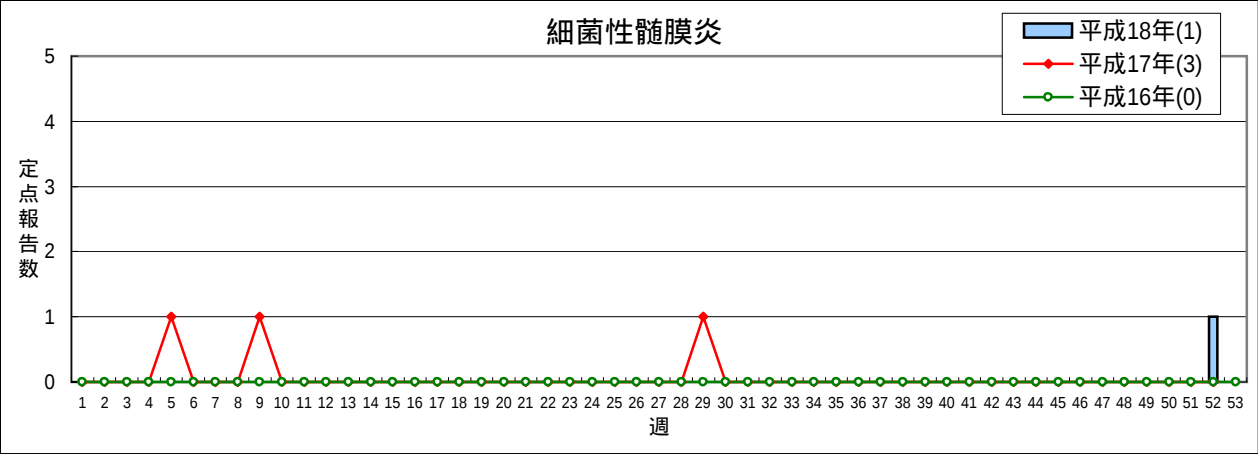
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	7	5	4	5	1	3	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	7	5	4	5	1	3	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
H17	0	3	2	0	3	1	0	0	2	0	0	0	1	2	3	6	3	2	5	0	0	5	2	1	2	2	3
H16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	34	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	34	
H17	1	1	1	0	3	2	3	1	1	2	1	1	6	0	1	1	1	5	2	2	4	2	1	1	2	93	
H16	2	1	2	1	2	3	1	0	3	2	2	2	2	0	2	2	1	1	4	3	3	2	0	2	0	48	

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H18	0	0	0	0	1	0	2	2	2	0	0	1	3	1	5	17	34
H17	0	0	0	3	3	4	7	2	3	5	2	1	7	5	13	38	93

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「1」

(80)細菌性髄膜炎



細菌性髄膜炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数はいわき市からの1例であった。

少ない  多い

平成18年 報告数

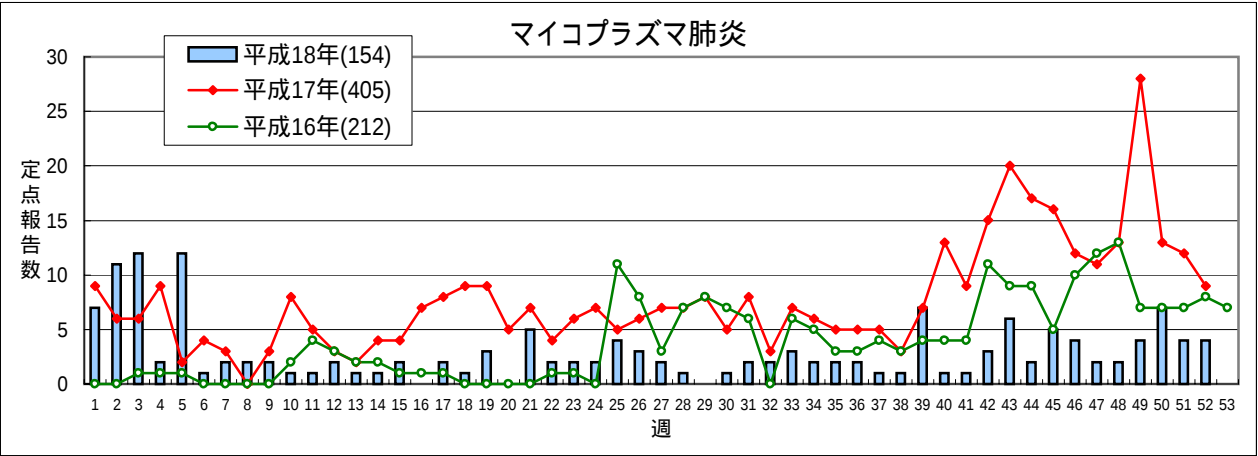
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北 郡山市 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北 郡山市 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
H17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
H16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
H17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

(82)マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は154例あり、昨年の半分以下の報告数であった。

年齢構成では、14歳以下の報告が約9割(85.1%)を占めた。

少ない  多い

平成18年 報告数

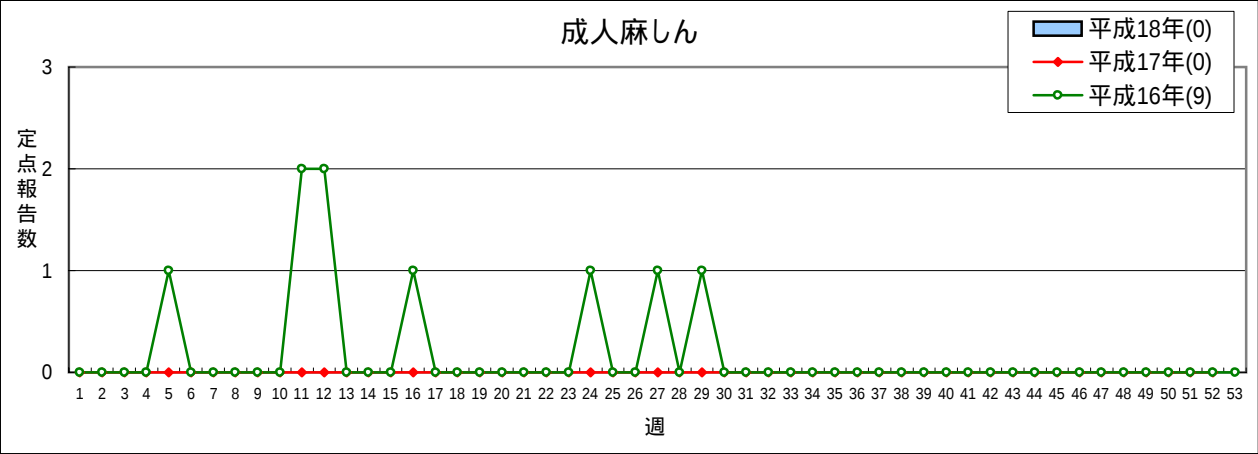
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
郡山市	6	8	10	2	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	2	0	1	0	0	1	3	1	1
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	1	2	0	3	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	4	1	2	1	1	2	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	7	11	12	2	12	1	2	2	2	1	1	2	1	1	2	0	2	1	3	0	5	2	2	2	4	3	2
H17	9	6	6	9	2	4	3	0	3	8	5	3	2	4	4	7	8	9	9	5	7	4	6	7	5	6	7
H16	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	4	3	2	2	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	11	8	3
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	1	2	2	2	2	1	0	2	0	0	2	2	1	2	2	1	1	2	2	1	2	35	
郡山市	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	5	1	1	1	4	0	3	2	1	1	0	2	0	2	85	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	27	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	0	7		
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	1	0	1	2	2	3	2	2	2	1	1	7	1	1	3	6	2	5	4	2	2	4	7	4	4	154	
H17	7	8	5	8	3	7	6	5	5	5	3	7	13	9	15	20	17	16	12	11	13	28	13	12	9	405	
H16	7	8	7	6	0	6	5	3	3	4	3	4	4	4	11	9	9	5	10	12	13	7	7	7	8	212	

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H18	2	41	56	32	1	3	3	1	3	1	2	1	2	1	1	4	154
H17	6	134	128	56	11	12	13	10	8	3	4	2	4	3	3	8	405

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「7」

(83)成人麻しん



成人麻しん (7基幹定点)

定点からの報告はなかった。

少ない  多い

平成18年 報告数

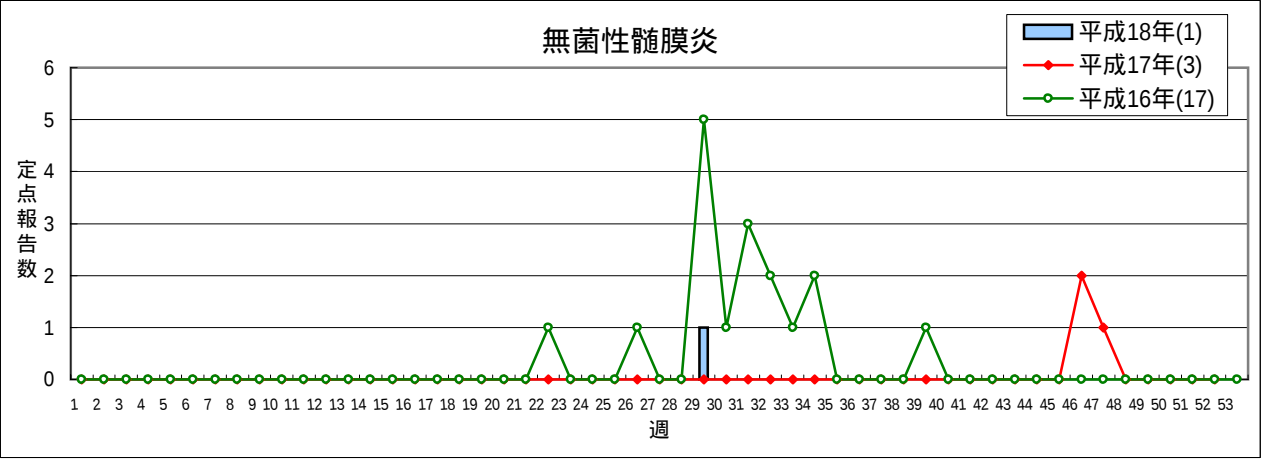
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	

年齢構成

	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

(84)無菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎（7基幹定点）

定点からの年間報告数は県北からの1例であった。

少ない  多い

平成18年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北 郡山市 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計		
県北 郡山市 県中 県南 会津 南会津 相双 いわき市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
H18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3		
H16	0	5	1	3	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17			

年齢構成

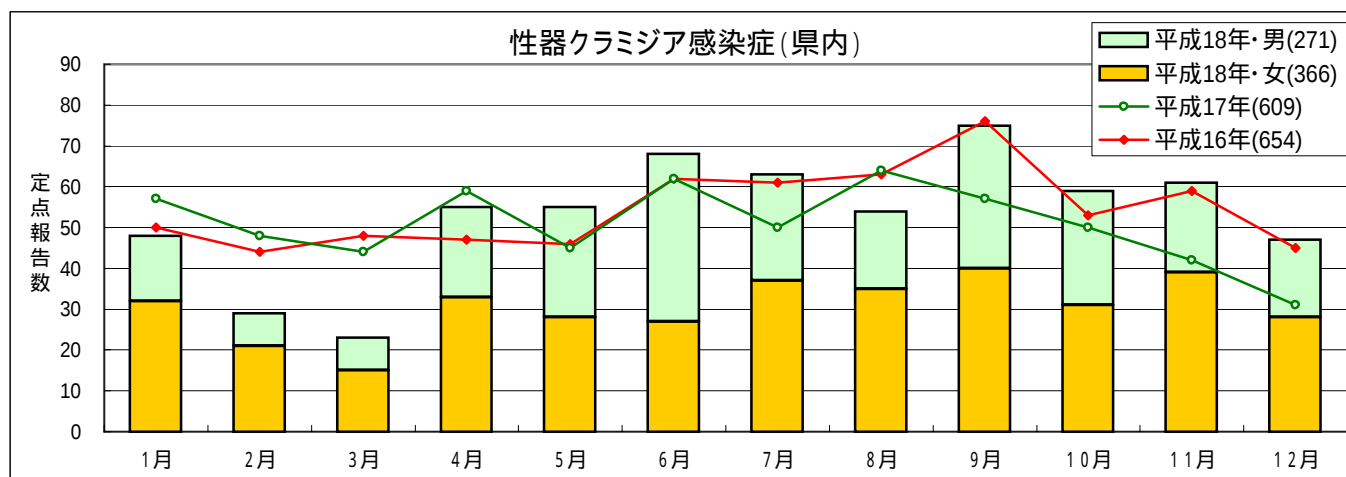
	～0歳	～4歳	～9歳	～14歳	～19歳	～24歳	～29歳	～34歳	～39歳	～44歳	～49歳	～54歳	～59歳	～64歳	～69歳	70歳～	合計
H18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
H17	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

(75)性器クラミジア感染症

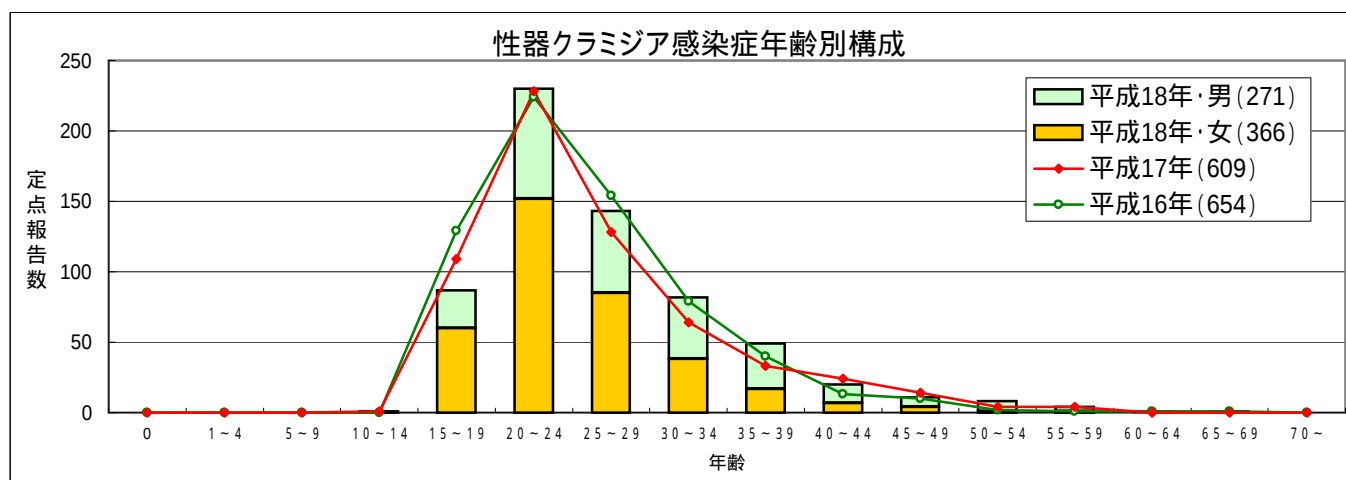
(16STD定点)

定点からの年間報告数は637例(男271例、女366例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、20～24歳の感染者の占める割合が高かった。

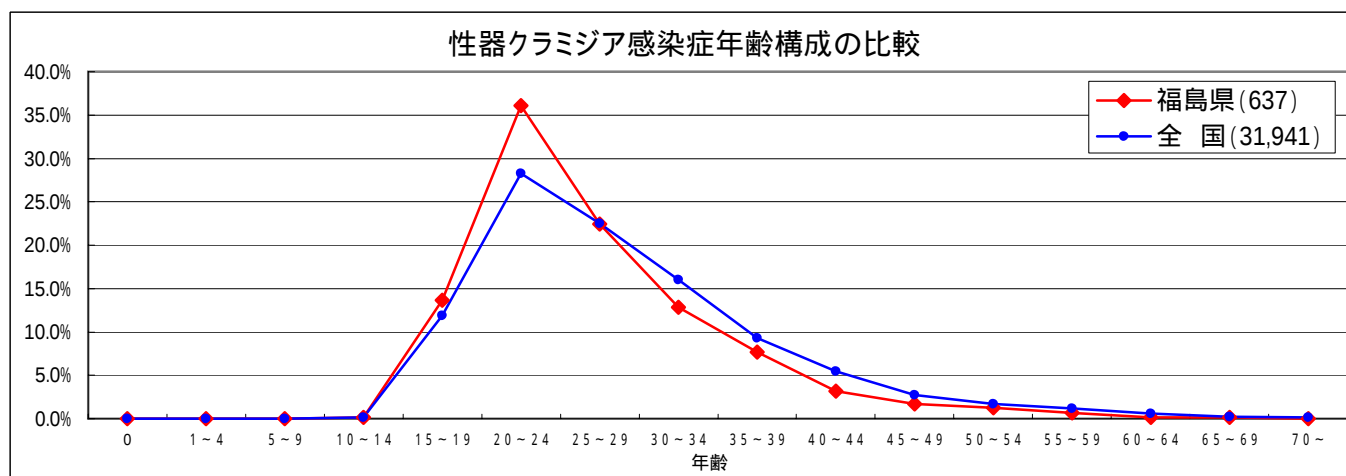


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年・男(271)	16	8	8	22	27	41	26	19	35	28	22	19	271
平成18年・女(366)	32	21	15	33	28	27	37	35	40	31	39	28	366
平成18年(637)	48	29	23	55	55	68	63	54	75	59	61	47	637
平成17年(609)	57	48	44	59	45	62	50	64	57	50	42	31	609
平成16年(654)	50	44	48	47	46	62	61	63	76	53	59	45	654

平成16～18年 県内の年齢別構成

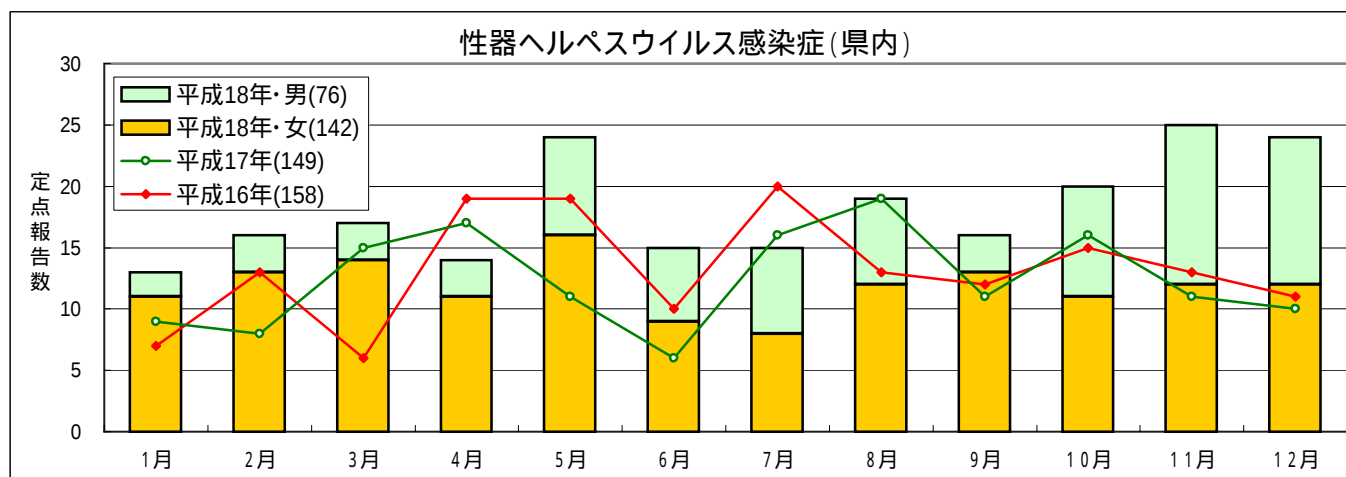


平成18年 年齢構成の比較



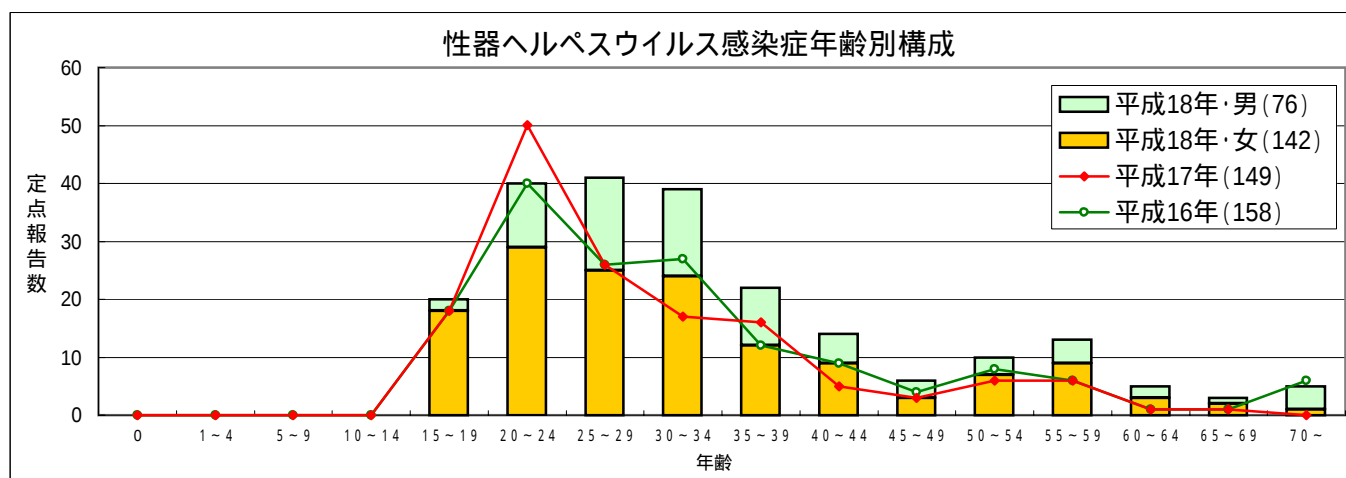
(76)性器ヘルペスウイルス感染症 (16STD定点)

定点からの年間報告数は218例(男76例、女142例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、15～34歳の感染者の占める割合が高かった。

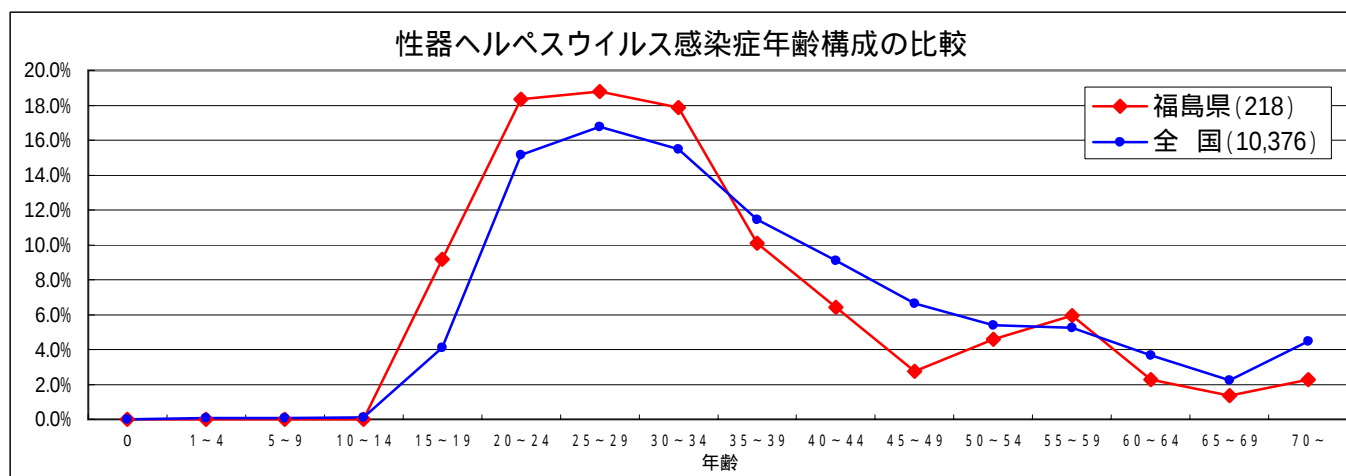


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年・男(76)	2	3	3	3	8	6	7	7	3	9	13	12	76
平成18年・女(142)	11	13	14	11	16	9	8	12	13	11	12	12	142
平成18年(218)	13	16	17	14	24	15	15	19	16	20	25	24	218
平成17年(149)	9	8	15	17	11	6	16	19	11	16	11	10	149
平成16年(158)	7	13	6	19	19	10	20	13	12	15	13	11	158

平成16～18年 県内の年齢別構成



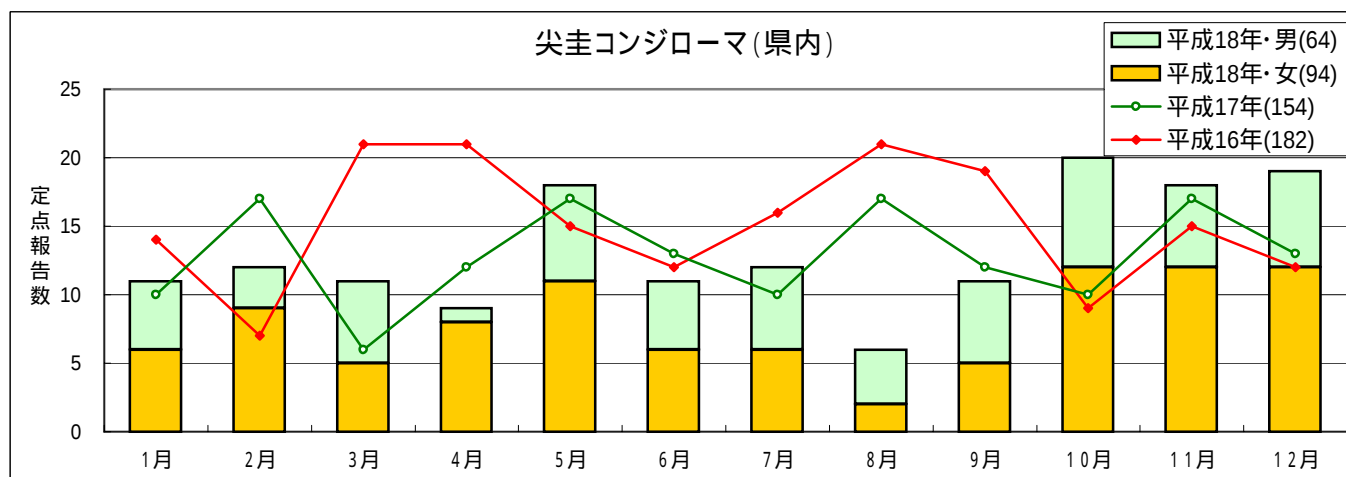
平成18年 年齢構成の比較



(77)尖圭コンジローマ

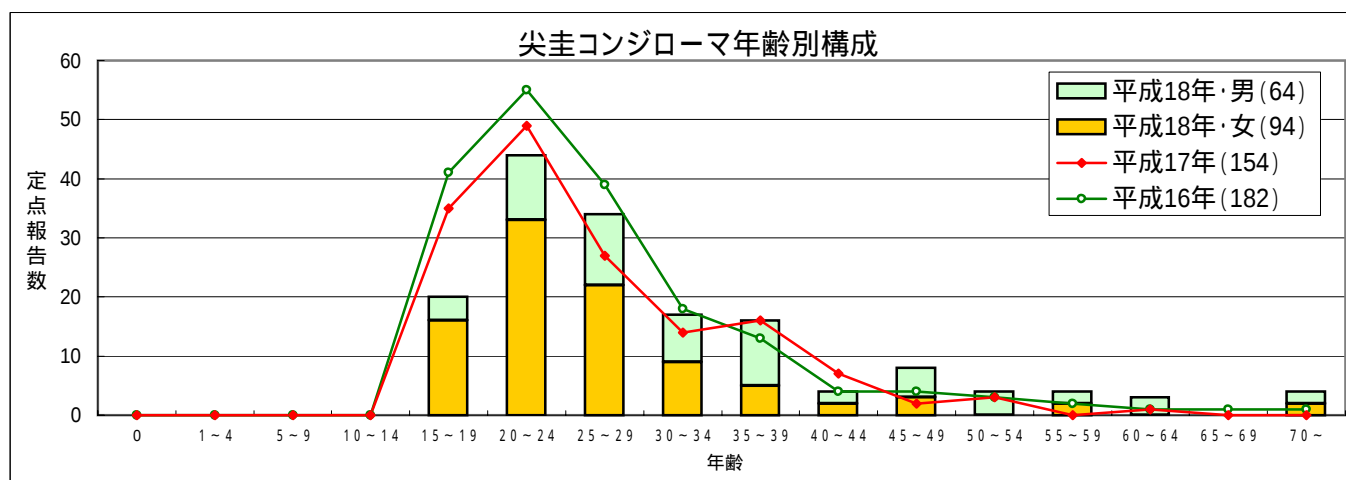
(16STD定点)

定点からの年間報告数は158例(男64例、女94例)あり、20～29歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、15～29歳の感染者の占める割合が高かった。

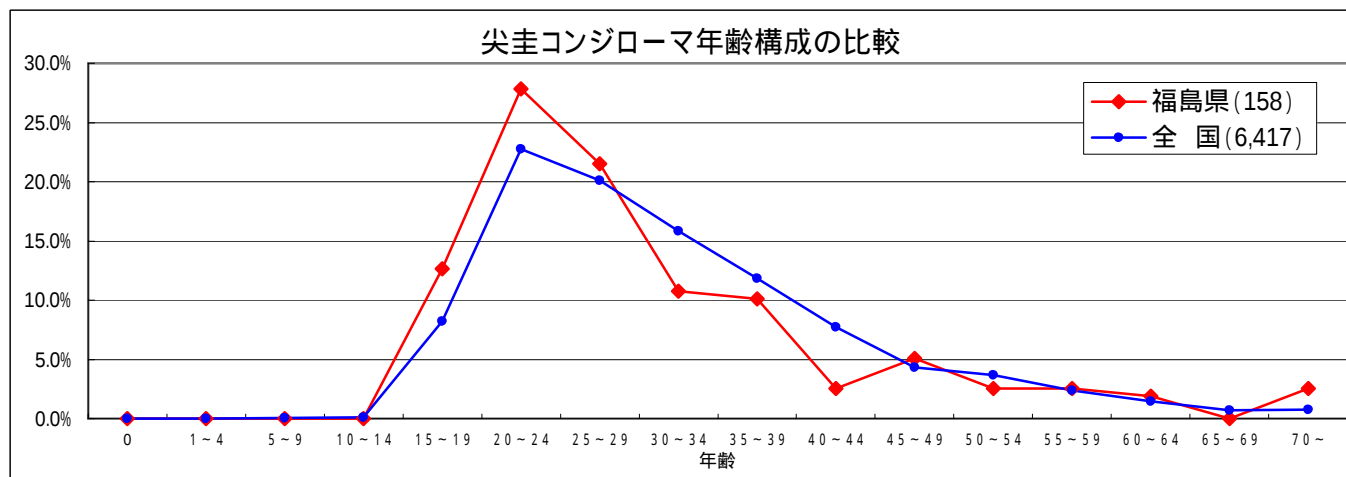


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年・男(64)	5	3	6	1	7	5	6	4	6	8	6	7	64
平成18年・女(94)	6	9	5	8	11	6	6	2	5	12	12	12	94
平成18年(158)	11	12	11	9	18	11	12	6	11	20	18	19	158
平成17年(154)	10	17	6	12	17	13	10	17	12	10	17	13	154
平成16年(182)	14	7	21	21	15	12	16	21	19	9	15	12	182

平成16～18年 県内の年齢別構成



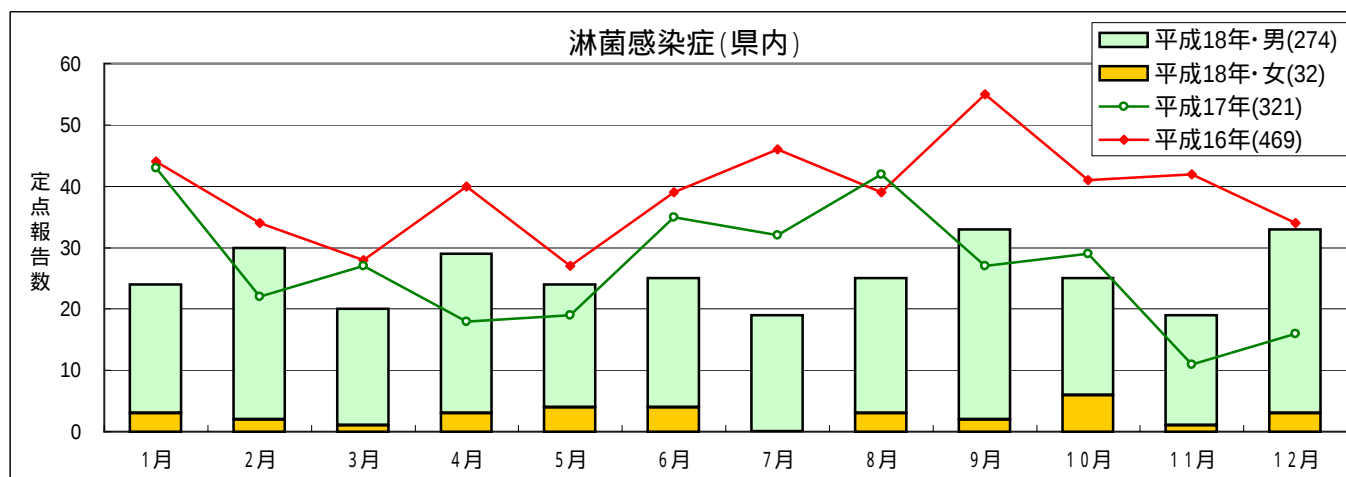
平成18年 年齢構成の比較



(78) 淋菌感染症

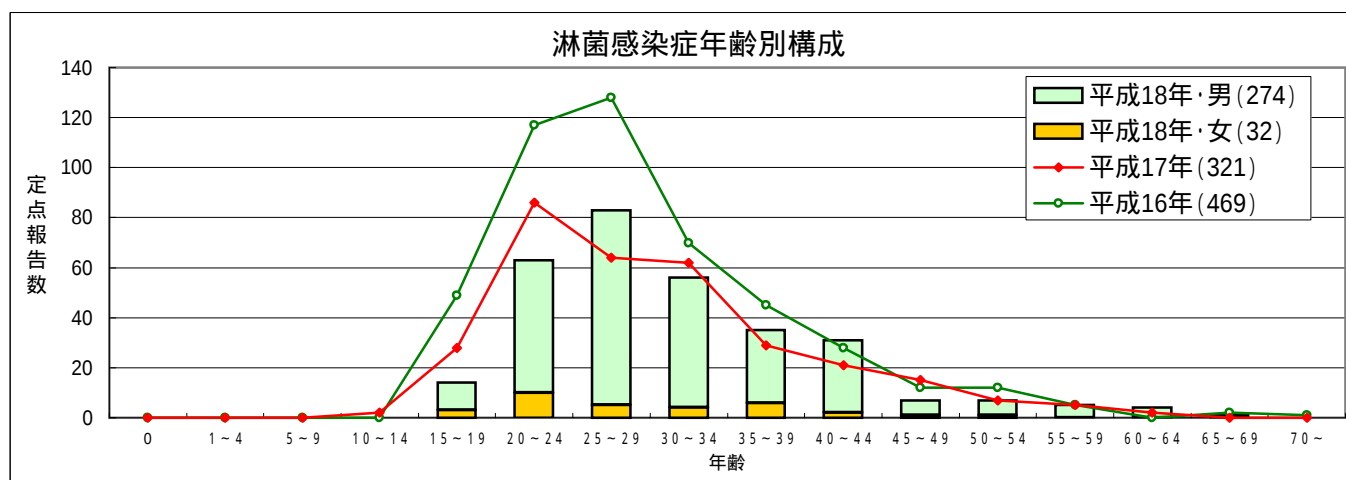
(16STD定点)

定点からの年間報告数は306例(男274例、女32例)あり、20～34歳の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、25～29歳、40～44歳の感染者の占める割合が高かった。

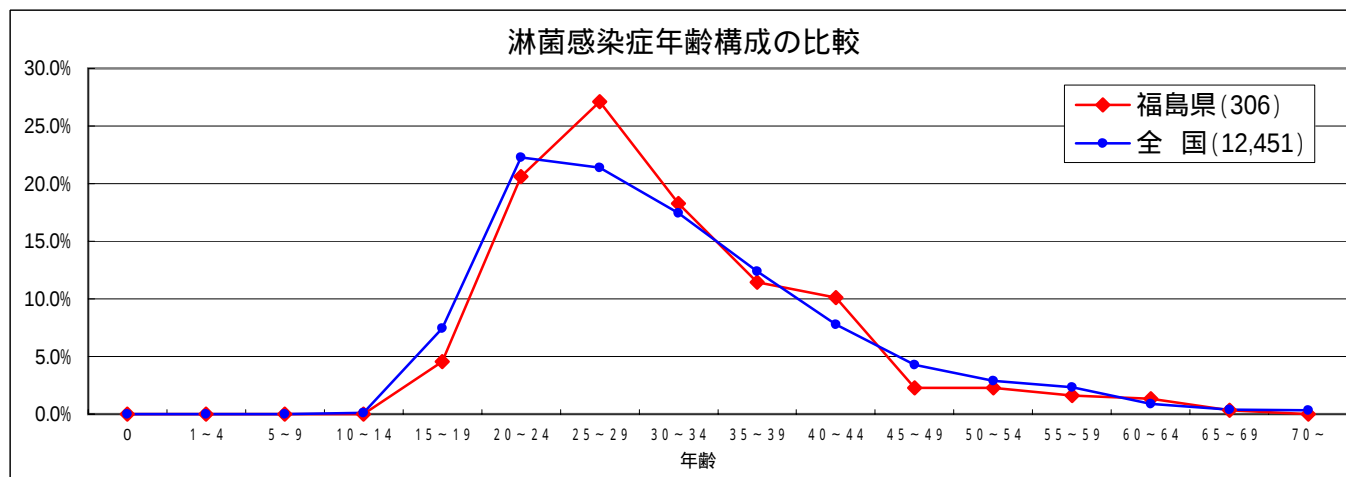


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年・男(274)	21	28	19	26	20	21	19	22	31	19	18	30	274
平成18年・女(32)	3	2	1	3	4	4	0	3	2	6	1	3	32
平成18年(306)	24	30	20	29	24	25	19	25	33	25	19	33	306
平成17年(321)	43	22	27	18	19	35	32	42	27	29	11	16	321
平成16年(469)	44	34	28	40	27	39	46	39	55	41	42	34	469

平成16～18年 県内の年齢別構成



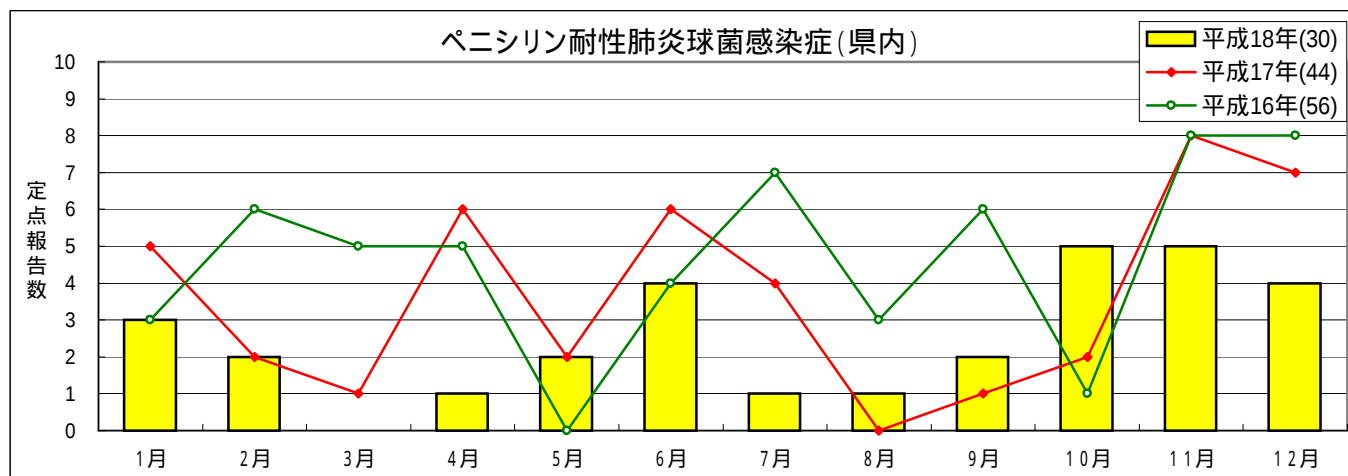
平成18年 年齢構成の比較



(81)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

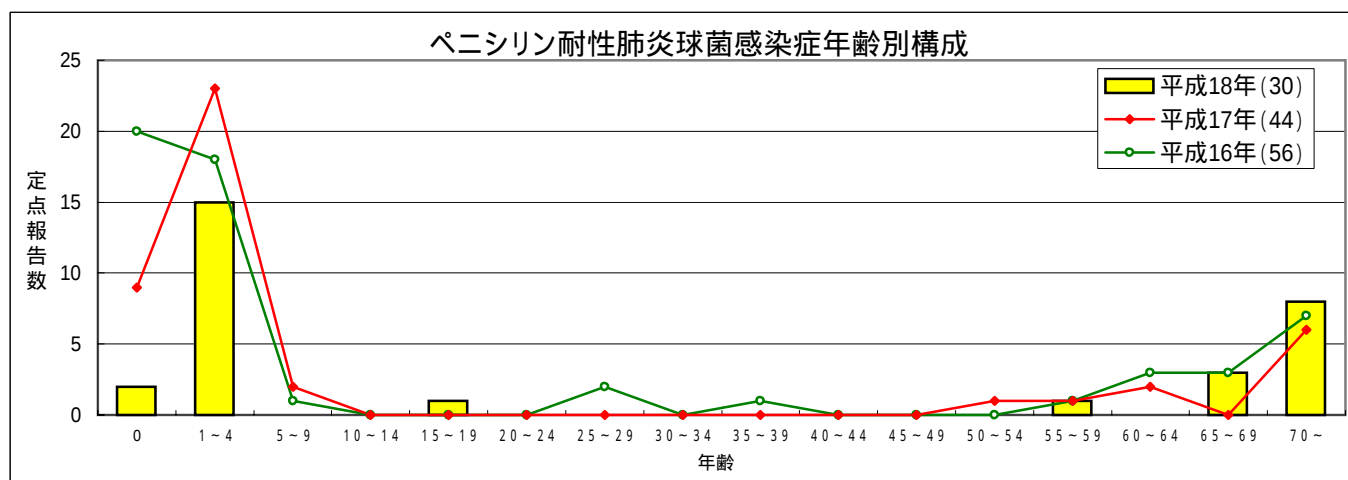
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は30例あり、1～4歳、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、全国と同様の年齢構成であった。

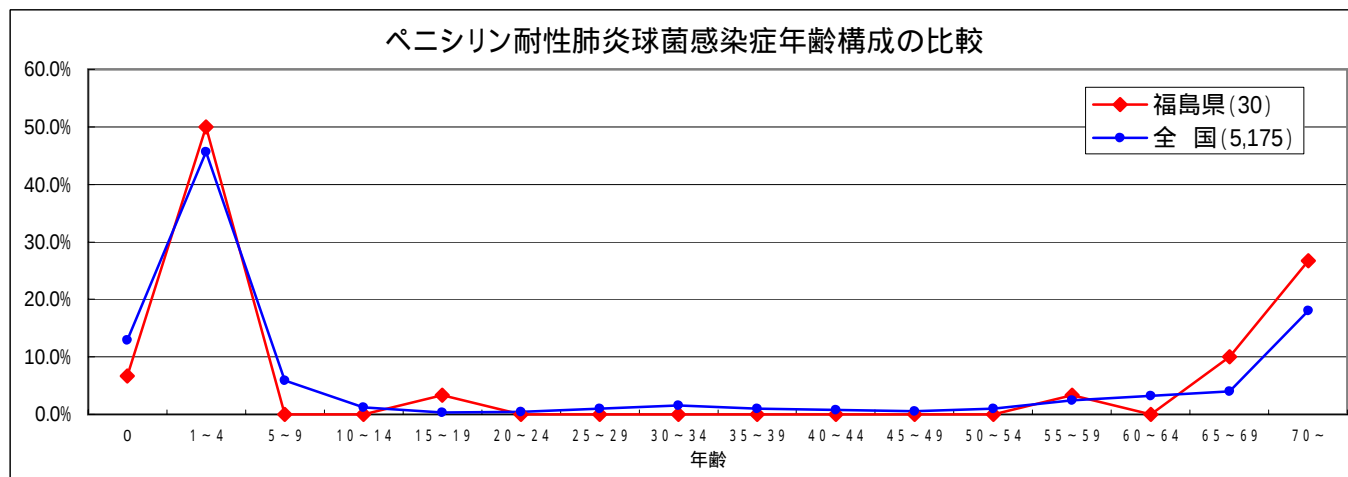


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年(30)	3	2	0	1	2	4	1	1	2	5	5	4	30
平成17年(44)	5	2	1	6	2	6	4	0	1	2	8	7	44
平成16年(56)	3	6	5	5	0	4	7	3	6	1	8	8	56

平成16～18年 県内の年齢別構成

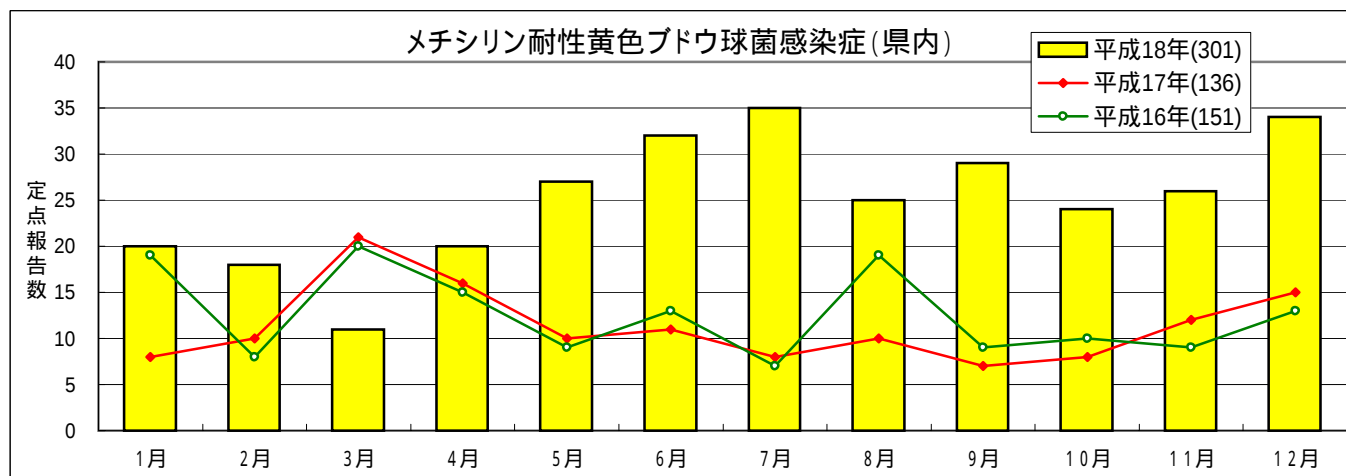


平成18年 年齢構成の比較



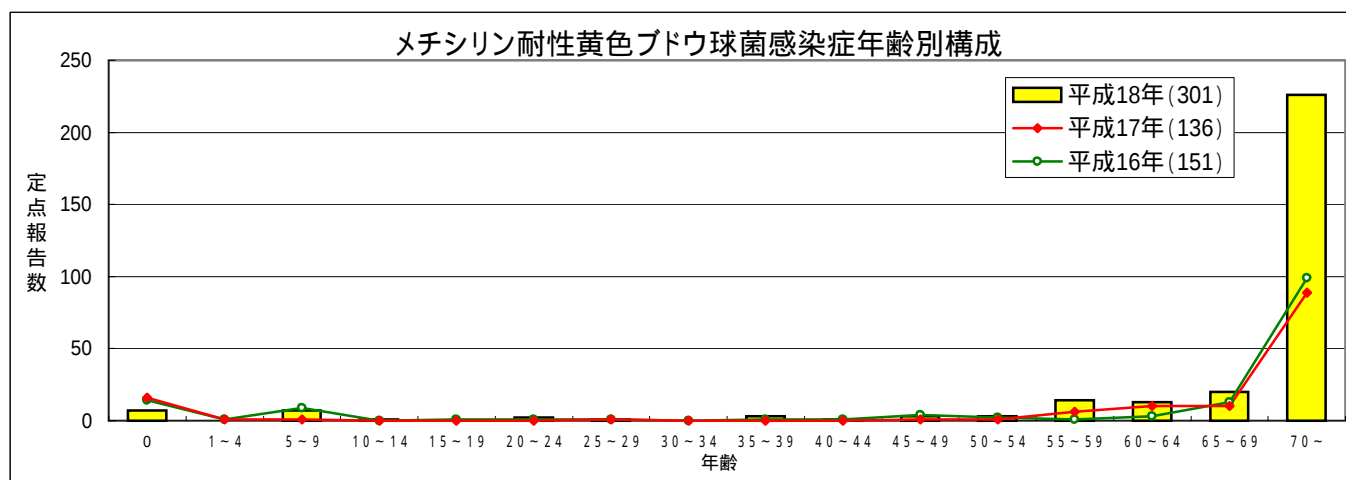
(85)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は301例あり、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、全国と同様の年齢構成であった。

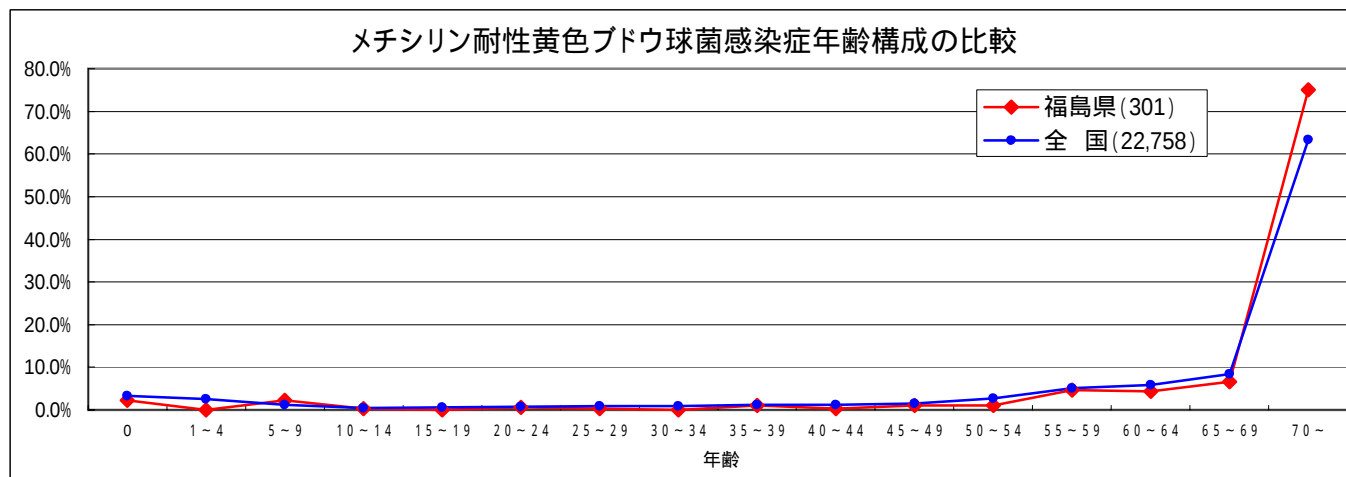


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年(301)	20	18	11	20	27	32	35	25	29	24	26	34	301
平成17年(136)	8	10	21	16	10	11	8	10	7	8	12	15	136
平成16年(151)	19	8	20	15	9	13	7	19	9	10	9	13	151

平成16～18年 県内の年齢別構成



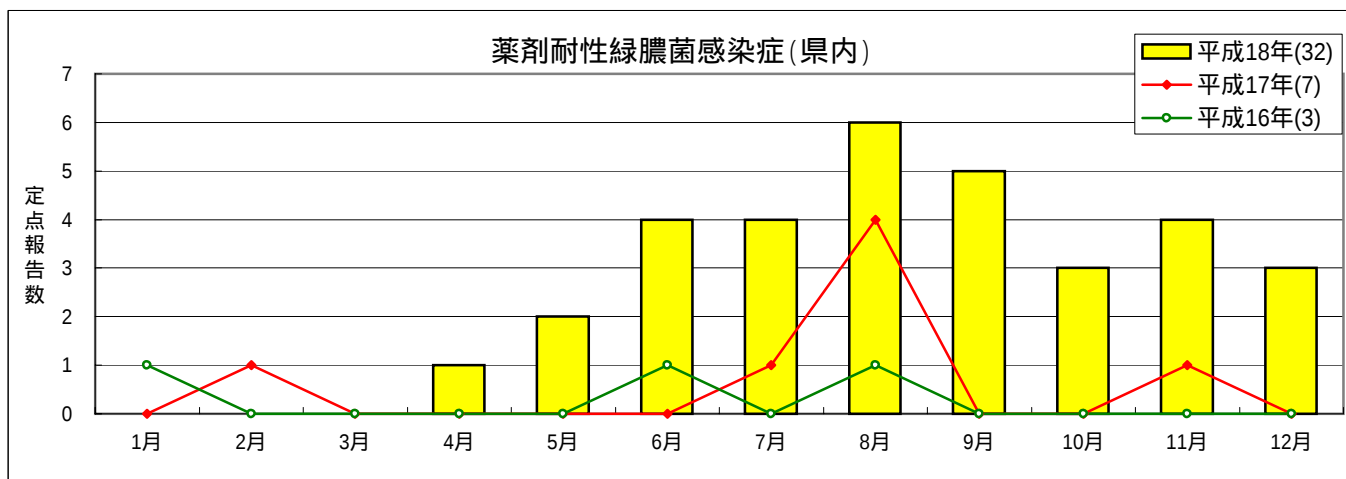
平成18年 年齢構成の比較



(86) 薬剤耐性緑膿菌感染症

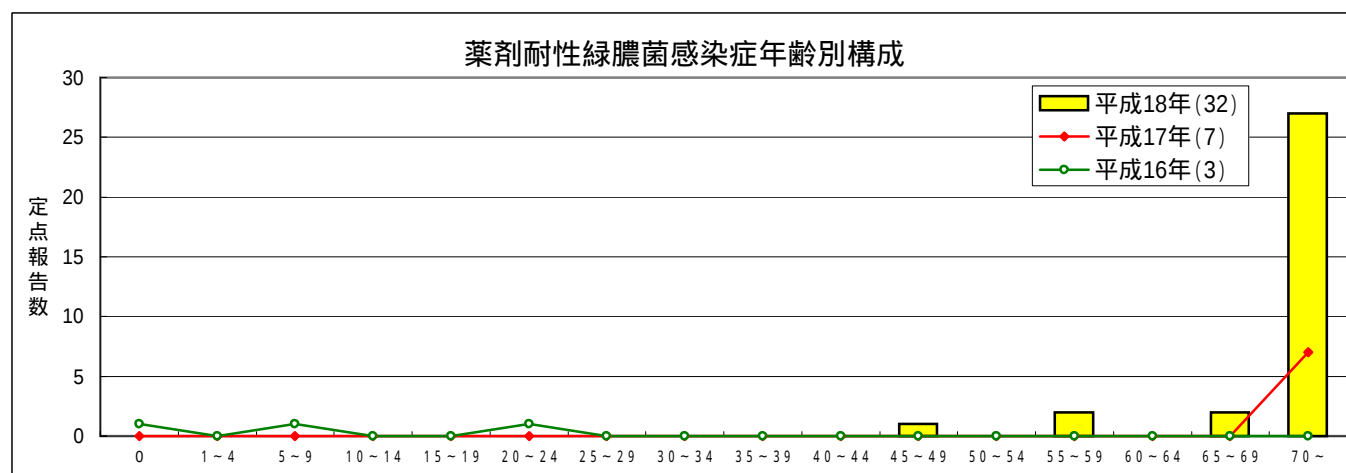
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は32例あり、70歳以上の報告が多かった。
また、年齢構成の全国との比較では、全国と同様の年齢構成であった。

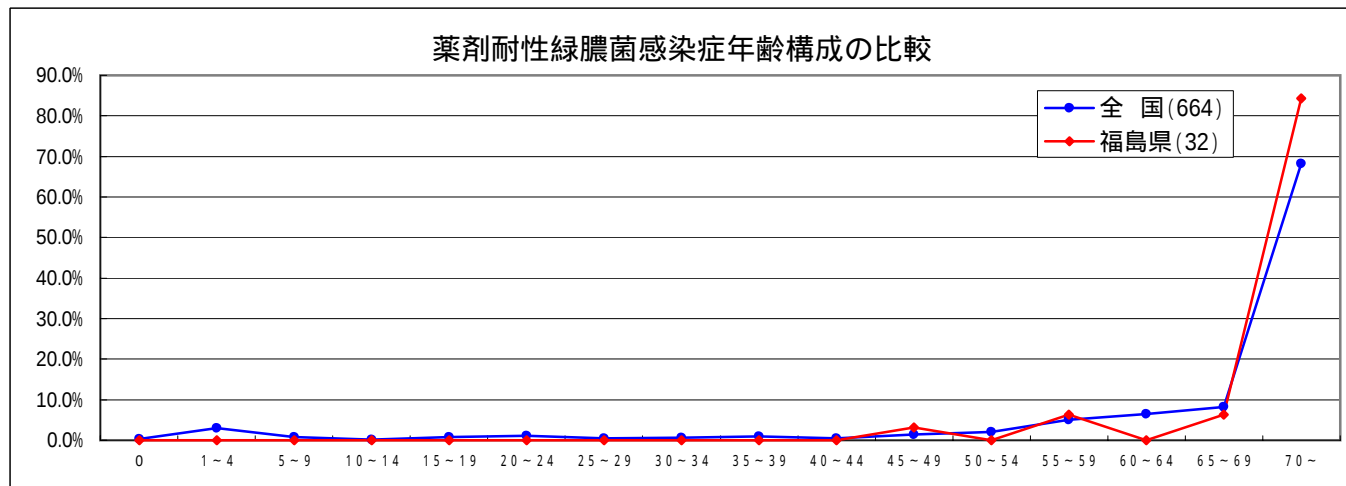


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成18年(32)	0	0	0	1	2	4	4	6	5	3	4	3	32
平成17年(7)	0	1	0	0	0	0	1	4	0	0	1	0	7
平成16年(3)	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3

平成16年～18年 県内の年齢別構成



平成18年 年齢別構成の比較



検 査 情 報

- (１) 2006 年感染症発生動向調査事業報告 (ウイルス)
- (２) 2006 年感染症発生動向調査事業報告 (細菌)
- (３) 2005/2006 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況

2006 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）

福島県衛生研究所 微生物グループ ウイルス

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき，県内の感染症発生の治療，予防に役立つ情報の提供を目的として，毎年対象病原体について感染症動向調査を行っている．本報では 2006 年のウイルス検索結果について報告する．

材 料

2006 年 1 月から 12 月までの間に，県内の基幹定点 7 機関，インフルエンザ定点 8 機関，小児科定点 5 機関，眼科定点 1 機関より採取された 1,303 症例由来の咽頭拭い液，糞便，髄液，眼瞼拭い液等，計 1,506 件を検体とした．

方 法

RD-18S，HEp-2，Vero，LLCMK2，MDCK，B95a の 6 種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した．検体が糞便の場合には，ラテックス凝集反応によるアデノ・ロタウイルス，さらに本年は RT-PCR 法によるノロウイルスの検出も併せて行った．分離ウイルスの同定には，抗血清を用いた中和試験を基本とし，補助的にダイレクトシークエンス法を行った．また，インフルエンザやパラインフルエンザなどのミクソ系ウイルスについては，赤

血球凝集抑制試験と赤血球吸着試験，単純ヘルペスウイルスには蛍光抗体法を用いた．

結果及び考察

1 保健所毎受付検体症例数

各保健所の月毎の受付検体症例数を表 1 に示した．本年は，昨年に比較して県南が 2 倍以上であったのに対し，県北が約半数に減少した．また例年同様，相双と郡山からの検体が多く，県中，会津方面からの検体は少ない．

2 検体の種類別検出状況

検体 1,506 件の内，433 症例 447 件の検体から 454 株のウイルスが検出された．

検出された検体の種類毎の内訳は，咽頭拭い液 340 件(74.1%)，糞便 106 件(23.4%)，髄液 5 件(1.1%)，眼瞼 1 件(0.2%)，その他 2 件(0.4%)であった．検査種類別検出率は，咽頭拭い液が 32.0 %で昨年より低かった¹⁾が，糞便と髄液ではそれぞれ 31.9 %と 6.0 %と昨年の倍近くであった(表 2)．

表 2 検査種類別 受付件数・検出件数

	咽頭	糞便	髄液	眼瞼	その他	計
受付件数	1,064	332	84	17	9	1,506
検出件数	340	106	5	1	2	454
検出率(%)	32.0	31.9	6.0	5.9	22.2	30.1

表 1 採取月別地区別受付検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	28	16	8	7	3	3	14	8	7	7	8	6	115
県中	10	1											11
県南	12	10	9	15	29	21	21	18	17	15	27	16	210
会津	2	2				1	2	2	2	1			12
南会津	1	8			3	1	5	2				1	21
相双	82	53	20	23	28	43	22	20	35	33	46	70	475
郡山市	60	25	25	29	18	24	34	11	20	26	27	47	346
いわき市	26	6		13	11	10	6	13	6	9	7	6	113
計	221	121	62	87	92	103	104	74	87	91	115	146	1,303

表 3 複数のウイルスが検出された検体

衛研 番号	検出ウイルス	採取月日	診断名	年齢	性別	住 所	咽頭	糞便
25	Polio 1 Polio 2	H18.1.2	腸重積	11ヶ月	女	福島市	○	
366	Adeno 2 Noro virus G	H18.2.10	急性腸炎	1歳	男	白河市	●	
594	Polio 1 Polio 2	H18.4.14	感染性 胃腸炎	6ヶ月	男	いわき市		
704	Influenza B CoxA 9	H18.6.2	急性扁桃炎	2歳	女	会津 若松市		
1266	Adeno dry(+) CoxB 2	H18.11.13	急性胃腸炎	2歳	男	郡山市		
1183	Adeno dry(+) Noro virus G	H18.11.16	急性胃腸炎	10ヶ月	男	福島市		
113	Rotadry(+) Noro virus G	H18.12.4	急性胃腸炎	10歳	女	郡山市		

：複数ウイルス検出 ●：1つのウイルス検出 ○：ウイルス検出無し

表 4 複数検体からウイルスが検出された症例

衛研 番号	検出ウイルス	採取月日	診断名	年齢	性別	住 所	咽頭	糞便	髄液
236	Adeno 1	H18.1.28	上気道炎	9ヶ月	男	相馬市	●	●	
366	Adeno 2 Noro virus G	H18.2.10	急性腸炎	1歳	男	白河市	●		
878	CoxB4	H18.7.20	髄膜炎	0ヶ月	男	郡山市	●	●	●
936	Echo 30	H18.8.21	髄膜炎疑い	11歳	男	泉崎村	●		●
1018	CoxA 16	H18.9.5	扁桃炎 口内炎	8ヶ月	男	相馬市	●	●	
1021	CoxA 16	H18.9.7	手足口病	1歳	女	相馬市	●	●	
1027	CoxA 16	H18.9.11	手足口病	1歳	男	相馬市	●	●	
1032	CoxB 2	H18.9.18	咽頭炎 熱性けいれん	2歳	男	浪江町	●	●	
1026	Echo 5	H18.9.9	肺炎 ヘルパンギーナ マイコプラズマ感染	1歳	男	相馬市	●	●	
1139	Entero71 Br	H18.11.2	扁桃炎 手足口病	8歳	男	相馬市	●	●	
1223	Entero71 Br	H18.11.15	手足口病 下痢	3歳	男	相馬市	●	●	
23	Entero71 Br	H18.12.5	手足口病	3歳	男	相馬市	●	●	

：複数ウイルス検出 ●：1つのウイルス検出

1つの検体から2種類のウイルスが検出されたものは7件あった(表3)。上気道炎の患児の咽頭拭い液1検体からインフルエンザB型とコクサッキーウイルスA9型が検出された以外は、胃腸炎患児の糞便から検出された。

1つの症例で複数の検体からウイルスが検出されたのは、12例あった(表4)。髄膜炎の1症例で、咽頭拭い液と糞便、髄液、もう1症例で咽頭拭い液と髄液から検出された以外は咽頭拭い液と糞便からであった。急性腸炎の

1 症例で糞便からアデノウイルス 2 型とノロウイルス G 型が検出された以外は、全て同一ウイルスが検出同定された。

3 月別検出状況

月別ウイルス検出状況を表 5 に示した。搬入検体は、1 月の 221 症例 246 件を最高に 1 ヶ月平均 109 症例 126 件であった。ウイルス検出は、インフルエンザウイルスが多く検出された 1 月が最も多く、120 症例(検出率 54.3 %)、122 株(検出率 49.6%)であった(図 1)。9 月は、エンテロウイルスが多く検出されたため検出率が高くなった。

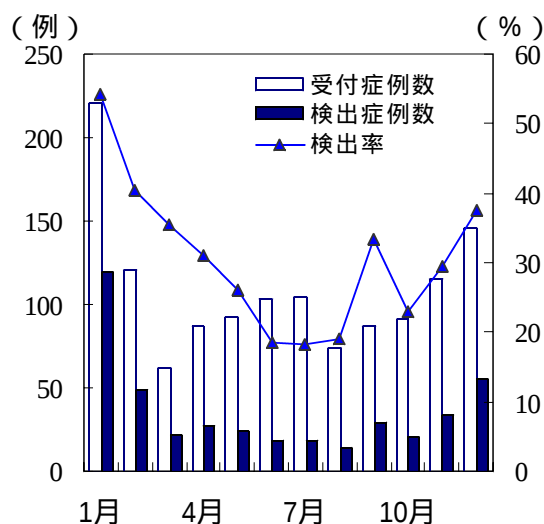


図 1 月別受付検体・ウイルス検出症例数

4 ウイルス別検出状況

最も検出数の多いインフルエンザウイルスについて 2005/2006 シーズンの最初の検出は、11 月 21 日採取の県北地区の 5 歳男児の咽頭拭い液からの A(H3)型であった。その後 A(H3)型は、11 月に 5 株、12 月に 40 株検出された後、1 月の 90 株をピークとして 4 月まで 166 株検出された(図 2)。また、A(H1)型は、1 月の 19 株をピークとして 4 月まで 52 株検出された。一方 B 型は、3 月になってから 1 株検出があり、その後 5 月の 14 株をピークとして 6 月まで 26 株検出された。検出数は、インフルエンザウイルス全体でも過去 5 年間で 2003/2004 シーズンに次いで少なく^{2・5)}、規模の小さい流行であった。また、今シーズンも 3 種類の混合流行であったが、前

(例)

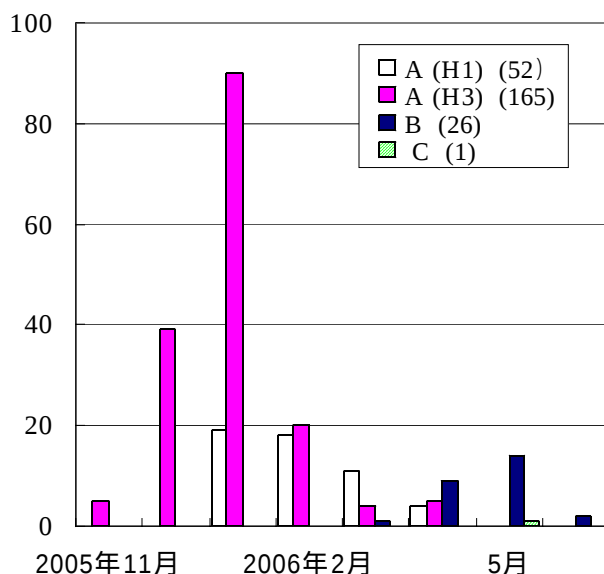


図 2 インフルエンザウイルスの検出状況

年シーズンが B 型と A(H3)型が主流であった⁵⁾のに対し、A(H3)型主流の流行であった。

また、本年は、C 型が 5 月 8 日採取の咽頭拭い液から検出された。患者は相双地区の 7 ヶ月の扁桃炎の男児であった。

アデノウイルスは、全体で、76 症例 78 株検出された。内訳を図 3 に示した。本年最も検出株数が多かったのは昨年同様アデノ 2 型で、31 症例 32 株、年間を通して検出された。診断名は、上気道炎がほとんどであった(表 6)。アデノ 1 型、3 型、5 型は、いずれも 13 ~ 14 株検出された。6 型が 11 月に県南で急性鼻咽頭炎の 1 歳男児の咽頭拭い液か

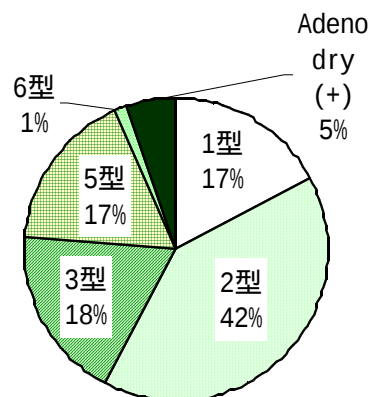


図 3 検出アデノウイルス内訳 (76 症例)

表5 月別ウイルス検出状況

上段：症例数，下段：株数								2007年2月16日現在					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
Adeno virus 1	3 (4)			1 (1)	1 (1)	5 (5)					2 (2)	1 (1)	13 (14)
Adeno virus 2	1 (1)	2 (3)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	6 (6)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	2 (2)	3 (3)	31 (32)
Adeno virus 3	1 (1)			3 (3)	1 (1)				2 (2)	3 (3)	4 (4)		14 (14)
Adeno virus 5	3 (3)			1 (1)	2 (2)	3 (3)	3 (3)				1 (1)		13 (13)
Adeno virus 6											1 (1)		1 (1)
Polio virus	1 (2)			1 (2)	1 (1)	1 (1)			1 (1)				5 (7)
Cox virus A4						1 (1)	1 (1)						2 (2)
Cox virus A9						1 (1)				3 (3)	1 (1)		5 (5)
Cox virus A10									1 (1)				1 (1)
Cox virus A16	1 (1)						1 (1)	7 (7)	6 (9)	1 (1)	4 (4)		20 (23)
Cox virus B2						1 (1)		1 (1)	5 (6)	3 (3)	1 (1)		11 (12)
Cox virus B4							2 (4)						2 (4)
Echo virus 5								1 (1)	8 (9)		1 (1)		10 (11)
Echo virus 18							2 (2)	2 (2)	1 (1)				5 (5)
Echo virus 30							3 (3)	1 (2)				2 (2)	6 (7)
Parecho virus 1 (E22)									1 (1)				1 (1)
Entero virus 71								1 (1)	1 (1)	2 (2)	3 (5)	1 (2)	8 (11)
Influenza virus A (H1)	19 (19)	18 (18)	11 (11)	4 (4)									52 (52)
Influenza virus A (H3)	90 (90)	20 (20)	4 (4)	5 (5)								2 (2)	121 (121)
Influenza virus B			1 (1)	9 (9)	14 (14)	2 (2)							26 (26)
Influenza virus C					1 (1)								1 (1)
Mumpus virus				1 (1)			2 (2)			1 (1)	1 (1)		5 (5)
Herpes simplex virus	1 (1)		1 (1)				1 (1)				1 (1)		4 (4)
Noro virus G		10 (10)	3 (3)								9# (9)	40 (41)	62 (63)
Rota dry (+)												1 (1)	1 (1)
Adeno dry (+)					1 (1)						3 # (3)		4 (4)
未同定									2 (2)	4 (4)	2 (2)	6 (6)	14 (14)
検出症例数 (株数)	120 (122)	49 (51)	22 (22)	27 (28)	24 (24)	19 (20)	19 (21)	14 (15)	29 (34)	21 (21)	34 (38)	55 (58)	433 (454)
症例数 (検体数)	221 (246)	121 (140)	62 (66)	87 (96)	92 (103)	103 (120)	104 (116)	74 (85)	87 (115)	91 (111)	115 (138)	146 (170)	1,303 (1506)
検出率 (%)	54.3 (49.6)	40.5 (36.4)	35.5 (33.3)	31.0 (29.2)	26.1 (23.3)	18.4 (16.7)	18.3 (18.1)	18.9 (17.6)	33.3 (29.6)	23.1 (18.9)	29.6 (27.5)	37.7 (34.1)	33.2 (30.1)

及び#：同一症例

表6 診断名別検出ウイルスおよび検出率

2007年2月16日現在

	上気道 炎	下気道 炎	インフル エンザ	胃腸炎	髄膜炎	手足 口病	口内 炎	発疹 症	ヘルパン ギーナ	熱性 痙攣	結膜 炎等	その他	計
Adeno virus 1	7	4		1						1			13
Adeno virus 2	19	6		3				1		2			31
Adeno virus 3	11			1							2		14
Adeno virus 5	7	3		1					1		1		13
Adeno virus 6	1												1
Polio virus		1		3						1			5
Cox virus A4									1			1	2
Cox virus A9	3			1				1					5
Cox virus A10	1												1
Cox virus A16	2					18							20
Cox virus B2	6			1 #				1	1	1		1	11
Cox virus B4	1				1								2
Echo virus 5	4	2		2	1				1				10
Echo virus 18	2							3					5
Echo virus 30				4	1				1				6
Parecho virus 1 (E22)		1											1
Entero virus 71	1					7							8
Influenza virus A (H1)	1		51										52
Influenza virus A (H3)	5	4	111							1			121
Influenza virus B	4	1	21										26
Influenza virus C	1												1
Mumps virus	1	1			2					1			5
Herpes simplex virus 1	1						3						4
Noro virus G				62 *									62
Rota dry (+)				1									1
Adeno dry (+)				4 # *									4
未同定	3	2		4			1	1		1		2	14
検出症例数	80	25	183	84	5	25	4	7	5	8	3	4	433
(%)	(18.5)	(5.8)	(42.3)	(19.4)	(1.2)	(5.8)	(0.9)	(1.6)	(1.2)	(1.8)	(0.7)	(0.9)	(100)
受付検体症例数	332	175	231	213	28	39	15	47	55	63	26	79	1,303
(%)	(25.5)	(13.4)	(17.7)	(16.3)	(2.1)	(3.0)	(1.2)	(3.6)	(4.2)	(4.8)	(2.0)	(6.1)	(100)
検出率 (%)	24.1	14.3	79.2	39.4	17.9	64.1	26.7	14.9	9.1	12.7	11.5	5.1	33.2

(胃腸炎については# * についても) : 同一症例

ら検出された。

エンテロウイルスは、全体で 76 症例 89 株の検出で過去 5 年間で最も少なかった^{1), 6-8)}。本年は、手足口病や髄膜炎などの対象疾患の流行が小さかった⁹⁾ためと思われる。最も多く検出されたのは、昨年引き続きコクサッキーウイルス A16 型で、20 症例 23 株と全体の 25 %を占めた(図 4)。前年多く検出されたエコーウイルス 16 型¹⁾の検出はなかった。

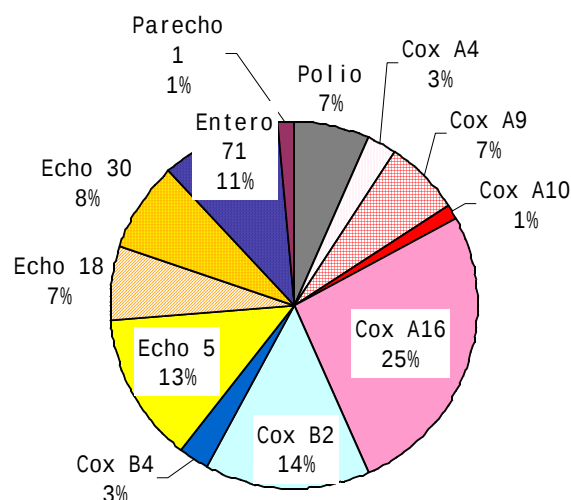


図 4 検出エンテロウイルス内訳(76 症例)

コクサッキーウイルス A16 型は、1 月に 1 株検出があり、その後 7 月～ 11 月の手足口病の流行時期に合計 22 株の検出があった。上気道炎の患児 2 名(内 1 名は口内炎を伴う)以外は、全て手足口病の患児からの検出であった。また、コクサッキーウイルス A16 型と並んで手足口病の主要起因ウイルスであるエンテロウイルス 71 型は、コクサッキーウイルス A16 型より 1 ヶ月遅れて流行が始まり、8 月～ 12 月に合計 8 症例から 11 株検出された。

その他のコクサッキー A 群ウイルスは、4 型、9 型、10 型が検出された。4 型は、全国的には本年最も多く検出された¹⁰⁾エンテロウイルスの 1 つであったが、本県では 6 月と 7 月の 2 株の検出にとどまった。臨床症状は、ヘルパンギーナと無熱性けいれんであった。9 型は、6 月、10 月、11 月に上気道炎、胃腸

炎、発疹症の患児から検出された。

コクサッキー B 群ウイルスは、2 型と 4 型の 2 種類のみで、昨年多く検出された 3 型¹⁾は検出がなかった。本年は、2 型が 11 症例 12 株で最も多く検出された。これは、全国と同じ状況であった¹⁰⁾。検出時期は、9 月をピークとして 7 月から 11 月までであった。症状は上気道炎が多かったが、胃腸炎や熱性痙攣、ヘルパンギーナ、発疹症などの患児からの検出もあった。4 型は、7 月に髄膜炎の生まれて 1 ヶ月未満の患児の咽頭拭い液と糞便、髄液の 3 種類の検体から検出があった。

エコーウイルスは、5 型、18 型、30 型の 3 種類が検出された。中でも、5 型が 1992 年以來の検出であった¹¹⁾が、10 症例 11 株と最も多く検出された。県北と相双地区の上気道炎や胃腸炎の患児からの検出が多かったが、9 月に相双地区の 16 歳の髄膜炎患者の髄液から検出があった。18 型は、全国的にはエンテロウイルスの中で本年最も多く検出されたウイルスであった^{10), 12)}が、本県においては、5 症例と少なめであった。7 月、8 月に会津地区の上気道炎と発疹症の 1 歳以下の患児 4 名、9 月に県南の上気道炎の患児 1 名から検出された。30 型は、7 月と 12 月に浜通り地区の胃腸炎患児 4 名とヘルパンギーナ患児 1 名から検出されたが、8 月に県南地区の髄膜炎の 11 歳患児の咽頭拭い液と髄液から検出があった。

ポリオウイルスは、春と秋の定期集団予防接種後の時期を中心に乳児 5 症例から 7 株が検出された。これらは全てワクチン接種後の検出で、ワクチン由来株であると思われる。

その他のウイルスについて、麻疹ウイルスは、本年は患者報告が 1 名もなく⁹⁾検出もなかった。一方ムンプスウイルスは、昨年に引き続き流行があった⁹⁾ため、5 症例から検出があった。この内、髄膜炎にまで至ったのが 2 症例あった。その他、単純ヘルペスウイルスは 1 型が、1 月、3 月、7 月、11 月に合計 4 症例 4 株検出された。ロタウイルスは、2 月と 8 月を除いて搬入のあった生便検体合計 92 件について検査を行ったが、12 月に郡山市の胃腸炎症状の 10 歳児 1 名からの検出のみであった。

また、本年は年間を通して、生便合計 90 件（出血性腸炎と急性咽頭炎の 2 件を除く）とノロウイルス感染が疑われる症例の直腸拭い液合計 91 件について、RT-PCR 法によるノロウイルスの検査を行った。その結果、2 月 10 件、3 月 3 件、11 月 9 件、12 月 40 件からノロウイルス G 型が確認された。感染性胃腸炎は、例年 11 月から 12 月にかけて流行のピークがあるが、本年は特にこの時期全国的にも大流行があり、検体も多く搬入された。その生便検体のほとんどから検出された結果となった。ノロウイルスは冬期間における感染性胃腸炎の主要起因ウイルスであると言われている¹³⁾が、本県においてもそれが今回の検査結果から確認できた。今まで本県では、ノロウイルスなどの細胞分離ができないウイルスについて、本事業において実施していなかったが、本年の検査結果から今後も実施していく必要があると考える。

5 診断名別検出状況

本年受付検体症例数が最も多かったのは、上気道炎の検体で、332 症例あり、内 80 症例からウイルスが検出された（検出率 24.1 %）。内訳は、アデノウイルス、コクサッキー A 群及び B 群ウイルス、エコーウイルス、インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、単純ヘルペスウイルスと多岐に渡った。その中でも本年はアデノウイルスの検出が多く、2 型 19 症例、3 型 11 症例など合わせて 45 症例と 56 %を占めた。

インフルエンザは、231 症例と流行規模が小さかったため搬入検体数も例年より少なかった。内 183 症例からウイルスが検出され（検出率 79.2 %）、全てインフルエンザウイルスであった。

3 番目に受付検体症例数が多かった胃腸炎の検体からは、213 症例中 84 症例でウイルスが検出された（検出率 39.4 %）。内訳は、ノロウイルス、ロタウイルス、エコーウイルス、ポリオウイルス、アデノウイルス、コクサッキー A 群及び B 群ウイルスと様々であった。その中で最も多かったのは、ノロウイルスで 62 症例で 73.8 %を占めた。本年は年間を通じてノロウイルスの検査を行ったため

であるが、結果として、胃腸炎症例全体の検出率も、昨年、一昨年の約 1.5 倍^{1)、8)}になった。次いでロタウイルスとエコーウイルスが共に 4 症例（4.8 %）であった。

下気道炎の検体からは、175 症例中 25 症例からウイルスが検出された（検出率 14.3 %）。内訳は、アデノウイルス 2 型 6 症例（24.0 %）、アデノウイルス 1 型とインフルエンザウイルス A(H3)型が共に 4 症例（16.0 %）等であった。

手足口病について、患者報告が前年の約半数と過去 5 年間で最も少なかった^{14)、15)}こともあり、搬入検体数も 39 症例と少なかった。内 25 症例からウイルスが検出され、検出率は 64.1 %と高率であった。本年は、昨年同様コクサッキーウイルス A16 型が主流¹⁾で 20 症例（72.0 %）23 株検出があった。また、昨年検出が無かったエンテロウイルス 71 型が 8 症例（28.0 %）11 株の検出があった。全国的には昨年主流だったコクサッキーウイルス A16 型が減少し、エンテロウイルス 71 型が半数を占め主流であった¹⁶⁾ことから、本県においても今後エンテロウイルス 71 型に移行していく兆候ではないかと思われる。

髄膜炎は、本年も流行がほとんど無く⁹⁾、受付検体も 28 症例と少なかった。検出は 5 症例（検出率 17.9 %）で、ムンプスウイルスが 2 症例、コクサッキーウイルス B4 型とエコーウイルス 5 型、エコーウイルス 30 型が各 1 症例検出されたのみであった。

ヘルパンギーナについては、受付検体 55 症例中 5 症例からウイルスが検出された（検出率 9.1 %）。検出ウイルスは、アデノウイルス 5 型、コクサッキーウイルス A4 型、コクサッキーウイルス B2 型、エコーウイルス 5 型と 30 型が各 1 症例であった。

流行性角結膜炎は、春から夏の流行期を中心に眼科定点から 16 症例の検体の搬入があったが、4 月に県北地区の 40 歳の患者の眼瞼拭い液からアデノウイルス 3 型が 1 株検出されたのみであった。また、咽頭結膜熱については、昨年、一昨年に引き続き流行した⁹⁾が、相馬地区からを中心に 10 症例の検体の搬入があった。ウイルスの検出は 2 症例で、6 月に相双地区の 3 歳患児からアデノウイルス

5 型, 11 月にいわき市の 9 歳患児からアデノウイルス 3 型が検出された。

まとめ

1 インフルエンザは, 小規模な流行で, 検出ウイルスは A(H3)型を主流とした A(H1)型と B 型の 3 種類の混合であった。

2 手足口病も, 流行が小さかった。検出ウイルスは昨年に引き続きコクサッキーウイルス A16 型が中心であったが、エンテロウイルス 71 型の検出もあり, 全国の状況から今後は変化していくものと思われた。

3 エコーウイルス 5 型が, 本県では 1992 年以来 14 年ぶりに検出があり, 10 症例 11 株検出された。

4 ノロウイルスについて, 本年は年間を通じて検査を実施した。その結果, 年末の全国的な感染性胃腸炎の大流行の影響もあって, 合計 62 症例 63 株から G 型が検出され, 胃腸炎の患者から検出されたウイルスの 73.8 %を占めた。

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

- 1)金成篤子, 水沢丈子, 広瀬昌子, 他. 2005 年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス). 福島県衛生研究所年報. 2005; 23: 73-79.
- 2)亘理智子, 平澤恭子, 菅野正彦, 他. 2001/2002 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況. 福島県衛生研究所年報. 2000/2001; 18/19: 148-156.
- 3)亘理智子, 菅野正彦, 水沢丈子, 他. 2002/2003 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況. 福島県衛生研究所年報. 2002; 20: 55-63.
- 4)亘理智子, 水沢丈子, 慶野昌明, 他. 2003/2004 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況. 福島県衛生研究所年報. 2003; 21: 71-77.
- 5)水沢丈子, 結城智子, 平澤恭子, 他. 2004/2005 シーズンの県内におけるインフルエンザの流

行状況. 福島県衛生研究所年報. 2004; 22: 67-73.

6)慶野昌明, 菅野正彦, 金成篤子, 他. 平成 14 年感染症発生動向調査(ウイルス検出状況). 福島県衛生研究所年報. 2002; 20: 41-45.

7)金成篤子, 慶野昌明, 水澤丈子, 他. 平成 15 年感染症発生動向調査病原体検査結果報告(ウイルス). 福島県衛生研究所年報. 2003; 21: 55-62.

8)金成篤子, 慶野昌明, 水澤丈子, 他. 2004 年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス). 福島県衛生研究所年報. 2004; 22: 54-58.

9)福島県衛生研究所感染症情報センター. 福島県感染症発生動向調査週報 2007 年第 6 週. 2007; 6: 4-11.

10)国立感染症研究所. 感染症情報センター <http://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data58j.pdf> 2007/2/16

11)横山博子, 鈴木サヨ子, 水澤丈子, 他. 平成 4 年結核・感染症サーベイランス事業調査報告(ウイルス). 福島県衛生公害研究所年報. 1993; 10: 79-84.

12)国立感染症研究所. 感染症情報センター <http://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data60j.pdf> 2007/2/16

13)国立感染症研究所. <特集> ノロウイルス感染集団発生 2003 年 9 月～2005 年 10 月. 病原微生物検出情報. 2005; 26: 1-2.

14)福島県感染症情報センター. 平成 17 年福島県感染症発生動向調査事業報告書 2006; 22: 16.

15)福島県感染症情報センター. 平成 15 年福島県感染症発生動向調査事業報告書 2004; 29: 21.

16)国立感染症研究所. 感染症情報センター <http://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf> 2007/2/16

2006 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

福島県衛生研究所 微生物グループ 細菌

はじめに

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき，県内の感染症発生の治療，予防に役立つ情報の提供を目的として，対象病原体について感染症発生動向調査を行っている．本報では 2006 年の細菌検査結果について報告する．

材 料

2006 年 1 月から 12 月まで，県内 11 定点のうち，協力の得られた 7 定点医療機関より採取された 706 件を対象とした．検体の内訳は表 1 に示したとおり，咽頭・扁桃拭い液 340 件，後鼻腔拭い液 274 件，糞便・直腸拭い液 82 件，髄液 10 件であり，菌株による搬入は 335 件である．

方 法

1 細菌分離

A 群溶血性レンサ球菌（以下，A 群溶レン菌），細菌性髄膜炎起因菌，百日咳菌，感染性胃腸炎起因菌等を対象とし，厚生省監修「微生物検査必携・第 3 版」に従い検索した．

2 薬剤耐性遺伝子検出，薬剤感受性試験

肺炎球菌，インフルエンザ菌の薬剤耐性遺

伝子の検出および，薬剤感受性試験は，既報¹⁾の方法により実施，判定した．なお，薬剤感受性試験は，公立相馬総合病院検査科で実施した．

結 果

1 患者居住地別症例数

表 2 に示したとおり総検体 706 件のうち，郡山市と相馬市で 527 件(74.6 %)を占め，地域に偏りが認められる．

表 2 居住地別症例数

地 域 名	症例数	地 域 名	症例数
福 島 市	6	東白川郡	1
本 宮 市	1	会津若松市	2
安 達 郡	45	大 沼 郡	1
郡 山 市	275	相 馬 市	252
田 村 市	13	南相馬市	5
田 村 郡	14	相 馬 郡	55
須賀川市	10	双 葉 郡	1
白 河 市	7	いわき市	2
西白河郡	4	県 外	12
計		706	

2 検査材料別分離率

輸送培地で搬入した検体について，細菌分離率を表 3 に示す．咽頭拭い液は 93.2 %，糞便・直腸拭い液は 34.9 %であった．

表 1 月別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・扁桃拭い液	52	56	65	36	50	31	13	5	11	6	10	5	340
スワブ(再掲)	(52)	(41)	(28)	(33)	(49)	(28)	(11)	(5)	(11)	(6)	(10)	(5)	(279)
平板(再掲)		(14)	(34)										(48)
菌株(再掲)		(1)	(3)	(3)	(1)	(3)	(2)						(13)
後鼻腔拭い液	22	23	24	26	25	18	25	20	23	22	25	21	274
糞便・直腸拭い液	2	3	6	6	5	6	8	6	8	4	10	18	82
キャリニア(再掲)	(1)		(5)	(2)	(2)	(2)	(4)	(3)	(6)	(2)	(6)	(10)	(43)
菌株(再掲)	(1)	(3)	(1)	(4)	(3)	(4)	(4)	(3)	(2)	(2)	(4)	(8)	(39)
髄液					4	2		1	1		1	1	10
髄液(再掲)					(1)								(1)
菌株(再掲)					(3)	(2)		(1)	(1)		(1)	(1)	(9)
計	76	82	95	68	84	57	46	32	43	32	46	43	706

表3 月別・検査材料別分離率

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭拭い液	スワブ	52	41	28	33	49	28	11	5	11	6	10	5	279
	分離数	51	37	27	31	45	26	9	4	10	5	10	5	260
	分離率(%)	(98.1)	(90.2)	(96.4)	(93.9)	(91.8)	(92.9)	(81.8)	(80.0)	(90.9)	(83.3)	(100)	(100)	(93.2)
糞便・直腸拭い液	キャリブ・レア	1		5	2	2	2	4	3	6	2	6	10	43
	分離数	1		2	1	1	1	2			1	2	4	15
	分離率(%)	(100)		(40.0)	(50.0)	(50.0)	(50.0)	(50.0)	(0)	(0)	(50.0)	(33.3)	(40.0)	(34.9)

3 細菌分離状況

表4に月別分離状況を示す。

1) 溶血性レンサ球菌(以下、溶レン菌)

A群溶レン菌は307株分離され、すべて呼吸器症状を有する患者の上気道拭い液(咽頭・扁桃278株、後鼻腔29株)由来である。

患者の年齢は、0～66歳で、4～7歳が65.8%を占め、ピークは5歳であった。また、月別では1～6月に275株(89.6%)を検出した。

A群溶レン菌の血清型は9種類に型別された(表4)。最も多く分離されたのはT-1型138株(45.0%)、次いでT-4型52株(16.9%)、T-6型44株(14.3%)、T-12型41株(13.4%)、T-11型、T-B3264型9株(2.9%)の順であった。

A群抗原を持つ *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* は9、10月に上気道拭い液から4株分離された。患者の年齢は2～5歳で、相双、郡山地区からの分離である。

他の溶レン菌は、年間を通じて36株分離された。内訳はB群溶レン菌8株、C群溶レン菌3株、G群溶レン菌25株である。G群溶レン菌1株以外は呼吸器感染症患者の咽頭・後鼻腔拭い液由来で、G群溶レン菌1株は、気管支炎・大腸炎患者の直腸拭い液からの分離である。

B群溶レン菌8株の血清型はIb型3株、NT6型2株、JM9型、型、型不明各1株であった。B群溶レン菌分離患者の年齢は0～12歳で、0歳(3株)が多く、12歳の患者は腎盂腎炎を伴っていた。

G群溶レン菌の患者の年齢は0～13歳で、5～7歳が56.0%を占めた。

2) 糞便・直腸ぬぐい液からの腸管系病原菌

腸管系病原菌は51株分離され(表4)、内訳は下痢原性大腸菌39株、サルモネラ7株、

エルシニア・エンテロコリチカ3株、腸炎ビブリオ O3:K5、カンピロバクター・ジェジュニ各1株である。大腸菌の血清型は11種類で、O111が最も多く9株(23.1%)、次いでO1が7株(17.9%)、O18が6株(15.4%)であった。O157はベロ毒素1型、2型遺伝子を保有していたが、他の大腸菌には毒素遺伝子は認められなかった。サルモネラの血清型は5種類で、Heidelberg、Schleissheim各2株、Hvittingfoss、Richmond、Agona各1株であった。エルシニアは血清型O3生物型4が2株、血清型O8生物型1Bが1株であった。

サルモネラの薬剤感受性試験をKBディスクによって行った²⁾。その結果、本調査で分離されたサルモネラの内、Agonaはアンピシリン、テトラサイクリンに耐性であった。

3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌

肺炎球菌は117株分離された。細菌性髄膜炎患者の髄液由来は2株で、その他は呼吸器感染症患者の上気道(後鼻腔112株、咽頭3株)由来である。

患者の年齢は、細菌性髄膜炎患者(72, 62歳)を除くと、0～15歳で、0～2歳が66.7%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌は136株分離された。由来は細菌性髄膜炎患者(0歳)の髄液由来が3株で、他は呼吸器感染症患者の気道(後鼻腔117株、咽頭16株)由来である。

患者の年齢は、0～15歳で、0～2歳が52.9%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌の血清型は、型不明が最も多く112株(82.4%)、次いでd型14株(10.3%)、b型6株(4.4%)、f型4株(3.0%)であった。なお、細菌性髄膜炎患者髄液分離株3株はすべてb型であった。

4) 髄液からの検出菌

前述のインフルエンザ菌、肺炎球菌を除い

表4 月別細菌分離状況(2006年1~12月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群溶レン菌 T-1	20	23	37	11	22	15	4	1	2	1	1	1	138
A群溶レン菌 T-3				2	1								3
A群溶レン菌 T-4	14	6	13	5	6	2	2		1	1	2		52
A群溶レン菌 T-6	8	15	5	7	5	1	1				2		44
A群溶レン菌 T-11	1	2		1	1	1					2	1	9
A群溶レン菌 T-12	4	3	8	12	7	2	3		1		1		41
A群溶レン菌 T-13				1	1					1			3
A群溶レン菌 T-28		1			2	2	1						6
A群溶レン菌 T-B3264	1	2	1	1	1						2	1	9
A群溶レン菌 T型不明	1		1										2
A群 <i>S.equisimilis</i>									3	1			4
B群溶レン菌 Ib型					1				1		1		3
B群溶レン菌 NT6型			1			1							2
B群溶レン菌 JM9型										1			1
B群溶レン菌 型			1										1
B群溶レン菌 型不明							1						1
C群溶レン菌	2								1				3
G群溶レン菌	2	3	1	1	3		4	2	2	3	2	2	25
<i>E.coli</i> O1			1	1					1		1	2	7
<i>E.coli</i> O6										1		1	2
<i>E.coli</i> O15												1	1
<i>E.coli</i> O18		2		1	1	1						1	6
<i>E.coli</i> O25			2	1		1							4
<i>E.coli</i> O44											1	1	2
<i>E.coli</i> O111				1	1						4	3	9
<i>E.coli</i> O119						1							1
<i>E.coli</i> O126	1	1					1					1	4
<i>E.coli</i> O157 VT1,2(+)							2						2
<i>E.coli</i> O166	1												1
<i>S. Heidelberg</i>								1	1				2
<i>S. Hvitittingfoss</i>						1							1
<i>S. Richmond</i>								1					1
<i>S. Schleissheim</i>							1	1					2
<i>S. Agona</i>												1	1
<i>V.parahaemolyticus</i> O3:K5							1						1
<i>Y.enterocolitica</i> O3				1	1								2
<i>Y.enterocolitica</i> O8					1								1
<i>C.jejuni</i>							1						1
<i>C.neoformans</i>									1				1
<i>A.radioresistens</i>						1							1
<i>S.aureus</i>			2		2	3			1		2	1	11
<i>S.epidermidis</i>								2					2
<i>E.cloacae</i>			1		1								2
<i>K.pneumoniae</i>					1								1
<i>K.oxytoca</i>				1		1							2
<i>P.aeruginosa</i>											1		1
<i>S.marcescens</i>				1	1								2
<i>S.maltophilia</i>								1	1				2
<i>S.pneumoniae</i> PSSP	1	3	2	2	1	1		1		1	3		15
<i>S.pneumoniae</i> PISP	3	2	5	6	3	4	6	3	2	6	1	8	49
<i>S.pneumoniae</i> PRSP	6	5	3	2	7	6	3	4	7	2	6	2	53
<i>H.influenzae</i> BLNAS	3	2	8	2	3	1	1	3	3	4	5	1	36
<i>H.influenzae</i> 軽度BLNAR				2	1	2	2				1		8
<i>H.influenzae</i> BLNAR	5	4	1	6	9	10	7	7	8	5	5	8	75
<i>H.influenzae</i> BLPAR	3	4	4		1							1	13
<i>H.influenzae</i> BLPACR-				1						1			2
<i>H.influenzae</i> BLPACR-		1										1	2
計	76	79	97	69	84	57	41	27	36	29	43	38	676

て，敗血症患者から *Enterobacter cloacae* (0 歳)，髄膜炎患者から *Staphylococcus epidermidis* (1 歳)，*Acinetobacter radioresistens* (69 歳)，*Cryptococcus neoformans* (80 歳) が分離された。

Acinetobacter radioresistens の同定は，バイテックで 97%*Acinetobacter lwoffii/junii*，アピ 20NE で 59%*Acinetobacter lwoffii*，40%*Acinetobacter radioresistens* という結果を得たが，反応陽性となる項目が少ないこと，バイテックの同定菌種に *Acinetobacter radioresistens* が含まれないことから，岐阜大学大学院研究科病原体制御学分野大楠清文助教授に依頼し，16S rRNA 遺伝子配列（約 1400 塩基）により菌種を決定した。

4 肺炎球菌，インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果と Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) による薬剤感受性判定結果を表 5 に示す。

遺伝子検査の結果，ペニシリン結合蛋白をコードする 3 種類の遺伝子 *pbp* の何れかに変異が認められた株は 117 株中 102 株 (87.2 %) であった。その内訳は *pbp2x* 変異 23 株，

pbp2b 変異 1 株，*pbp1a+2x* 変異 15 株，*pbp1a+2b* 変異 1 株，*pbp2x+2b* 変異 9 株，*pbp1a+2x+2b* 変異 53 株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると，ペニシリン感受性肺炎球菌（以下 PSSP）15 株 (12.8 %)，ペニシリン中等度耐性肺炎球菌（以下 PISP）49 株 (41.9 %)，ペニシリン耐性肺炎球菌（以下 PRSP）53 株 (45.3 %) である。なお，髄膜炎患者の髄液由来株は遺伝子 *pbp* に変異のない PSSP と，*pbp2x* に変異のある PISP であった。

一方，CLSI による薬剤感受性試験では，PSSP47 株 (40.9 %)，PISP32 株 (27.8 %)，PRSP36 株 (31.3 %) に分類された。この PSSP47 株の内 33 株 (70.2 %) に *pbp* 変異が検出され，PISP32 株の内 19 株 (59.4 %) に *pbp1a+2x+2b* 変異が検出された。

マクロライド耐性遺伝子は 109 株 (93.2 %) に認められた。その内訳は耐性遺伝子 *mefA* 検出が 55 株，*ermB* 検出が 74 株であり，このうち 20 株は *mefA*，*ermB* 共に検出した。

2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果と CLSI による薬剤感受性判定を表 6 に示す。

遺伝子検査の結果，ペニシリン結合蛋白を

表 5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	<i>pbp</i> 変異							計
	変異なし	<i>pbp2x</i>	<i>pbp2b</i>	<i>pbp1a+2x</i>	<i>pbp1a+2b</i>	<i>pbp2x+2b</i>	<i>pbp1a+2x+2b</i>	
PSSP	14	21		8	1	3		47
PISP		1	1	6		5	19	32
PRSP				1		1	34	36
未実施	1	1						2
計	15	23	1	15	1	9	53	117

表 6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	TEM	<i>pbp</i> 変異				計
		変異なし	<i>pbp3-1</i>	<i>pbp3-2</i>	<i>pbp3-1+3-2</i>	
BLNAS		31	3	6	7	47
軽度BLNAR			3	2	24	29
BLNAR					29	29
BLPAR	14	13	1			14
未実施		5	2		7	14
	3		1		2	3
計	17	49	10	8	69	136

コードする遺伝子 *ftsI* の変異部位 *pbp3-1*, *pbp3-2* の何れかに変異を認めた株は 136 株中 87 株(64.0 %)であった。その内訳を TEM 遺伝子別にみると, TEM 遺伝子陰性(β-ラクタマーゼ陰性) 119 株では, *pbp3-1* 変異 8 株, *pbp3-2* 変異 8 株, *pbp3-1+3-2* 変異 67 株であり, TEM 遺伝子陽性(β-ラクタマーゼ陽性) 17 株では, *pbp3-1* 変異 2 株, *pbp3-1+3-2* 変異各 2 株であった。これらを遺伝子変異によって分類すると, β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌(以下 BLNAS) 36 株(26.5 %), β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌(以下軽度 BLNAR) 8 株(5.9 %), β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌(以下 BLNAR) 75 株(55.1 %), β-ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌(以下 BLPAR) 13 株(9.6 %), β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌(以下 BLPACR-), β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌(以下 BLPACR-) 各 2 株(各 1.5 %)である。なお, 細菌性髄膜炎患者の髄液由来株 3 株は, TEM 遺伝子陰性株は *pbp3-1* 変異, *pbp3-1+3-2* 変異各 1 株, TEM 遺伝子陽性株は, *pbp3-1+3-2* 変異を検出し, それぞれ軽度 BLNAR, BLNAR, BLPACR- であった。

一方, CLSI による薬剤感受性試験では, BLNAS47 株(39.5 %), 軽度 BLNAR29 株(24.4 %), BLNAR29 株(24.4 %), BLPAR14 株(11.8 %)に分類された。この BLNAS47 株の内 16 株(34.0 %)に *pbp3-1*, あるいは *pbp3-2* 遺伝子変異を検出し, また, 軽度 BLNAR29 株の内 26 株(89.7 %)に *pbp3-2* 遺伝子変異を検出した。

考 察

A 群溶レン菌は, 小児の咽頭炎の主要な原因菌である。福島県患者発生動向調査によると, 2006 年の A 群溶レン菌感染症は, 最近 6 年間で最も流行し, 報告患者数は 2005 年の倍以上であった。付表に本調査による A 群溶レン菌 T 型別の年次推移を示した。主要な血清型である T-1 型, 4 型, 12 型の 3 種の血清

型の占める割合は例年 50 %以上である³⁾。2006 年は総分離株の 75.3 %を占めた。T-1 型が顕著に増加し, その分離割合は 1989 年以降最も高率(45.0 %)であった。T-1 型は, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(以下劇症溶レン菌感染症)で最も多い血清型で, 2006 年に県内で報告された A 群劇症溶レン菌感染症も T-1 型であった。

A 群抗原を持つ *S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* は, 本調査では 2004 年に初めて報告した¹⁾。2005 年の分離はないが, 2006 年は 9, 10 月に相双, 郡山地区で 4 株分離され, 今後の増加も考えられる。A 群抗原を持つ *S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* と A 群溶レン菌血清型不明株を混同しないよう, 菌種の同定に注意する必要がある。

下痢症患者から分離された大腸菌 39 株では, 2005 年に分離のない O111 が 23.1 %を占め, 2005 年分離率の高かった O126(22.2 %)は 10.3 %に減少した。

分離されたサルモネラの血清型(5 種類)の内 *Agona* は, 2006 年全国の分離数 7 位の血清型⁴⁾であるが, 他は分離の少ない血清型であった。2 株分離された *Schleissheim* は親子, *Heidelberg* は同一患者である。*Heidelberg* の分離間隔は 9 日で, その約 1 ヶ月前にもサルモネラを検出したと報告があり, 初回治療後も 1 ヶ月以上の保菌があったと思われる。稀な血清型は, 飼育動物との関連も疑われるが, 患者の背景は検討できなかった。

エルシニア・エンテロコリチカの生物型は病原性と相関があり, 血清型とも密接な関係がある。4, 5 月に相双地区で分離されたエルシニア・エンテロコリチカ 3 株は, 血清型 3 生物型 4 が 2 株, 血清型 8 生物型 1B が 1 株で病原性のある型であった。

細菌性髄膜炎は, インフルエンザ菌が最も多く, 次いで, 肺炎球菌, B 群溶レン菌, 大腸菌等が原因菌である⁵⁾。重症で予後不良の症例もあり, インフルエンザ菌, 肺炎球菌は耐性化による治療の遅延も問題である。本調査で髄膜炎, 敗血症患者から分離された 9 株を患者の年齢層別にみると, 1 歳未満では *Enterobacter cloacae* (1 株), *Staphylococcus epidermidis* (1 株), インフルエンザ菌(3

付表 A群溶レン菌T型別の年次推移（1989～2006）

	T型	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3264	型不明	計	
1989	60			1	95	37			2	102	1		3	3			7	5	15	331	
%	18.1			0.3	28.7	11.2			0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100	
1990	39			5	101	55		1	14	75	3		2	10			29	8	22	364	
%	10.7			1.4	27.7	15.1		0.3	3.8	20.6	0.8		0.5	2.7			8.0	2.2	6.0	100	
1991	69	3		2	157	16	2	2	24	212	3		2	27			19	21	25	584	
%	11.8	0.5		0.3	26.9	2.7	0.3	0.3	4.1	36.3	0.5		0.3	4.6			3.3	3.6	4.3	100	
1992	175			31	129		1	1	18	89	2		1	12			5	65	143	672	
%	26.0			4.6	19.2		0.1	0.1	2.7	13.2	0.3		0.1	1.8			0.7	9.7	21.3	100	
1993	85			35	190	1			34	123	4		24	17			31	61	81	686	
%	12.4			5.1	27.7	0.1			5.0	17.9	0.6		3.5	2.5			4.5	8.9	11.8	100	
1994	110			15	172	2			21	265			95	9		1	40	18	36	784	
%	14.0			1.9	21.9	0.3			2.7	33.8			12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100	
1995		1		2	116	2			9	122			9	4			36	17	14	332	
%		0.3		0.6	34.9	0.6			2.7	36.7			2.7	1.2			10.8	5.1	4.2	100	
1996	125				103	111			7	41			4				18	7	54	470	
%	26.6				21.9	23.6			1.5	8.7			0.9				3.8	1.5	11.5	100	
1997	82	4			66	39			7	61				4			25	11	17	316	
%	25.9	1.3			20.9	12.3			2.2	19.3				1.3			7.9	3.5	5.4	100	
1998	58	17			57	37			6	100				1		42	43	10	18	389	
%	14.9	4.4			14.7	9.5			1.5	25.7				0.3		10.8	11.1	2.6	4.6	100	
1999	55	5			68	3		1	3	59	4			1			66	42	6	44	357
%	15.4	1.4			19.0	0.8		0.3	0.8	16.5	1.1			0.3		18.5	11.8	1.7	12.3	100	
2000	51	4			22	34			1	74		1		6			16	8	14	10	241
%	21.2	1.7			9.1	14.1			0.4	30.7		0.4		2.5			6.6	3.3	5.8	4.1	100
2001	84	5	9		46	7			1	97	1						6	10	8	5	279
%	30.1	1.8	3.2		16.5	2.5			0.4	34.8	0.4						2.2	3.6	2.9	1.8	100
2002	23	17	40		97	3			4	58							11	18	5	3	279
%	8.2	6.1	14.3		34.8	1.1			1.4	20.8							3.9	6.5	1.8	1.1	100
2003	24	1	17		107				1	99	1				1	11	12	27	6	307	
%	7.8	0.3	5.5		34.9				0.3	32.2	0.3				0.3	3.6	3.9	8.8	2.0	100	
2004	80	1	2	42	18				4	73	1					8	4	11	4	248	
%	32.3	0.4	0.8	16.9	7.3				1.6	29.4	0.4					3.2	1.6	4.4	1.6	100	
2005	21		15	33	19				4	20						4	3	6	2	127	
%	16.5		11.8	26.0	15.0				3.1	15.7						3.1	2.4	4.7	1.6	100	
2006	138		3	52	44				9	41	3						6	9	2	307	
%	45.0		1.0	16.9	14.3				2.9	13.4	1.0						2.0	2.9	0.7	100	
計	1,279	58	177	1,653	428		3	5	169	1,711	23	1	140	94	1	165	356	309	501	7,073	
%	18.1	0.8	2.5	23.4	6.1		0.04	0.1	2.4	24.2	0.3	0.01	2.0	1.3	0.01	2.3	5.0	4.4	7.1	100	

株）であり，インフルエンザ菌分離患者以外は早産，超低出生体重児，水痘症などの基礎疾患を有していた．高年齢層（62～80歳）では，*Acinetobacter radioresistens*（1株），*Cryptococcus neoformans*（1株），肺炎球菌（2株）であり，糖尿病，くも膜下出血などの基礎疾患を有していた．

髄膜炎の原因となるインフルエンザ菌はほとんどが血清型 b 型であり，本調査でも同様であった．世界 100 カ国以上でインフルエンザ菌 b 型ワクチンを使用し髄膜炎予防効果が認められている．日本も任意接種ではあるがワクチンが承認され，今後，予防対策が取られることとなった．

肺炎球菌，インフルエンザ菌は細菌性髄膜炎と共に呼吸器感染症の主要な病原菌である．分離された肺炎球菌 117 株，インフルエンザ菌 136 株（髄液由来 5 株，呼吸器由来 248 株）は，生方の報告⁵⁾と同様に 1 歳をピーク

とした低年齢層に多いが，2005 年の調査よりも 0～2 歳の占める割合が低下し，特にインフルエンザ菌は 0～1 歳の他に 4～5 歳にもピークがみられた．

当所では 2002 年から肺炎球菌とインフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査を実施している^{1) 6-8)}．今年，ペニシリン耐性遺伝子が認められた肺炎球菌は 87.2 %で，最も高かった 2005 年 92.4 %よりはやや低くなったものの耐性が高率に維持されている状況である（2002 年 84.7 %，2003 年 80.5 %，2004 年 87.2 %）．一方，肺炎球菌のマクロライド耐性に関しては，93.2 %が耐性遺伝子を保有し，2002 年 79.5 %，2003 年 77.9 %，2004 年 91.3 %，2005 年 91.6 %で，マクロライド耐性化が進んでいる．

インフルエンザ菌のペニシリン耐性遺伝子保有率は 2003～2005 年では，2003 年 71.8 %，2004 年 50.7 %，2005 年 46.9 %と耐性遺伝子

保有の減少傾向が認められたが、2006 年は 64.0 %で再び耐性遺伝子保有が増加した。また、TEM 遺伝子陽性株も、2003 年 28.9 %、2004 年 1.4 %、2005 年 7.0 %と減少傾向にあったが、2006 年は 12.6 %と増加傾向を示した。しかし、TEM 遺伝子陽性株の内、BLPACR-⁺、BLPACR-⁻ の占める割合は 23.5 %で、2005 年 22.2 %とほぼ同率で、2003 年 74.4 %より低かった。

髄液検出菌に限れば、肺炎球菌、インフルエンザ菌による髄膜炎 5 例の内、4 例の分離菌がペニシリン耐性遺伝子を保有している状況であった。

表 5、表 6 に示したように、耐性遺伝子による薬剤感受性は、CLSI による薬剤感受性よりも耐性側にシフトしている。特に、インフルエンザ菌では薬剤感受性上の BLNAS が、遺伝子では BLNAR に判定されることもあり、耐性遺伝子検出は正確な薬剤耐性菌の状況把握に有用である。

まとめ

- 1 2006 年 1 月から 12 月まで採取された検体 706 件から 676 株の細菌を分離した。
- 2 A 群溶血性レンサ球菌 307 株は T-1 型が 45.0 %を占めた。
- 3 A 群溶血性レンサ球菌は 1 ~ 6 月に 89.6 %が検出され、患者の年齢は 4 ~ 7 歳が 65.8 %を占めた。
- 4 他の溶レン菌は B 群 8 株、C 群 3 株、G 群 25 株、A 群 *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* 4 株を分離した。B 群溶レン菌の血清型は、Ib 型 3 株、NT6 型 2 株、JM9 型、型、型不明各 1 株である。
- 5 腸管系病原菌はサルモネラ 7 株、エルシニア・エンテロコリチカ 3 株、カンピロバクター・ジェジュニ、腸炎ビブリオ各 1 株、下痢原性大腸菌 39 株を分離した。
- 6 サルモネラの血清型は 5 種類で、Heidelberg、Schleissheim 各 2 株、Hvitittingfoss、Richmond、Agona 各 1 株である。
- 7 エルシニア・エンテロコリチカは血清型 O3 が 2 株、O8 が 1 株である。
- 8 大腸菌の血清型は 11 種類で、O111 が 23.1 %、O1 が 17.9 %を占めた。O157 はペロ

毒素 1 型 2 型遺伝子陽性で、他の大腸菌には毒素遺伝子は認められなかった。

9 髄膜炎からの分離菌は、ペニシリン感受性肺炎球菌、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌、 β -ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌、*Enterobacter cloacae*、*Staphylococcus epidermidis*、*Acinetobacter radioresistens*、*Cryptococcus neoformans* 各 1 株である。

10 肺炎球菌は 117 株、インフルエンザ菌は 136 株分離した。患者の年齢は 1 歳が最も多く、インフルエンザ菌血清型 b 型は 4.4 %検出された。

11 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検査では、87.2 %に変異が認められ、ペニシリン感受性肺炎球菌 12.8 %、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌 41.9 %、ペニシリン耐性肺炎球菌 45.3 %であった。マクロライド耐性遺伝子は 93.2 %に認められた。

12 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査では、64.0 %に変異が認められ、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 26.5 %、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 5.9 %、 β -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 55.1 %、 β -ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 9.6 %、 β -ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌、 β -ラクタマーゼ陽性アモキシシリン/クラバン酸耐性-インフルエンザ菌各 1.5 %であった。

謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

引用文献

- 1) 平沢恭子、須釜久美子、長沢正秋、他。平成 16 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）。福島県衛生研究所年報 2004；22：59-66。
- 2) 小澤奈美、渡邉奈々子、平沢恭子、他。平

成 18 年分離サルモネラ菌の分離状況と薬剤感受性試験について．平成 18 年度福島県衛生研究所研究発表会抄録集．

3)国立感染症研究所．＜特集＞溶血レンサ球菌感染症 2000 ～ 2004．病原微生物検出情報 2004；25：252-258．

4)国立感染症研究所 感染症情報センター
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> 2007/2/13

5)国立感染症研究所．＜特集＞細菌性髄膜炎 2001 現在．病原微生物検出情報 2002；23：31-37．

6)平沢恭子，須釜久美子，長沢正秋，他．平成 14 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2002；20：46-54．

7)平沢恭子，須釜久美子，長沢正秋，他．平成 15 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2003；21：63-70．

8)平沢恭子，須釜久美子，長沢正秋，他．平成 17 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）．福島県衛生研究所年報 2005；23：80-87．

2005/2006 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況について

福島県衛生研究所 微生物グループ ウイルス

要 旨

2005/2006 シーズンの県内のインフルエンザ患者は第 44 週から報告があり，第 4 週をピークに第 34 週まで続いた．ピーク時における定点あたりの報告数は 26.2 人と 2004/2005 シーズンに比べて約半分であった．

分離ウイルス型は，A (H1) 型 (22.4 %)，A (H3) 型 (66.4 %)，B 型 (11.2 %) と A (H3) 型を中心とした 3 種混合の流行であった．B 型はワクチン株と異なるビクトリア系統の株であった．

HI 抗体価の保有状況については，A 型では 19 歳以下において高い保有状況を示したが，20 歳以上では低い保有状況にある．B 型では，特にビクトリア系統において全年齢層において低い保有状況にある．

キーワード：インフルエンザ，A (H3) 型，B 型 (ビクトリア系統)

はじめに

当所では感染症発生動向調査として県内の医療機関より搬入された検体のウイルス検索を行っている．その結果，県内における今シーズン (2005/2006) のインフルエンザは，A (H3) 型を主とし，A (H1) 型と若干の B 型が加わった 3 型による流行であった．昨シーズン (2004/2005) に比べて小規模の流行であった．

そこで，県内における今シーズンのインフルエンザ流行状況を把握するために，分離状況及び患者状況に加え，抗体保有状況の概要を報告する．

材 料

1 ウイルス検索

平成 17 年 10 月から平成 18 年 7 月まで，感染症発生動向調査及びインフルエンザ防疫対策により県内 8 保健所管内の 10 医療機関から搬入された 793 検体 (792 症例) を用いた．検体の内訳は，咽頭ぬぐい液 777 件，髄液 14 件，後鼻腔液 1 件，気管吸引液 1 件であった．

2 血清学的検査

平成 17 年度感染症発生動向調査事業のイ

ンフルエンザ感受性調査として流行前の平成 17 年 8 月 9 日から 9 月 17 日までに，県北地区の健康成人及び相双地区の医療機関受診者の同意を得て採取した血清 247 検体 (0 歳～73 歳) について抗体価調査を行った．年齢階層別の検体数を表 1 に示す．

表 1 年齢階層別の検体数

年齢階層	検体数
0～4	32
5～9	34
10～14	21
15～19	15
20～29	27
30～39	34
40～49	24
50～59	29
60～	31
合計	247

方 法

1 流行状況の把握

福島県感染症週報による患者発生状況について集計した．

2 ウイルス検索および同定

感染症発生動向調査により搬入された検体のうち呼吸器系検体及び髄液については RD-18s ,Hep-2 ,VERO ,及び LLCMK2 ,MDCK の 5 種類の細胞に、インフルエンザ防疫対策検体については MDCK に接種し、2 代継代培養を行った。MDCK 細胞において細胞変性効果 (CPE) が出現したものは、国立感染症研究所 (以下感染研) より分与されたフェレット抗血清を使用し、0.75%モルモット血球による赤血球凝集抑制試験 (以下 HI 試験) により同定を行った。

抗血清使用株を以下に示す。

A/New Caledonia/20/99 (H1 型)(ワクチン株)
A/NewYork/55/2004 (H3 型)(ワクチン株)
B/Shanghai/361/2002 (山形系統)(ワクチン株)
B/Brisbane/32/2002 (ビクトリア系統)

3 血清学的検査

血清を RDE () (デンカ生研製) で処理した後、平成 17 年度感染症流行予測調査実施要領により HI 試験を行った。抗原は感染研より分与された B/Hawaii/13/2004 (ビクトリア系統) 及びデンカ生研製の A/New Caledonia/20/99 (H1 型) , A/New York/55/2004 (H3 型) , B/Shanghai/361/2002 (山形系統) の 4 株を使用した。

結 果

1 流行状況

1) 県内における患者発生状況

今シーズンのインフルエンザ患者報告数を図 1 に示した。県内では第 44 週 (県南、いわき市) の報告で始まり、第 48 週には流行開始の指標と考えられる定点あたりの報告数 1.0 人を超え、以後増加し第 4 週にはピークとなった。その後、減少し、第 22 週には定点あたりの報告数が 0.5 人未満となり終息した。この間の患者報告数の累計は 14,131 人、ピーク時の定点あたりの報告数は 26.2 人となり、昨シーズンに比べて流行の規模は小さく、ピーク時期は約 1 ヶ月早いものとなった (表 2、図 1)。

地域別の患者報告状況を見ると、ピークは相双、いわき市が第 3 週、県中、県南、郡山市は第 4 週、県北、会津は第 5 週、南会津は

表 2 県内のインフルエンザ患者報告数

シーズン	患者数 (40 ~ 32 週)	ピーク時定点 あたりの報告数
2000/2001	5,973	17.5 (11 週)
2001/2002	11,876	29.8 (8 週)
2002/2003	19,144	37.6 (6 週)
2003/2004	15,350	31.8 (5 週)
2004/2005	27,089	53.7 (9 週)
2005/2006	* 14,131	26.2 (4 週)

* 44 ~ 34 週 (感染症発生動向調査による)

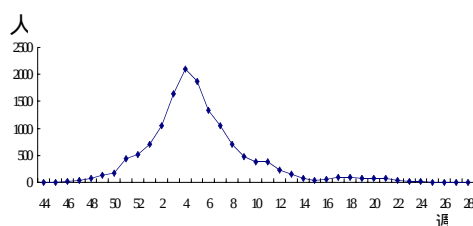


図 1 患者報告数

第 6 週であった (図 2)。特に、県北では、他の地域において流行開始後 5 ~ 8 週でピークに達したのに対して、11 週後にピークとなった。その後の流行の終息は相双で第 10 週、会津、南会津では第 14、15 週に対して、県北、県中、県南、郡山市では第 19 ~ 24 週まで流行が続いた。報告開始の第 44 週から 34 週までの定点あたりの平均報告数は、郡山市、県南が 6.0 人、県北 4.7 人、いわき市 3.3 人、会津、相双が 3.2 人、県中 2.7 人、南会津 2.0 人であった。

2 ウイルス分離状況

1) 週別ウイルス分離状況

県内の週別ウイルス分離状況を図 3 に示した。今シーズンは第 47 週に県北保健所管内の検体から分離された A (H3) 型で始まり、その後、第 2 週には A (H1) 型、第 10 週には B 型が分離され、今シーズンも 3 型の流行であった。各型の分離状況は A (H3) 型は第 47 週から第 7 週に集中し、A (H1) 型は第 2 週から第 16 週に、B 型は第 15 週以降第 22 週まで分離された。各型の分離数は A (H3) 型 165 株 (66.4%) , A (H1) 型 52 株 (22.4%) , B 型 26 株 (11.2%) 合計 232 株であった。昨シーズンと同じ 3 型の混合であっ

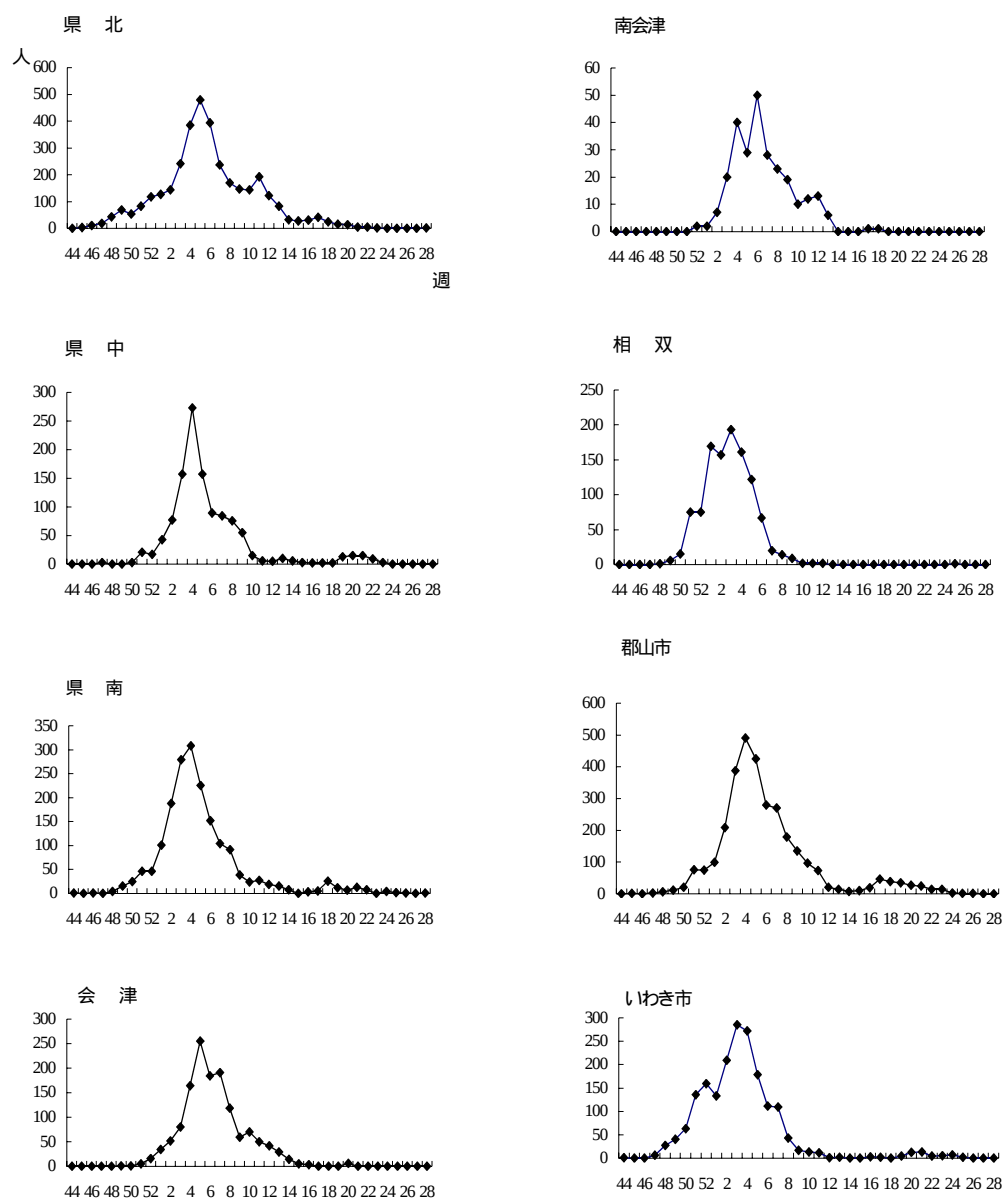


図 2 地域別患者報告数状況

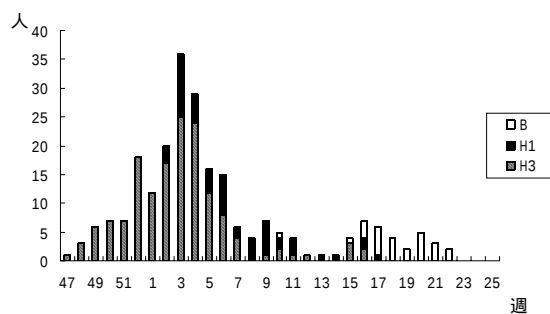


図 3 週別ウイルス分離状況

たが、B 型はピクトリア系統のみ分離され、昨年主流だった山形系統は分離されなかった。

地域別分離状況の推移を見ると（図 4）、県北、県南、郡山市、いわき市においては、早い時期に A（H3）型が分離され、その後、少し遅れて A（H1）型が分離された。B 型は第 10 週に県北で分離後、第 15 週以降各地域で分離した。

2）年齢階層別ウイルス分離状況

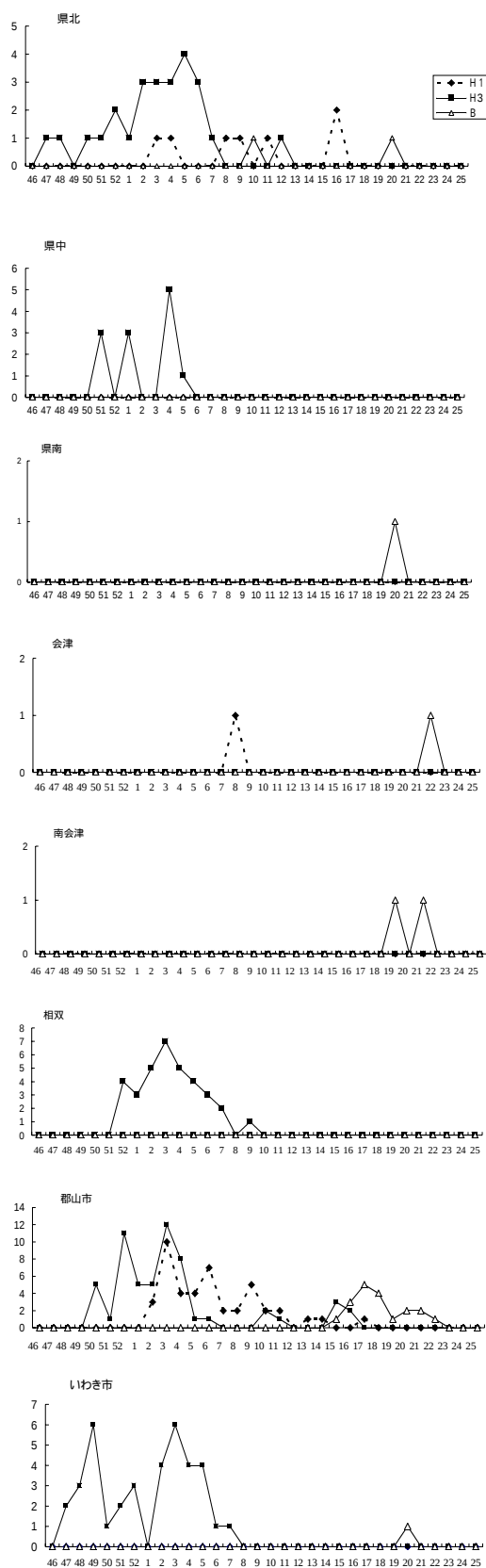


図4 地域別ウイルス分離状況

年齢階層別ウイルス分離状況を図5に示した。分離数は0～4歳が94例（40.5％）、次いで5～9歳81例（34.9％）、10～14歳32例（13.8％）、15歳～25例（10.8％）であった。また、分離型別では、A（H3）型は各年齢層から分離されたが、A（H1）型では0～9歳、B型では10～14歳に集中した。

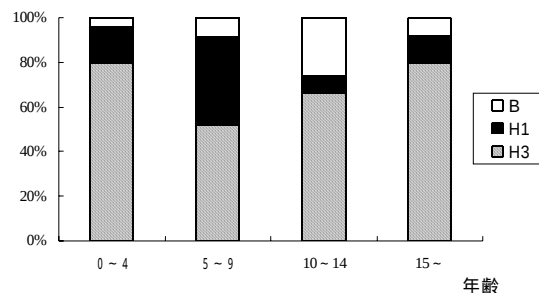


図5 年齢階層別ウイルス分離状況

3）分離陽性者の診断名及び臨床症状

ウイルス分離陽性者の初診時の診断名を表3に示した。診断名はインフルエンザが218例（94.0％）と大部分を占め、次いで上気道

表3 ウイルス分離陽性者の診断名(初診時)

診 断 名		
インフルエンザ	204	
インフルエンザ・気管支炎	1	
インフルエンザ・熱性痙攣	3	
インフルエンザ・急性咽頭炎	2	218
インフルエンザ・上気道炎	1	(94.0%)
インフルエンザ・クルーズ病候群	1	
インフルエンザ・肺炎	1	
インフルエンザ疑い	3	
インフルエンザ脳症	2	
咽頭炎	2	
咽頭炎・気管支炎	1	
急性咽頭炎	3	
急性気管支炎	1	11
急性気管支炎・上気道炎	1	(4.7%)
急性扁桃炎	1	
扁桃炎・熱性痙攣	1	
扁桃炎	1	
下気道炎	1	3
気管支炎	1	(1.3%)
合計	232	

表4 分離陽性者の臨床症状発現率(%)

		上 気 道 炎	下 気 道 炎	頭 痛	関 節 痛	筋 肉 痛	悪 心	嘔 吐	痙 攣	意 識 障 害	咽 頭 痛	呼 吸 困 難	下 痢	異 常 運 動	口 内 炎	咳	発 熱	37.1 ~ 38.0	38.1 ~ 39.0	39.1 ~ 40.0	40.1 ~ 41.0
H1	52例	86.5	3.8	1.9	5.8	1.9	1.9	7.7	3.8	1.9							100.0	7.7	48.1	44.2	
H3	154例	60.3	18.8	1.9	9.1	7.8	2.6	3.2	3.9	2.6	1.3	1.3	0.6	0.6	1.3	0.6	100.0	7.8	48.1	36.4	0.6
B	26例	88.5			7.7	11.5											3.8	96.2	11.5	69.2	15.4
合計	232例	69.4	13.4	1.7	8.2	6.9	2.2	3.9	3.4	2.2	0.9	0.9	0.4	0.4	0.9	0.9	99.6	8.2	50.4	35.8	0.3

炎が11例(4.7%)であった。次に臨床症状を表4に示す。発現率は発熱(99.6%)が最も多く、次いで上気道炎(69.4%)であった。患者の約90%が38.1 ~ 40.0 の発熱であった。

3 血清学的検査(感受性調査)

インフルエンザ感受性調査による HI 抗体価保有状況を表5, 図6に示す。調査に用いた A/New Caledonia/20/99 (H1 型), A/New York/55/2004 (H3 型), B/Shanghai/361/2002 (山形系統) は今シーズンのワクチン株である。

1) A/New Caledonia/20/99 (H1 型, ワクチン株)

本株は、昨シーズンには本県でもわずかながら分離されている。HI 抗体価 10 倍以上の抗体保有率は 5 ~ 39 歳において 70 % 以上と高く、特に 15 ~ 19 歳では 100 % を示した。また、50 歳以上では 20 % 程度の保有であった。

有効防御免疫の指標とみなされる HI 抗体価 40 倍以上においては、5 ~ 9 歳及び 10 ~ 14 歳ではそれぞれ 64.7 %, 86.7 % と高い保有率であった。しかし、50 ~ 59 歳では 20.7 %, 60 歳以上では 9.7 % と低い保有状況であった。

2) A/New York/55/2004 (H3 型, ワクチン株)

本株は、昨シーズン全国で分離されたインフルエンザの 41 % を占めた。HI 抗体価 10 倍以上の抗体保有率は 5 ~ 39 歳では 70 % 以上と高く、特に 15 ~ 19 歳で 100 % の保有率であった。

HI 抗体価 40 倍以上では 5 ~ 19 歳で 64.7 % 以上の抗体保有率であったが、0 ~ 4 歳、20 歳以上では 19.3 % から 34.5 % の抗体保有率

であった。

3) B/Shanghai/361/2002 (山形系統, ワクチン株)

昨シーズンの流行は B 型が主流で、分離株の 56 % を占め、当該株が 99 % を占めた。HI 抗体価 10 倍以上の抗体保有率は 5 ~ 39 歳では 72.7 % 以上の保有率であった。しかし、60 歳以上では 22.6%であった。

HI 抗体価 40 倍以上の抗体保有率は 5 ~ 19 歳では 52.9 % 以上の高い保有率であったが、60 歳以上では 6.5 % と低い保有率であった。

4) B/Hawaii/13/2004 (ビクトリア系統)

本株は今シーズンのワクチン株とは異なるビクトリア系統の株である。

HI 抗体価 10 倍以上の抗体保有率は 20 ~ 29 歳では 51.9 %, 30 ~ 39 歳では 52.9 % の保有率であったが、0 ~ 4 歳、50 歳以上では 20 % 以下の低い保有率であった。

HI 抗体価 40 倍以上の抗体保有率は全ての年齢階層で 30 % 未満の低い保有率であった。高くても 15 ~ 19 歳の 26.7 % で、10 ~ 14 歳、50 ~ 59 歳、60 歳以上では全く保有が認められなかった。

考 察

県内におけるインフルエンザ患者発生状況は、昨シーズンと比較して規模の小さいものとなった。流行の期間は昨シーズンと同期間であった¹⁾。

地域別に見ると、ピーク時の定点あたりの平均報告数が、県北、県中、県南及び郡山市で県平均を上回り、第 44 週から第 34 週の平均でも上回っていた。これらの地域では、他の地域に比べて大きな流行であったと思われる。

今シーズンのウイルス分離状況は A (H3)

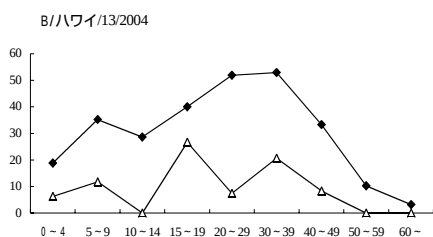
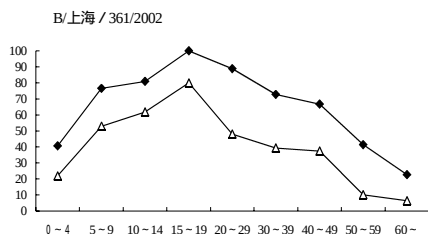
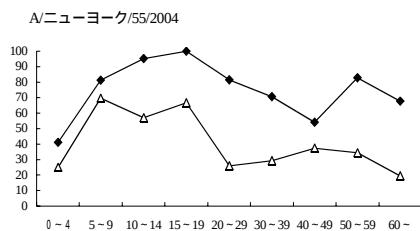
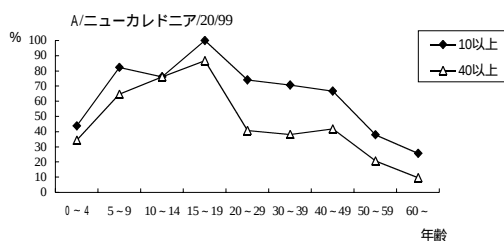


図6 年齢階層別抗体保有状況

型を中心とする3型の流行であった。全国的に昨シーズンはA(H3)型とB型がほぼ同率の分離であったが今シーズンは、A(H3)型が約7割を占めていた²⁾。昨シーズンは世界的にB型はビクトリア系統の分離が多く、日本では山形系統が大部分を占めていたが、今シーズンのB型は山形系統は分離されず、ビクトリア系統のみであったことからビクトリア系統に移行したと思われる³⁾。

我々は感染症流行予測事業の一環として、インフルエンザ流行前に県民の血液を採取してインフルエンザウイルスに対する抗体価を測定し、抗体価の保有状況を調査している。

表5 年齢階層別抗体保有状況

A/ニューカレドニア/20/99 (H1型)		(今季ワクチン株)									
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	5120
0-4	18	2	1	6	2	2		1			
5-9	6	3	3	11	4	1	1	1	2	2	
10-14	5			4	2	2	4		3	1	
15-19		1	1	1	1	4	1	1	1	3	1
20-29	7	8	1	4	3	2	1		1		
30-39	10	8	3	4	5	1		1	1	1	
40-49	8	3	3	2	5	1				1	
50-59	18	3	2	2	2		2				
60+	23	4	1		1	2					
計	95	32	15	34	25	15	9	4	9	8	1

A/ニューヨーク/55/2004 (H3型)		(今季ワクチン株)									
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	5120
0-4	18	3	3		3	2	2	1			
5-9	7	1	3	5	6	7	4	1			
10-14	1	3	5	3	4	3	1			1	
15-19		3	2	4	1	4	1				
20-29	5	6	9	1	1	3	1	1			
30-39	10	9	5	4	2	2	1	1			
40-49	11	3	1	4	3	1	1				
50-59	5	9	5	6	2	2					
60+	10	11	3	3	2		2				
計	67	48	36	30	24	24	13	4	1		

B/上海/361/2002 (山形系)		(今季ワクチン株)									
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	5120
0-4	19	3	3	2	3	2					
5-9	8	3	5	4	8	2	4				
10-14	4	2	2	3	4	4	1	1			
15-19	1	2	3	2	3	2	1	1			
20-29	3	6	5	5	4	4					
30-39	9	8	3	7	3	2	1		1		
40-49	8	3	4	5	2	1		1			
50-59	17	6	3	1	1	1					
60+	24	4	1	1	1						
計	92	36	28	31	28	19	8	3	2		

B/ハワイ/13/2004 (ビクトリア系)		(今季ワクチン株)									
年齢階層	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	5120
0-4	26	2	2	1	1						
5-9	22	8		2	2						
10-14	15	6									
15-19	9		2	2	2						
20-29	13	6	6	2							
30-39	16	8	3	2	5						
40-49	16	3	3	1	1						
50-59	26	3									
60+	30	1									
計	173	37	16	10	11						

2005年の調査ではA/New Caledonia/20/99(H1型、ワクチン株)に対しては高い保有率を示していた。全国的に60歳以上では、低い保有率と言う報告であったが、本県ではさらに低い抗体価の保有状況であった。

A/New York/55/2004(H3型、ワクチン株)は各年齢階層で高い保有状況であった。しかし、60歳以上においては全国と同様の傾向が見られた。

B/Shanghai/361/2002(山形系統、ワクチン株)においても、高い保有率であったが、50~59歳、60歳以上では10%前後と低い値であった。これは、全国的傾向と同じであった。

B/Hawaii/13/2004 (ビクトリア系統) は昨シーズンワクチン株としては用いられていないが、昨シーズンの流行株と別系統の株として用いられた。この株に対する抗体価はすべての年齢階層で 30 %未満の保有率であった。特に、10 ~ 14 歳、50 歳以上では 0 %であった。

まとめ

1 県内における患者発生状況

昨シーズンの約半分の患者発生状況であった。

地域別では、昨シーズンと同様県北、県中、県南、郡山市において他の地区と比較して大きな流行があったと考えられた。

2 ウイルスの分離状況

分離されたウイルスは、A (H1) 型 (22.4 %), A (H3) 型 (66.4 %), B 型 (11.2 %) であり、3 型の混合流行であった。

3 HI抗体保有状況

昨シーズンの保有状況と比較して、抗体価の保有率が上昇したが、A (H1) 型では、60 歳以上で低い保有率であった。A (H3) 型では、5 ~ 19 歳では高い保有率を示したが、それ以外の年齢階層では 30 %前後の保有率であった。B 型においては、山形系統では 50 歳以上を除いて、20 ~ 60 %の保有率を示した。また、ビクトリア系統では全ての年齢階層で低い保有状況であった。

謝 辞

本調査を行うにあたり、検体の採取にご協力いただいた県民の皆様及び各医療機関の諸先生、国立感染症研究所並びに保健所の職員の方々に深謝いたします。

引用文献

- 1) 水澤丈子, 結城智子, 平澤恭子, 他. 2004/2005 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況. 福島県衛生研究所年報 2004; 22: 67-73
- 2) 2004/2005 シーズンのインフルエンザウイルス流行株の解析. 病原微生物検出情報 2005

; 26 (11): 289-293

- 3) 2006/2007 インフルエンザシーズン用ワクチンの推奨株-WHO. 病原微生物検出情報 2006; 27 (5): 126

平成 1 8 年
福島県感染症発生動向調査事業報告書
平成 1 9 年 3 月 発行

発 行：福島県衛生研究所

福島県感染症情報センター

〒960 - 8560

福島県福島市方木田字水戸内16番6号

T E L 024 - 546 - 7104 (代)

F A X 024 - 546 - 8364

E -mail fukushimaeiken@mbp.sphere.ne.jp

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/eiseikenkyuu/>